



Title	『雑阿含』道品念處相應
Author(s)	細田, 典明
Citation	インド哲学仏教学論集, 2, 47-165
Issue Date	2014-10-31
DOI	10.14943/hjipbh.2.47
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/62134
Type	bulletin (article)
File Information	02_03_hosoda.pdf



[Instructions for use](#)

『雑阿含』道品念処相応

細 田 典 明

『雑阿含』の木版刷サンスクリット阿含断片

1904年、R.ピシエル¹によってサンスクリット阿含の存在が初めて明らかになった。この木版刷サンスクリット阿含断片は、表面左端（と裏面右端）に漢字で阿含名・巻番号²・葉番号が、裏面左端（と表面右端）に品名・葉番号がブラフミー文字で記載されている。図1・図2の通り³、第173葉は表面左端には「雑阿含五卷一百七十三上」、裏面右端には"buddha-



1. Pischel[1904a, 1904b]. (=SHT I Kt.-Nr. 612-614). なお614は阿含断片ではない。注5参照。
2. 「巻」は多くの場合「巳」と表記される。この「巻」は漢訳の巻を意味せず、品番号に相当する。なお、*Samyuktāgama*は『雑阿含』と訳し、本稿でも「漢訳『雑阿含経』」と区別する。
3. Depositum der BBAW(=Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften) in der Staatsbibliothek zu Berlin - Preussischer Kulturbesitz Orientabteilung. 写真の掲載を許可されたベルリンブランデブルグ人文科学アカデミーの関係者の方々に記して感謝いたします。なお、第158葉表面左端断片の写真は、山田龍城[1959]口絵に掲載されている。

bhāṣitaḥ"と「仏所説(品)」にあたる品名が記載される。漢字の阿含名表記とブラフミー文字の品名表記は、漢訳『雑阿含経』の錯乱を解決する手がかりになるものである。また、中央左寄り、全5行中2行目から4行目に見られる蓮華文様が特徴的である。

1986年、中谷英明⁴によってこの木版刷サンスクリット阿含の『中阿含』断簡1葉が公表され、説一切有部所伝サンスクリット阿含中、少なくとも四阿含が印行されていたと考えられる。1989年、筆者はこの木版刷サンスクリット『雑阿含』仏所説品外道相應の断片について知見を加え⁵、校訂テキストの連載⁶により説一切有部所属の漢訳『雑阿含経』とよく対応することを示した。「仏所説品」が第「五巻」という点は、『雑阿含経』復元案と異なり、木版刷阿含の他の部分の発見が待ち望まれた。

2012年、この木版刷『雑阿含』の新たな断片について、本来の表面と裏面が剥がされ、その裏面左端にあたる部分(断片1₁) (図5・図6)とこれに接続する部分(断片1₂)と「断片2～6」が、『トルファン目録』第11巻にカタログ番号4442として収められた⁷。「断片6」(図3・図4)には上述の2種の木版刷阿含同様、5行中2行目から4行目に渡る蓮華文様が見られる。

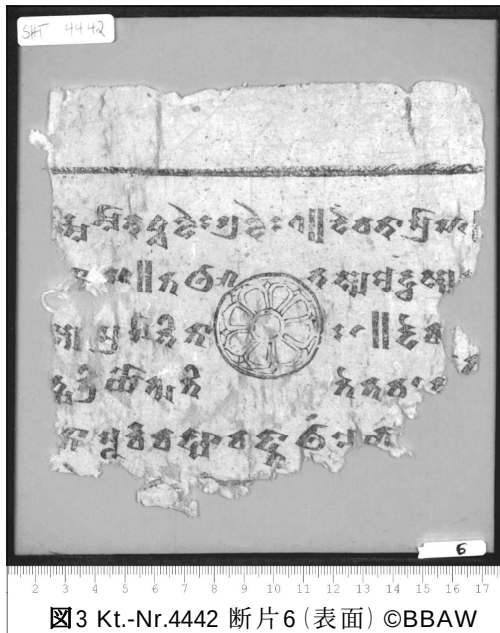


図3 Kt.-Nr.4442 断片6 (表面) ©BBAW



図4 Kt.-Nr.4442 断片6 (裏面) ©BBAW
(剥離された後の裏面で本来の裏面ではない)

4. Nakatani[1986] pp.305–319. 両面の写真を掲載。断片は左端部分を欠くが、蓮華文様から右側部分まで残存し、主に右端部分が残る『雑阿含』断片と併せると、両端両面に阿含名・品名か品番号()・葉番号表記の書式が確認される。

5. 細田[1989a]. それまでの研究史は山田龍城[1959] pp.33-35, p.186参照。

6. 細田[1989b, 1989c, 1991].

7. Klaus Wille, SHT XI, 2012, pp.38-39. 断片1の読み方について、松田和信教授に貴重な意見をいただいた。記して感謝いたします。

『トルファン目録』では品名を記す「断片1₁」左端1行目の二文字を"///[v](a)rga"と読み⁸、葉番号が165であることから「道品」末に属する断片であり、漢訳『雜阿含經』の「道品」散逸部分と対応すると推定する⁹。

ここで、「断片1₁」左端に記される"/// [v](a)rga"と"/// .[v].."の読み方について、第1行目"[v](a)rga"は「道品」のサンスクリット"Mārgavarga"の"varga"を想定させるが、欠損部分が大きく判断できない。第2行目の"[v]"は"v"と読む可能性は低い。『トルファン目録』では漢訳『雜阿含經』との比定はなされていないが、「断片6」第1行目の偈、"/// [s]m. māṭadhvajāḥ prajāḥ·"は"(a)[s]m(i)māṇadhvajāḥ prajāḥ·"とも読み、「我慢衆生幢」を偈の末尾に持つ『雜阿含經』卷36第1012經と以下の通り対応する。

「断片6」 (Bl. 165 Fragn. 6)

第1012經 (T2.264c)[cf.別訳第239經]

1 (a)[s]mimāṇadhvajāḥ prajāḥ· || devatā prāha || /// 我慢衆生幢。時彼天子即復說(c13-14)

2 + .āha || tathāga⊗ tasya buddhasya .. ///

答言。如來等正覺(c17-18)

3 [s]y. prapātītā⊗ ḥ· || de[vat](ā) + ///

摧滅我慢幢。時彼天子(c20-21)

4 [kṣat]r[i]yotpati⊗ te tava · .. + + ///

5 tā pūrvavad=yāvad=gāthāṃ babh[ā] + + + ///

しかし、第1012經は「道品」ではなく、「偈品」天相應に属する。「断片6」は内容上「断片1」に繋がらない。「断片6」と「断片1」は同じように剥離されているが、同じ紙面に印刷されていた確証はない。「断片6」左端2行目は1行目と大きく隔たり、品名以外のものを示す可能性がある。この4点の疑問が新たに生じた。

待望された木版刷『雜阿含』の小断片がようやく確認された。しかし、剥離されたため本来の表面が失われ、品名や品番号については、肝心な部文が半分欠損しているため謎が深まった。

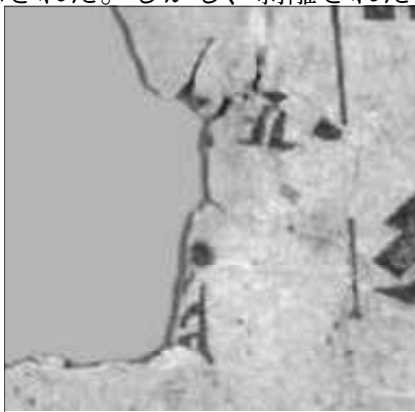


図6 Kt.-Nr.4442 断片1₁
品名にあたる文字部分を拡大©BBAW

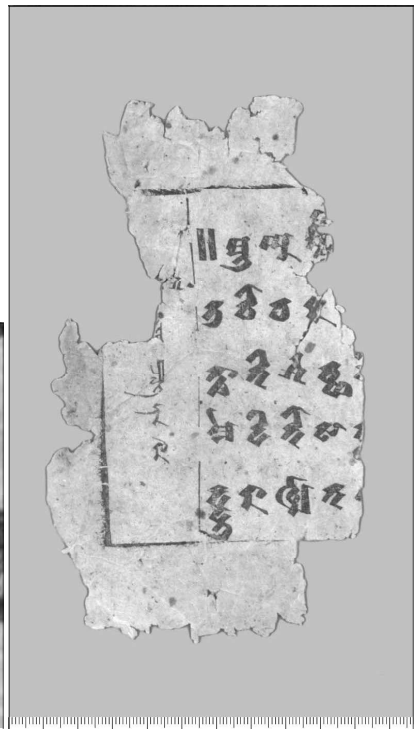


図5 Kt.-Nr.4442 断片1₁ ©BBAW

8. SHT XI p.39, n.4.

9. SHT XI p.39, n.3.

サンスクリット『雑阿含』と関連資料

最近の関連研究として、日本で公開された4点の図書(脚注10,12,13,14参照)とサンスクリット文献データのネット上の利用が挙げられる。平行するサンスクリット資料を、Jin-il Chung¹は『雑阿含経相当梵文断片一覧』として集成した²。また、K.Willeをはじめとするサンスクリットのデータ入力とウェブサイト(<http://gretil.sub.uni-goettingen.de/>)へのアップロードによって、広範なサンスクリット仏典の検索が可能になった。そして『トルファン将来仏教文献サンスクリット辞典』(SWTF)が第26分冊(2014)で"h"迄至り、最終頁(pp.479-480)は"a-, an-"からの「補遺」が続いている。『雑阿含』に関連するサンスクリットの語句を検索すると、この『辞典』「補遺」に掲載すべき箇所や大乘經典や論書における用例が見出される。

その中で、『根本説一切有部毘奈耶』³・『瑜伽師地論』「声聞地」⁴との対応は阿含の伝承上重要である。例えば、第636経は有部律「破僧事」と「声聞地」に平行するサンスクリット文があり、さらに「般若経」にも対応する。仏教用語を多く含む般若経類に阿含の用語が知られることは少なくない。また、『瑜伽師地論』「摂事分」は『雑阿含』の各経(または経群)を教理的に説明するが、「声聞地」で述べたとして省略される場合がある。換言すれば、「摂事分」は「声聞地」を踏まえているのであり、サンスクリット文「声聞地」の参照が必要である。

そして、本庄良文⁵による『俱舍論註ウパーイカー』の訳註がまとめられて出版されたことも、阿含研究の貴重な成果である。これら近年の研究によって、漢訳のみでは困難であった阿含との参照が可能になり、和訳と注釈は、阿含の理解を深める意義深いものである。

1. Chung, Jin-il, *A Survey of the Sanskrit fragments Corresponding to the Chinese Samyuktāgama*, 山喜房佛書林, 2008. 対照表では該当する経について、例えば[Chung V-13]と注記し、"V" は道品を表す品番号、"13"はChung による品内の個別番号を表す。本書の概要については、細田典明(書評・紹介)「鄭鎮一著『雑阿含経相当梵文断片一覧』(山喜房佛書林)」(『印度哲学仏教学』第23号, 2008, pp.383-384)参照。

2. 『雑阿含』に対応する梵文(直接的A]、間接的B])とともに「『雑阿含』梵文断片」とする。『雑阿含』に相当するこれらの梵文資料を四種類(C]~F]、基本的には阿含経以外の梵文としてC]、短文をD]、仏教用語に関する相当文をSaṅgとDaśoを代表例としてE]、定型句をF])に分類する(Chung pp.26-29)。

3. 『薬事』の部分は「八尾[2013]」によって全訳された。『薬事』全体の阿含の引用についてもまとめられ(pp.xxi-xxv)、阿含引用部分の訳註にも考察が加えられている。

4. サンスクリット語テキストの校訂と和訳。声聞地研究会『瑜伽論 声聞地』I・II, 山喜房佛書林, 1998, 2007 (Śbh I, Śbh II)。ここに付せられる「科文番号」は「声聞地」の箇所を知る上で参考になり、対照表では脚注に注記する。なお、「第三瑜伽処」は『大正大学総合佛教研究所年報』第30号(2008)以降に連載中。

5. 『俱舍論註ウパーイカーの研究 訳註篇』上・下, 法蔵館, 2014 (Hj と略)。対照表では、整理番号と該当頁(上・下巻通し頁)記した(例えば"Hj [6027] p.728)。

油鉢の譬喩

鉢に満ちた胡麻油を運ぶ間、美女に注意力を奪われて一滴でも零したならば、背後で見張る男の刃に掛かる。四念處の集中力を譬えたこの第623経「油鉢の譬喩」は、「油断」の語源とも言われている⁶。この譬喩用例は数多く、仏典以外にも知られ⁷、以下に付言する。

『雑阿含』第623経に対応する『サンユッタ・ニカーヤ』47.20 (*Janapadakalyāṇī*) は『テーラパッタ・ジャータカ(Talapattajātaka [J.96])』に継承されるが、「声聞地」でも経文の大半を引用する⁸。また、谷川泰教⁹によって、『スッタニパータ』から「油鉢の譬喩」を含む『サンユッタ・ニカーヤ』と漢訳『雑阿含経』、そして『テーラパッタ・ジャータカ』に至る過程と『イシ・バーシヤーイム』の用例が検討された。『スッタニパータ』第4章、サーリプッタとの問答の中に「油鉢の譬喩」との関連性が指摘された。この卓見は、『スッタニパータ』"ekodi nipako sato"(962), "satimā suvimuttacitto ... ekodibhūto" (975)の句が、阿含の定型句"eko vyapakṛṣṭo 'pramatta ātāpī prahitātmā."の由来に関与する示唆を与えている。

インド古典においても、『マハーバーラタ』「解脱法品」のヤージュニャヴァルキヤとジャンナカ王の対話¹⁰をはじめ、『カター・サリット・サーガラ』¹¹等にも知られる。

近年『マハーバーラタ』のTVドラマ化され、インド国内で高視聴率を得た。2012年インドで放映された「ウパニシャッド・ガンガー」の中で、曲芸師の間を剣を手にした男を背にして油鉢を注意深く運ぶシュカ



Image of Shukadev carrying a full of vessel through the marketplace from Episode 50 of Upanishad Ganga, © Central Chinmaya Mission Trust (Chinmaya Creations).

6. 『望月佛教大辞典』10, 「油断」, p.1129a-b.

7. 用例については、林隆嗣 "The Vimuttimaggā and Early Post-Canonical Literature (I)" 『仏教研究』第34号, 2006, pp.114-115, n.35参照。さらに、『仏教ヨーガ書』(ed. Schlingloff, *Ein buddhistisches Yogalehrbuch*, 1964), p.49; 162V3 ≈ 165V6, 160R3, 118V4; 118V 3; 125R2や、ヴェーダ補助文献『ゴビラ・グリヒヤ・スートラ』(Gobhila-Gṛhya-Sūtra, ed. F. Knauer, 1884) 3,5,30にも見られる。また、『大智度論』巻15(T25, p.173); Lamotte, *Traité* [1944-]: II pp.942-943; I pp.243-244; III p.1694参照。

8. Cf. Alex Wayman, *Analysis of the Sravakabhūmi Manuscript*, 1961, pp.122-124.

9. 谷川泰教「油鉢の喩 —Isibhāsiyāim 研究 IV—」『高野山大学創立百十周年記念高野山大学論文集』, 1996, pp.147-161参照。

10. *Mahābhārata*.12, 304, 22-23 (crit. ed.).

11. *Kathāsaritsāgara*, VI [27], 35-57 (Bombay ed., 1889; ed. H. Brackhous, 1860, p.5).

のシーンが見られる。¹²

凡例にかえて

本稿は漢訳『雑阿含経』道品念処相應について、チベット訳『俱舍論註ウパーイカー』に引用される該当経と『瑜伽師地論』「摂事分」の該当箇所を対照し、平行するサンスクリット文を収集したものである。これにより、失われたサンスクリット文を推定する判断材料を提供し、漢訳とパーリ文の対照からは困難であった諸問題を解決する糸口としたい。

原則として、見開き左頁左段に漢訳『雑阿含経』、右段に平行するサンスクリット文、右頁左段に『ウパーイカー』チベット訳、右段に「摂事分」チベット訳と漢訳を挙げ、対照の便宜を図った。しかし、『ウパーイカー』所引の経は限られるため、「摂事分」の記事を適宜右頁左段に送り込んだ。一方、『ウパーイカー』や「摂事分」が対応箇所を持たない場合は、余白頁のないよう、漢訳『雑阿含経』と平行するサンスクリット文を右頁に配した。さらに用語の比較対照を余白欄に掲載して、参照の便宜を図った。対応する用語を太字にした場合もあるが、多用を避けた結果、全体的に統一がとれず、改正の必要がある。

漢訳『雑阿含経』は、経毎に「如是我聞一時」から始め、経末に「聞佛所説歡喜奉行」等の定型句を置くが、サンスクリット文では、経の冒頭と経末の定型句は省略する傾向にあり¹³、この定型句が連続する場合は、文字のポイントを下げた。また、その他の定型句について、漢訳には様々な異読が見られるが、『大正蔵』の通り掲載し、訂正を必要とする箇所には*を入れ、漢文読み下しの[*]内に字句等を補い、一部整合性を計ったが、内容の理解を促すものに過ぎない。段落番号に続けたローマ字(a, b...)は、比較対照の上で分割した場合に用いた。

サンスクリット文は引用した原文をそのまま掲載し、連声等の文法規則による訂正を控えた。固有名詞等が異なる場合は、その部分を想定した語に置き換えイタリックとした。また、平行するサンスクリット文がない場合、対応するパーリ文を参考として対照させた。この場合もイタリック表記にし、文字のポイントを下げた。

12. Upanishad Gangā, directed by Chandraprakash Dwivedi. 全52話。タイトルに「ウパニシャッド」を冠し、ドラマの最初と最後に、テーマに相應したウパニシャッドをはじめする聖句を合唱し、MCが再現ドラマを導く。ウパニシャッドの内容をドラマ化したものも含まれ、第17話・第30話はヤージュニャヴァルキヤを扱う。第50話「ウッダーラカ(Uddālaka)」は『チャンドギヤ・ウパニシャッド』第6章のウッダーラカとシュヴェータケートウの対話からなるが、その後『マハーバーラタ』12.311以降に知られるジャナカ王とシュカの対話(Janaka-Śukadev)が収められる。文献ではジャナカ王とヤージュニャヴァルキヤの対話に油鉢の譬喩が含まれるが、このドラマではシュカとの対話でこの譬喩が再現される。URL: www.upanishadganga.com/; YouTubeサイト: <http://www.youtube.com/user/upanishadganga>.

13. 細田[1989b, 1989c, 1991]参照。

本対照表は表記上統一のできなかった箇所が何点かある。新資料の発見や研究者の指摘によって、今後も追加や訂正が必要である。その点では随時更新可能なネット上での公開が望ましいが、現段階では基礎資料として提示し、将来に備える次第である。

参考文献・略号¹⁴

《『雑阿含』の木版刷サンスクリット阿含断片》【】内は略号

R. Pischel, Bruchstücke des Sanskritkanons der Buddhisten aus Idyikutšari, Chinesisch-Trukestän. *Sitzungsberichte der Königlich Preussischen Akademie der Wissenschaften zu Berlin*, 1904, Erster Halbband, 1904, pp.807-827 mit Tafeln VI – VIII. [Pischel[1904a]]

_____, Neue Bruchstücke des Sanskritkanons der Buddhisten aus Idyikutšari, Chinesisch-Trukestän. a.a.O., 1904, Zweiter Halbband, pp.1138-1145 mit Tafeln X – XII. [Pischel[1904b]]

山田龍城『梵語仏典の諸文献』平楽寺書店, 1959. [山田龍城[1959]]

Nakatani[1986]: Nakatani Hideaki(中谷英明), Un fragment xylographique de l'Upāli-sūtra conservé au Musée Guimet. *Bulletin d'Études Indiennes* 4, 1986. pp.305–319.

細田典明「—R.ピシエル公表梵文断簡について—」『印度学仏教学研究』第37巻第2号, 1989, pp. 28-34. [細田[1989a]]

_____, 梵文『雑阿含經』仏所説品外道相應(Ⅰ)『藤田宏達博士還暦記念論集: インド哲学と仏教』平楽寺書店, 1989, pp.185-206. [細田[1989b]]

_____, 「同(Ⅱ)」『印度哲学仏教学』第4号, 1989, pp.140-153. [細田[1989c]]

_____, 「同(Ⅲ)」『印度哲学仏教学』第6号, 1991, pp.172-191. [細田[1991]]

_____, 「『雑阿含經』道品の考察 — 失われた『雑阿含經』第25巻所収「正断相應」を中心に — 」『東方学』第105号, 2006, pp.1-15(L). [細田[2003]]

_____, 『雑阿含』道品と『根本説一切有部毘奈耶藥事』『仏教学』第48号, 2006, pp.1-20(L.) [細田[2006]]

声聞地研究会『瑜伽論 声聞地』Ⅰ・Ⅱ, 山喜房仏書林, 1998, 2007. [= Śbh I, Śbh II]「第三瑜伽処」は『大正大学総合佛教研究所年報』第30号(2008)以降に連載。

Jin-il Chung, *A Survey of the Sanskrit fragments Corresponding to the Chinese Samyuktāgama* (『雑阿含經相當梵文断片一覧』), 山喜房佛書林, 2008. [= Chung]

SHT = *Sanskriithandschriften aus den Turfanfunden*.

SWTF = *Sanskrit-Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden und der kanonischen Literatur der Sarvāstivāda-Schule*. Göttingen: Vandenhoeck &

14. その他の略号は、*Abkürzungsverzeichnis zur buddhistischen Literatur in Indien und Südostasien*, herausgegeben von Heinz Bechert (SWTF, Beiheft 3, Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1990), SWTF I-IV (1994-2009), Chung (2008) pp.35-38参照。

- Ruprecht. Band I: Vokale. 1994; Band II: k / dh. 2003; Band III: n / m. 2008; Band IV: y / h.; 21. Lieferung (2009) - 26. Lieferung (2014).
- 八尾史『根本説一切有部律藥事』, 連合出版, 2013. 【八尾[2013]】
- 本庄良文『俱舍論註ウパーイカーの研究 訳註篇』 上・下, 法蔵館, 2014.
[= Hj]
- 《「油鉢の譬喩」の参考文献》
- W. Schubring, *Isibhāsiyāṃ; nebst dem revidierten Text*, 1969, Alt- und Neu-indische Studien 14 (=Nachrichten der Akademie der Wissenschaften in Göttingen, Jahrg. 1942 Nr.9, pp.489-576).
- É. Lamotte: *Le traité de la grande vertu de sagesse de Nāgārjuna (Mahāprajñāpāramitāśāstra)*, Tome I (1944), Tome II (1949), Tome III (1970), Tome IV (1976), Tome V (1980).
- A. Wayman, *Analysis of the Śrāvakabhūmi Manuscript*, Berkeley: University of California Press, 1961. [= Wayman[1969]]
- D. Schlingloff, *Ein buddhistisches Yogalehrbuch*, 1964. その後の研究を附して、再版。 *Ein buddhistisches Yogalehrbuch: Unter Beigabe aller seit bekannt gewordenen Fragmente*, Gebundene Ausgabe, 2006. [=YL]
- 松濤誠廉「聖仙の語録」, 『創立40周年記念論文集』九州大学文学部, 1966, pp.57-140.
- 谷川泰教「油鉢の喩 — Isibhāsiyāṃ 研究 IV —」『高野山大学創立百十周年記念 高野山大学論文集』, 1996, pp.147-161.
- 中村了昭『マハーバーラタの哲学』下, 平楽寺書店, 2001.
- 林隆嗣 "The Vimuttimagga and Early Post-Canonical Literature (I)" 『仏教研究』第34号, 2006.

《対照表》

- AD = *Abhidharmadīpa with Vibhāṣāprabhāvṛtti*, ed. P. S. Jaini, 2nd ed., Patna: Kashi Prasad Jayaswal Research Institute, 1977.
- AdSPG = *Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā*, ed. E. Conze, *The Gilgit manuscript of the Aṣṭādaśasāhasrikāprajñāpāramitā*, (Serie Orientale Roma, 36, 46) Roma: 1962, 1974.
- ASP = *Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā*, ed. P.L. Vaidya, (Buddhist Sanskrit Texts, 4), Darbhanga : The Mithila Institute, 1960.
- AKBh = *Abhidharmakośabhāṣyam of Vasubandhu*, ed. P. Pradhan, 2nd ed., Patna: Kashi Prasad Jayaswal Research Institute, 1975.
- AK-bh(Pā) = Bhikkhu Pāsādika, *Kanonische Zitate im Abhidharmakośabhāṣya des Vasubandhu*. Göttingen : Vandenhoeck & Ruprecht, 1989. (略号の後、[]内に整理番号、AKBhの頁・行を表記)
- AK-up = *Abhidharmakośopāyikā nāma Tīkā* (Tibetan tr., P. No.5595).
- AKvy = *Sphuṭārthā Abhidharmakośavyākhyā by Yaśomitra*, ed. U. Wogihara, Tokyo: 1932-1936.

- ARIRIAB = Annual report of the International Research Institute for Advanced Buddhism at Soka University (創価大学国際仏教学高等研究所年報).
- AVŚ = *Avadānaśataka*, ed. P.L. Vaidya, (Buddhist Sanskrit Texts 19), Darbhanga: 1958. / Ed. J.S. Speyer, (Bibliotheca Buddhica 3), St. Petersburg: 2 vols., 1906-1909.
- CBETA = Chinese Buddhist Electronic Text Association.
- D. = Derge ed.
- DbSū = *Daśabalasūtra*.
- DbSū(2) = Chinese Samyuktāgama sūtra 348 (T 99, II 98a13-b5), Based on the ed. by E. Waldschmidt: "Ein zweites Daśabalasūtra", Mitteilungen des Instituts für Orientforschung 6 (1958), pp. 388_392, 395f. [Nachdruck: E. Waldschmidt. Von Ceylon bis Turfan, Schriften zur Geschichte, Literatur, Religion und Kunst des indischen Kulturraumes (Festgabe zum 70. Geburtstag), Göttingen 1967, pp. 353-357, 360-361].
- Divy = *Divyāvadāna*, ed. P.L. Vaidya, (Buddhist Sanskrit Texts ; 20) Mithila: 1959.
- Enomoto Fumio(榎本文雄), *A Comprehensive Study of the Chinese Saṃyukāgama: Indic Texts Corresponding to the Chinese Saṃyukāgama as Found in the Sarvāstivāda-Mūlasarvāstivāda Literature. Part 1: *Saṃgītanipāta*, Kyoto: 1994.
- GRETEL = Göttingen Register of Electronic Texts in Indian Languages.
- MBh = *Mahābhārata*, critical ed. Bhandarkar Oriental Research Institute, Pune: 1919-1966.
- MSV = *Mūlasarvāstivāda vinayavastu*, ed. N. Dutt. Gilgit Manuscript, vol. 3. Calcutta, Srinagar: 1942-1950.
- Mv = *Mahāvastu (-Avadāna)* ed. Émile Senart, 3 vols., Paris: 1882-1897.
- NidSa = *Nidānasamyukta*, ed. C.Tripāṭhī, *Fünfundzwanzig Sūtras des Nidāna-samyukta*. (Sanskrittexte aus den Turfanfunden, VIII), Berlin: 1962.
- P. = Peking ed.
- Lita Peipina, *The Piṃgalātreyā sūtra of the (Mūla)sarvāstivādins, its edition and study: investigation of the Piṃgalātreyā sūtra's status within the Dīrghāgama "Collection of Long (Discourses of the Buddha)"*. Oslo, 2008.
- PSP = *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā*.
- SBV = *Saṅghabhedavastu*, ed. R. Gnoli. *The Gilgit Manuscript of the Saṅghabhedavastu, Being the 17th and Last Section of the Vinaya of the Mūlasarvāstivādin*, (Serie Orientale Roma, 49), Roma: 1977-78.
- Sh. = *Śrāvaka bhūmi of Ācārya Asaṅga*. ed. K. Shukla, Patna: K. P. Jayaswal Research Institute, 1973.
- T = Taisho Daizokyo (『大正藏』; 続けて巻, 頁段(行)を表記).
- VS = *Vastusamgrahaṇī of the Yogācārabhūmi* (Tibetan tr., P. No.5540), 『瑜伽師地論』「摂事分」(VS に続けて章節番号[2.1-4.9]を表記).
- Vsm = *Visuddhimagga*. ed. PTS, 3 vols., London: 1922-31.

(T2,170c) 雜阿含經 卷第二十四
宋天竺三藏求那跋陀羅譯
第五誦道品第一 [念處相應]

(605)¹

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。是の如く我聞けり。一時佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 有四念處。何等(T2,171a)爲四。四念處有り。何等をか四と爲す。

3. 謂身身觀念處。受心法法觀念處。謂わく、身の身觀念處、受・心・法の法觀念處なり。

4. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati
jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. catvārīmāni bhikṣavaḥ
smṛtyupasthānāni. katamāni catvāri.

3. kāye kāyānupaśyanā-²
smṛtyupasthānam.
vedanāyāṃ citte dharmeṣu
dharmānupaśyanāsmṛtyupasthānam iti.

4. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam
abhyānandan. abhinandyaṇumodya
bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.

1 [Chung V-13]. Cf. 『大毘婆沙論』卷187 (T27, p.936c).

2 もしくは "kāyānupaśyanā smṛtyupasthānam". Cf. SWTF s.vv. "kāyānupaśyanā, (kāyānu)paśyanāsmṛty(u)p(āsthāna)"; "cittānupaśyanā", "cittānupaśyanā-smṛtyupa(s)th(āna)"; "dharmānupaśyanā", "dharmānupaśyanā-smṛtyupasthāna"; "smṛtyupasthāna".

AK-bh(Pā) [412] 342,5 “kāye
kāyānupaśyanāsmṛtyupasthānam” iti
vacanāt.

AK-up Hj [6027] p.728.
lus la lus kyi rjes su lta zhing dran pa
nye bar gnas so zhes bya ba la,

1. gleng gzhi ni mnyan du yod pa na'o
||

2. dge slong dag dran pa nye bar gzhag
pa ni bzhi po 'di dag ste, bzhi gang zhe
na;

3. lus la lus kyi rjes su lta zhing dran
pa nye bar gzhag pa dang, tsor ba
dang, sems dang, chos rnams la chos
kyi rjes su lta zhing dran pa nye bar
gnas so zhes gsungs so || ||

【VS 2.1 安立 (rnam par gzhag pa
[*vyavasthāna])】

de la rnam par gzhag pa ni dran pa nye
bar gzhag pa la sogs pa nas | 360b4
此中安立四念住為初。

【VS 2.2 邊際 (mthar thug)】
shes bya'i gzhi thams cad dran pa nye
bar gzhag pa bzhis mthar thug par rig
par bya'o | 360b5
又由四念住。應知一切所知事邊際。

shes bya'i gzhi'i mthar thug pas ni shes
bya'i gzhi mthar thug par rig par bya'o |
360b5
由所知事邊際故。復應了知。智事邊
際。

(606)³

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 有四念處。何等爲四。
四念處有り。何等をか四と爲す。

3. 謂身身觀念處。受心法法觀念處。
謂わく、身の身觀念處、受・心・法の法觀念處なり。

4a. 如是比丘。⁴於此四念處。
是の如く、比丘は此の四念處に於いて、

4b. 修習満足⁵。
修習満足し、

4c. 精勤方便。正念正知。
精勤方便して、正念・正知もて

4d. 應當學⁶。
應當に學すべし。

5. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane
anāthapiṇḍadāsyārāme. tatra bhagavān
bhikṣūn āmantrayate.

2. catvārīmāni bhikṣavaḥ
smṛtyupasthānāni. katamāni catvāri.

3. kāye kāyānupaśyanā-
smṛtyupasthānam. vedanāyāṃ citte
dharmaṣu dharmānupaśyanā-
smṛtyupasthānam iti.

4a. iha bhikṣur caturṇām
smṛtyupasthānānām

4b. (Śbh II 174)
bhāvanāparipūraye

4c. (MPS14.25; 10.14)
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān

4d. cf. (DbSū(2) 11)
ity evaṃ vo bhikṣavaḥ śikṣitavyaṃ //

5. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam
abhyānandan. abhinandyaṇumodya bhagavato
'ntikāt prakrāntāḥ.

3 Cf. 『大毘婆沙論』卷187 (T27, p.936c); SN.47.24 Suddhakam (V pp.173-174).

4 第612經末(612a)「一切四念處經。皆以此總句」と比較すると、「起増上欲」にあたる句を欠く。「摂事分」では「欲, 'dun pa」の語が見られ、「声聞地」正断の箇所では「生欲, chandaṃ janayati」とある。「声聞地」は正断についての文であり「正念正知」の句はないが、「摂事分」にもない。次頁参照。

(606) 於此四念處。修習満足。 精勤方便。正念正知。

(612a) 於四念處。 修習。 起増上欲。 精勤方便。正念正智。

(610) 精勤方便。正念正知(正智正念)。

5 Cf. "tathā hy uktam iti vistaraḥ. bhāvanāparipūriḥ tām gacchaty āryāṣṭāṃgo mārgaḥ. tasmin gacchati catvāri smṛtyupasthānāni bhāvanāparipūriṃ yacchaṃti. yācat sapta bodhyaṃgānīti." (AKvy 604)

6 Cf. (Śbh II 186) yathā kāye kāyānupaśyanāsmṛtyupasthānam uktam evaṃ vedanāyāṃ citte dharmeṣu yathāyogaṃ veditavyam |

如説於身住循身觀念及念住。如是於受於心於法隨其所應當知亦爾。(p.441a14-16)

(Śbh II 174)⁷

bhāvanāparipūraye
bhūyobhāvavṛddhivipulatāyai chandaṃ
janayati vyāyacchate vīryam ārabhate
cittaṃ pragrñāti pradadhāti
[samyakprahāṇasya.]
令修圓滿。令倍修習。令其增長。令
其廣大。生欲。策勵。發勤精進。策
心。持心。[正斷]。439c18

「声聞地」とパーリ定型句

- ① 令修圓滿, bhāvanāparipūraye
② 令倍修習, bhūyobhāva-
③ 令其增長, vṛddhi-
④ 令其廣大, vipulatāyai
⑤ 生欲, chandaṃ janayati
⑥ 策勵, vyāyacchate
⑦ 發勤精進, vīryam ārabhate
⑧ 策心, cittaṃ pragrñāti
⑨ 持心, pradadhāti
[正斷, samyakprahāṇasya]

(uppannānaṃ kusalānaṃ dhammānaṃ t̥hitiyā
asammosāya)
② bhiyyobhāvāya ④ vepullāya
① bhāvanāya pāripūriyā
⑤ chandaṃ janeti ⑥ vāyamati
⑦ vīryaṃ ārabhati
⑧ cittaṃ paggañhāti
⑨ padahati
[idaṃ vuccati, bhikkhave, vīriyindriyaṃ.]

【VS 2.3(1) 純 (ma 'dres pa)】

'dun pa dang brtson 'grus la sogs pa
bsgom pa la sbyor ba ni dran pa nye
bar gzhaḡ pa bzhi 'grub par bya ba'i
phyir yin par rig par bya'o | 360b6
又四念住。由欲精進等。修習加行。
方得圓滿。應知。

「摂事分」と推定サンスクリット(*)

- ① 修習... 圓滿, 'grub par bya ba'i phyir yin
pa, *bhāvanāparipūraye。
②③④ 加行方得, bsgom pa la sbyor ba,
*bhūyobhāvavṛddhivipulatāyai
⑤ 欲, 'dun pa, *chanda
⑦ 精進, brtson 'grus, *vīrya
⑧⑨ 等, la sogs pa

Cf. ③④: SHT XI 4763 (第622経)⁸ V
a /// (vr̥)[d]dh[i]vip[ula]tā[y](ai)+ + ///⁹
b /// + + prati[kra]me saṃpr(a) .. + ///¹⁰

7 -II-12-b Ms.84b7M, Sh.288-19, W.*97-1, P.131a5, Ch.439c18.

8 Chung, p.14参照。

9 SHT XI p.183, Anm.4: "Vgl. MPS 10.10 (erg. nach Mvy 961): (sthitaye bhūyobhāvatāyā asaṃpramoṣāya paripūrāṇāya vaipulyāya cchandaṃ janayati); Saṅg IV.2(4) (erg. nach AKvy 599.27f.): (sthitaye asaṃmoṣāya) bhāvanāya paripūraye (bhūyobhāvāya vṛddhivipulatājñānasākṣātkriyāyai cchandaṃ janayati); AvSū 29.9f.: sthitaye asaṃmoṣāya bhūyobhāvāya vaipulyatāyai (v.l. vṛddhivipulatāyai) paripūrayai cchandaṃ janayati."

10 SHT XI p.184, Anm.5: "vgl. MPS 10.12 (zur folgenden Ergänzung vgl. SWTF s.v. abhikramapratikrama): (abhikramapratikrame saṃprajāno bhavati); SBV II 241.3: atikramapratikrame saṃprajānavihārī."

(607)¹¹

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2a. 有一乘道¹²。
一乘道有り。

2b. 淨諸衆生。令越憂悲滅惱苦。得如實法。
諸の衆生を淨め、憂悲を越え、惱苦を滅し、如實法を得せ令む。

3a. 所謂四念處。何等爲四。
所謂、四念處なり。何等をか四と爲す。

3b. 身身觀念處。受心法法觀念處。
身の身觀念處、受・心・法の法觀念處なり。

4. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane
anāthapiṇḍadasyārāme. tatra bhagavān
bhikṣūn āmantrayate.

2a. (AKvy 529)¹³
ekāyano 'yaṃ bhikṣavo mārghaḥ.

2b. (*Sambādhāvakaśasūtra)¹⁴
sattvānāṃ viśuddhaye śokaparidevāṇāṃ
samatikramāya
duḥkhadaurmanasyānāṃ astaṅgamāya
nyāyasya¹⁵ dharmasyādhigamāya.

3a. yad uta catvāri smṛtyupasthānāni.
katamāni catvāri.

3b. kāye kāyānupaśyanā-
smṛtyupasthānam. vedanāyāṃ citte
dharmaṣu
dharmānupaśyanāsmṛtyupasthānam iti.

4. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam
abhyānandan. abhinandyaṇumodya bhagavato
'ntikāt prakrāntāḥ.

11 Cf. 『大毘婆沙論』卷187 (T27, p.936c), 卷188, (p.944); SN.47.18, Brahmā (V pp.167-168).

12 Cf. 第535經「如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時尊者阿那律。住松林精舍。時尊者大目犍連。住跋祇聚落失收摩羅山恐怖稠林禽獸之處。時尊者阿那律。獨一靜處。禪思思惟。作是念。有一乘道。淨眾生。離憂悲惱苦。得真如法。所謂四念處。何等爲四。身身觀念處。受心法法觀念處。」以降は、次の第608經に対応し、Hj [6029]引用される。

13 "ekāyano 'yaṃ bhikṣavo mārgho yad uta smṛtyupasthānāni."

14 Paul Harrison, Fragment of the *Sambādhāvakaśasūtra from a Newly Identified Ekottarikāgama Manuscript in the Schøyen Collection Tokyo; ARIRIAB X, 2007, pp.201-211.

15 2箇所て読みが異なる。recto 2 "nyāyasya", verso 3 "nyāyyasya". (PSP 4:100)では"āryasya".

【VS 2.3(2) 純 (ma 'dres pa)

dran pa nye bar gzhag pa bzhi ma
gtogs par de dang mi 'dra ba'i lam ma |
360b6

除此四種念住。更無有餘。不同分道。

2. dmigs pa gang la brten na zag pa
zad par 'gyur zhing mya ngan las 'das
pa 'thob par 'gyur ba'i lam dang dmigs
pa gzhan med pa'i phyir rnam par dag
pa'i lam 'di zla med pa yin pas na lam
'di ni bgrod pa gcig pa zhes bya'o ||
360b7

或所緣境。由此道 此境。能盡諸漏。
獲得涅槃。由無第二清淨道故。說純
有一能趣正道。

bgrod pa gcig pa'i lam des kyang rgyu
gnyis kyis sems can rnam rnam par
dag par byed de | 360b8

又此純一能趣正道。由二因緣。能令
有情。究竟清淨。

so sor brtags pa'i stobs dang bsgoms
pa'i stobs kyis so | 360b8
一由思擇力故。二由修習力故。¹⁶

mya ngan ces bya ba ni nyon mongs
pa can gyi yid mi bde ba'o | 361a1
此中愁者。謂染污憂。

drod mi thub zhes bya ba ni rgod par
gtogs pa ste | 'dod pa na spyod pa'i
nyon mongs pa can gyis yid mi bde
ba'o | 361a1
所言洸者。謂掉俱行。欲界染喜。

mya ngan gyi gnas ni 'jig rten gyi chos
bzhi'o | 361a2
愁以四種世法。為所依處。

drod mi thub pa'i gnas ni gzhan bzhi
po nyid do | 361a2
洸以餘四世法。為所依處。

de la dran pa nye bar gzhag pa bzhi la
brtson pa ni so sor brtags pa'i stobs la
brten pas mya ngan dang drod mi
thub pa las yang dag par 'da' bar
'gyur ro | 361a2

於四念住。勤修加行。依思擇力。超
度愁洸。

'jig rten pa'i bsgom pa'i stobs kyis 'dod
pa'i 'dod chags dang bral ba thob pas ni
sdug bsngal dang yid mi bde ba
spong bar 'gyur ro | 361a3
由依世間。修習力故。得離欲愛。棄
捨憂苦。

'jig rten las 'das pa'i bsgom pa'i stobs
kyis 'jig tshogs thams cad las yang dag
par 'das pas ni 'phags pa'i lam yan lag
brgyad pa dang | lam gyi 'bras bu rig
pa dang chos rtogs par 'gyur ro |
361a4

依出世間。修習力故。超度一切。薩
迦耶苦。亦能證得。八支聖道及聖道
果。真實妙法。

de yang sems can rnam kyis so sor rtog
pa'i stobs dang | bsgom pa'i stobs kyis
rnam pa thams cad rnam par dag par
rig par bya'o | 361a4
一切有情。當知皆由。思擇修習。二
種力故。得一切種。究竟清淨。

16 Cf. Śbh I (I)-C-III-5-b-(3) Ms.7a6R, Sh.72-1, P.34b8, Ch.407c28. "sa khalv ayam indriyasamvaraḥ samāsato dvividhaḥ | pratisamkhyānabalasaṃgrhīto bhāvanābalasaṃgrhītaś ca."

(608)¹⁷

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 若比丘離四念處者。則離如實聖法。

若し比丘四念處を離るれば、則ち如實聖法を離る。

3. 離如實聖法者。則離聖道。

如實聖法を離るれば、則ち聖道を離る。

4. 離聖道者。則離甘露法。

聖道を離るれば、則ち甘露法を離る。

5. 離甘露法者。

不得脫生老病死憂悲惱苦。我說彼於苦不得解脫。

甘露法を離るれば、生老病死憂悲惱苦を脱することを得ず。我れは「彼れ、苦に於いて解脫を得ず」と説く。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavāñ cchrāvastyāṃ viharati jetavane
anāthapiṇḍadasyārāme. tatra bhagavān
bhikṣūn āmantrayate.

2. (離, nyams su [len par mi / mi len na / ma
blangs pa])

(如實聖法, 'phags pa'i [tsul / rigs],
*ārya-nyāyya)

3. (聖道, 'phags pa'i lam, *ārya-mārga)

4. (甘露, bdud rtsi, *amṛta)
(AK-up: thar pa, *mokṣa)

5. ... (NidSa 12.9; 9.W) na parimucyate
jātijarāvyādhimarāṇaśokaparideva-
duḥkhadaurmanasyopāyāsebhyaḥ.
na parimucyate duḥkhād iti vadāmi.

17 Cf. 第535經 (p.139 a23-29) 『大毘婆沙論』 卷188 (T27, p.944a11-14); SN.47.41, Amatam (p.184).

2. Cf. AK-up¹⁸ Hj [6029] pp.729-731.
gang 'ga' zhig dran pa nye bar gzhaḡ pa
bzhi la *mi dga' ba*¹⁹ de dag ni 'phags
pa'i tsul la *mi dga' ba* yin la,
若於四念處遠離者。於賢聖法遠離。(T2,
139a23)

3. gang 'phags pa'i tsul la *mi dga' ba*
de dag ni 'phags pa'i lam la *mi dga' ba*
yin la,
於賢聖法遠離者。於聖道遠離。(T2,139a24)

4. gang 'phags pa'i lam la *mi dga' ba*
de dag ni thar pa la *mi dga' la*;
聖道遠離者。於甘露法遠離。(T2,139a24-25)

5. gang thar pa la *mi dga' ba* de dag ni
skye ba dang, rga ba dang, na ba dang,
'chi ba dang, mya ngan dang, smre
sngags 'don pa dang, ma 'ongs pa'i sdug
bsngal ba dang, yid mi bde ba dang,
'khrugs pa las ma grol zhing sdug
bsngal ba'o zhes nga smra'o ||
甘露法遠離者。則不能脫生老病死憂悲惱
苦。(T2,139a25-26)

【VS 2.4 如理 (tshul bzhiḡ)】

2. lus la sogs pa dmigs pa bzhi la tshul
bzhiḡ ma yin par yid la byed na ni dran
pa nye bar gzhaḡ pa bzhi nyams su len
par mi 'gyur ro | 361a5
復次若於身等四種所緣。發起種種非
理作意。即便違背四種念住。

2-3. de rnam nyams su mi len na tshul
bzhiḡ yid la byed pa 'phags pa'i rigs
pa'i rjes la 'byung ba'i lta ba la sogs
pa'i 'phags pa'i lam skye ba yang
nyams su mi len na de nyams su ma
blangs pas 'phags pa'i lam yang nyams
su ma blangs pa yin no | 361a6
違背此故。即便違背如理作意。謂聖
如理。無間能生。正見支等。所有聖
道。違背此故。即便違背一切聖道。

4-5. de nyams su ma blangs pas de'i
'bras bu mya ngan las 'das pa'i bdud
rtsi yang nyams su ma blang pa yin no
| 361a7
違背道故。便為違背道果甘露究竟涅槃。

18 第535經(T2,139ab)の対応箇所をAK-upの文の下に併記する。なお、相応パーリ(SN.52.1-2. Rahogata)は、対応する文を持たない。

19 "*mi dga' ba*" 第535經では「遠離」, "*dga' ba*"は「信樂」と訳される。

6. 若比丘。不離四念處者。得不離聖如實法。
若し比丘四念處を離れずんば、聖の如實法を離れざることを得。
7. 不離聖如實*者。則不離聖道。
聖の如實*[法]を離れずんば、則ち聖道を離れず。
8. 不離聖道者則。不離甘露法。
聖道を離れずんば、則ち甘露法を離れず。
9. 不離甘露法者。
得脱生老病死憂悲惱苦。我說彼人解脫衆苦。
甘露法を離れずんば、生老病死憂悲惱苦を脱することを得。我れは「彼の人、衆苦を解脱す」と説く。
10. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

cf. 2.

cf. 3.

cf. 4.

9. ... (NidSa 8.4; 12.11; 9.X)
parimucyate
jātijarāvyādhimarāṇaśokaparideva-
duḥkhadaurmanasyopāyāsebhyaḥ |
parimucyate duḥkhād iti vadāmi |

10. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam
abhyānandan. abhinandyaṇumodya bhagavato
'ntikāt prakrāntāḥ.

6. gang 'ga' zhig dran pa nye bar gzhaḡ
pa bzhi la *dga'* ba de dag ni 'phags pa'i
tsul la dga' la ||

若於四念處信樂者。於**聖法**信樂。
(T2,139a26-27)

7. 'phags pa'i tsul la *dga'* ba de dag ni
'phags pa'i lam la dga' zhing,
聖法信樂者。於**聖道**信樂。(T2,139a27-28)

8. 'phags pa'i lam la *dga'* ba de dag ni
thar pa la dga' la,
聖道信樂者。於**甘露法**信樂。(T2,139a28)

9. thar pa la [13b] *dga'* ba de dag ni
rnam par grol bar 'gyur te, skye ba
dang, rga ba dang, na ba dang, 'chi ba
dang,
mya ngan dang, smre sngags 'don pa
dang, ma 'ongs pa'i sdug bsngal ba
dang,
yid mi bde ba dang, 'khrugs pa las
rnam par grol zhing sdug bsngal med
pa'o zhes nga smra'o ||
甘露法信樂者。得脫生老病死憂、悲惱苦。
(T2,139a28-29)

(609)²⁰

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2a. 我今當説四念處集。四念處沒。我れ今、當に四念處の集、四念處の沒を説くべし。

2b. 諦聽善思。
諦らかに聴き、善く思え。

3. 何等爲四念處集。四念處沒。
何等をか四念處の集、四念處の沒と爲す。

4. 食集則身集。食滅則身(ṭ2.171b)沒。
食集すれば、則ち身集す。食滅すれば、則ち身沒す。

5. 如是隨身集觀住。隨身滅觀住。
隨身集滅觀住。則無所依住。於諸世間。永無所取。
是の如く、身に隨い集觀に住し、身に隨い滅觀に住す。身に隨い集滅觀に住すれば、則ち所依無く住して、諸の世間に於いて、永く取する所無し。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane
anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2a. caturṇāṃ smṛtyupasthānāṇāṃ vo
bhikṣavo deśayīṣye samudayaṃ ca
bhavaty astaṅgamaṃ ca.

2b. (NidSa 14.2) tāṃ chr̥ṇuta sādhu ca
suṣṭhu ca manasikuruta bhāṣīṣye.

3. (AK-bh(Pā) [416] 342,13) kathaṃ
bhikṣavaś caturṇāṃ smṛtyupasthānāṇāṃ
samudayaś ca bhavaty astaṅgamaś ca.

4. āhārasamudayāt kāyasya samudayo
bhavati, āhāranirodhāt kāyasya
astaṅgama iti.

5. (AdSPG²¹ II 46 [VIII 5,2]) ...
samudayānupaśyī ca kāye viharati.
vyayānupapaśyī ca kāye viharati.
samudayavyayānupaśyī ca kāye
viharaty, anīśritaś ca viharati. [na ca²²
kañci] loke upādadāti.

Cf. (PSP 6-8:56) samudayānupaśyī ca
kāyasya viharati, vyayānupaśyī ca
kāyasya viharati, ²³kāyānupaśyī ca
viharati, anīścitaś ca viharati, na ca
kañcil loke upādatte.

20 [Chung V-14], SN.47.42, Samudayo (V p.184).

21 Edition by Edward Conze: The Gilgit manuscript of the Aṣṭādaśasāhasrikāprajñāpāramitā, chapters 70 to 82, corresponding to the 6th, 7th and 8th Abhisamayas. Roma 1974 (Serie Orientale Roma, 46)

22 jātuをkañcilにめる。cf. DN 22 Mahāsatippaṭṭhāna-suttanta; MN 10 Satippaṭṭhāna-sutta.

23 Cf. NGMCP Reel No. A 124-9 Lokottaradharmaḍāna (fol. 1r1-4).

(http://catalogue.ngmcp.uni-hamburg.de/wiki/A_124-9_Lokottaradharmaḍāna).

AK-up Hj [6031] pp.733-734.

2. dge slong dag dran pa nye bar
gzhag pa rnam kyi kun 'byung ba
dang nub pa dag bshad par bya ste,
de legs par nyon la yid la zung shig
dang bshad par bya'o ||

3. dge slong dag ji ltar na dran pa nye
bar gzhag pa bzhi rnam kun 'byung ba
dang nub pa yin zhe na,

4. dge slong dag zas kun 'byung bas
lus kun 'byung ba yin la, zas 'gags pas
lus 'gag par 'gyur ro ||

5. lus kun 'byung ba'i chos can du rjes
su mthong zhing gnas pa dang,
lus 'jig pa'i chos can du rjes su mthong
zhing gnas pa dang,
lus kun 'byung ba dang 'jig pa'i chos
can du rjes [15b] su mthong zhing gnas
pa dang,
mi rten cing gnas na 'jig rten cung zad
kyang nye bar mi len to ||

【S 2.5 緣起(rten cing 'brel par
'byung pa)】

rnal 'byor ba ni lus la sogs pa rgyu la
brtan te byung bar rig nas dus gsum
gyi lus la sogs pa'i chos rnam la mi
rtag par rjes su mthong bas gnas te |
361a7

又瑜伽師。了知身等。因緣生已。復
於三世。身等諸法。住無常觀。

mi rtag par rjes su mthong bas gnas na
yang srid par skye ba la yang srid par
skye ba'i srid pas rten cing mi gnas la
tshe 'di la yang phyi nang gi 'du byed
thams cad la bdag gam bdag gir cung
zad kyang mi 'dzin to | 361a8

由住如是。無常觀故。於諸後有。終
不依止。後有愛住。又現法中。於一
切行。若內若外。都不執取。我及我²⁴
所。

5. de la ma 'ongs pa rnam la ni kun
'byung ba'i chos can du rjes su mthong
bar bya'o | 361b1

又於未來。當知安住。集法隨觀。

'das pa rnam la ni 'jig pa'i chos can du
rjes su mthong ngo | 361b1

於過去世。當知安住。滅法隨觀。

da ltar byung ba rnam la ni byung ba
dang de'i 'og tu 'jig pa'i chos can yin
pa'i phyir kum 'byung ba dang 'jig pa'i
chos can du mthong bas gnas te | 361b2
於現在世。生已無間。盡滅法故。當
知安住。集滅法隨觀。

de thog ma kho nar lus la sogs pa rten
cing 'brel par 'byung ba rnam yang
dag par rjes su mthong bas mi rtag pa
nyid la 'jug go | 361b2

由彼最初。於身等法。觀緣生性。悟
入無常。

24 「於」→「我」。

6. 如是觸集則受集。觸滅則受沒。
是の如く、觸集すれば、則ち受集す。觸滅すれば、則ち受沒す。

7. 如是隨集法觀受住。隨滅法觀受住。隨集滅法觀受住。則無所依住。於諸世間都無所取。
是の如く、集法に隨い受を觀じ住し、滅法に隨い受を觀じ住す。集滅法に隨い受を觀じ住すれば、則ち所依無く住して、諸の世間に於いて、永く取する所無し。

8. 名色集則心集。名色滅則心沒。
名色集すれば、則ち心集す。名色滅すれば、則ち心沒す。

9. 隨集法觀心住。隨滅法觀心住。隨集滅法觀心住。則無所依住。於諸世間則無所取。
集法に隨い心を觀じ住し、滅法に隨い心を觀じ住す。集滅法に隨い心を觀じ住すれば、則ち所依無く住して、諸の世間に於いて、永く取する所無し。

10. 憶念集則法集。憶念滅則法沒。
憶念集すれば、則ち法集す。憶念滅すれば、則ち法沒す。

11. 隨集法觀法住。隨滅法觀法住。隨集滅法觀法住。則無所依住。於諸世間則無所取。
集法に隨い法を觀じ住し、滅法に隨い法を觀じ住す。集滅法に隨い法を觀じ住すれば、則ち所依無く住して、諸の世間に於いて、永く取する所無し。

12. 是名四念處集。四念處沒。
是れを四念處の集、四念處の沒と名づく。

13. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所說を聞きて、歡喜奉行せり。

6. ... (AKvy 530,33-531,1)
sparśasamudayād vedanāyāḥ samudayo bhavati, sparśanīrodhād vedanāyā astamgamaḥ.

7. ... See 5.²⁵ (AdSPG II 46 [VIII 5,2])
samudayānupaśyī ca vedanāyāṃ viharatī. vyayānupaśyī ca vedanāyāṃ viharatī. samudayavyayānupaśyī ca vedanāyāṃ viharaty, anīśritaś ca viharatī. na ca kañcil loke upādadāti.

8. (AKvy 531,1-2)
nāmarūpasamudayāc cittasya samudayo bhavati, nāmarūpanīrodhāc cittasyā'stamgamaḥ.

9. ... See 5. (AdSPG II 46 [VIII 5,2])
samudayānupaśyī ca citte viharatī. vyayānupapaśyī ca citte viharatī. samudayavyayānupaśyī ca citte viharaty, anīśritaś ca viharatī. na ca kañcil loke upādadāti.

10. (AKvy 531,2-531,4)
manasikārasamudayād dharmāṇāṃ samudayo bhavati, manasikāranīrodhād dharmāṇāṃ astamgamaḥ

11. ... See 5. (AdSPG II 46 [VIII 5,2])
samudayānupaśyī ca dharmeṣu viharatī. vyayānupapaśyī ca dharmeṣu viharatī. samudayavyayānupaśyī ca dharmeṣu viharaty, anīśritaś ca viharatī. na ca kañcil loke upādadāti.

12. evaṃ bhikṣavaś caturṇāṃ smṛtyupasthānāṇāṃ samudayaś ca bhavaty astamgamaś ca.

13. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. abhinandyaṇumodya bhagavato 'ntikāṭ prakrāntāḥ.

25 Cf. DN.22. Mahāsatipaṭṭhānasutta; MN10. Satīsatipaṭṭhānasutta.

6. dge slong dag reg par kun 'byung
bas tsor ba kun 'byung ba yin la, reg pa
'gags pas tsor ba nub par 'gyur te,

7. tsor ba kun 'byung ba'i chos can du
rjes su mthong zhing gnas pa dang;
tsor ba 'jig pa'i chos can du rjes su
mthong zhing gnas pa dang, tsor ba
kun 'byung ba dang 'jig pa'i chos can
du rjes su mthong zhing gnas pa dang,
mi rten cing gnas na 'jig rten cung zad
kyang nye bar mi len to ||

8. dge slong dag ming dang gzugs kun
'byung bas sems kun 'byung ba yin la,
ming dang gzugs 'gags pas sems nub
par 'gyur ro ||

9. sems kun 'byung ba'i chos can du
rjes su mthong zhing gnas pa dang,
sems 'jig pa'i chos can du rjes su
mthong zhing gnas pa dang, sems kun
'byung ba dang 'jig pa'i chos can du
rjes su mthong zhing gnas pa dang,
mi rten cing gnas na 'jig rten cung zad
kyang nye bar mi len to ||

10. dge slong dag yid pa byed pa kun
'byung bas chos kun 'byung ba yin
zhing, yid la byed pa 'gags pas chos
nub par 'gyur ro ||

11. chos kun 'byung ba'i chos can du
rjes su mthong zhing gnas pa dang,
chos 'jig pa'i chos can du rjes su
mthong zhing gnas pa dang, chos kun
'byung ba dang 'jig pa'i chos can du
rjes su mthong zhing gnas pa dang, mi
rten cing gnas na 'jig rten cung zad
kyang nye bar mi len to ||

12. dge slong dag 'di ltar na dran pa
nye bar gzhas pa rnam kun 'byung ba
dang nub pa rnam te,
dge slong dag dran pa nye bar gzhas
pa bzhi rnam kyi kun 'byung ba dang,
nub pa bshad par bya'o zhes ngas ji
skad du bstan pa de rgyas par rab tu
bshad do zhes gsungs so || ||

mi rtag pa nyid la zhugs nas sred pa
dang lta ba'i kun nas nyon mongs pa
las sems rnam par sbyang ste | de shes
cher gnas pa 'di ni tshul bzhiing yid la
byed pa yongs su rdzogs pa yin te |
361b3

悟入如是。無常性已。於諸愛見。雜
染等處。多修習住。淨治其心。如是
作意。方得圓滿。

de la brten nas zag pa zad pa thob par
'gyur ro | 361b4

由此為依。能隨獲得。究竟漏盡。

chos rnam ni mdor bsdu na dge ba
dang | 361b4

又一切法。以要言之。謂善不善。

kun nas nyon mongs pa dang rnam par
byang ba'i phyogs dang mthun pa
rnam so | 361b4

若雜染品。若清淨品。

10. de la kun nas nyon mongs pa'i
phyogs dang mthun pa gang yin pa de
dag ni tshul bzhiing ma yin pa yid la
byed pa las 'byung ngo | 361b5

當知此中。諸雜染品。皆用非理。作
意為集。

rnam bar byang ba'i phyogs dang
mthun pa rnam ni tshul bzhiing yid la
byed pa las 'byung ste | 361b5

諸清淨品。皆用如理。作意為集。

de dag gcig tu bsdus pa la ni yid la
byed pa las 'byung ba zhes bya'o |
361b6

如是一切。總略說名。作意為集。

(610)²⁶

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 我當説修四念處。諦聽善思。

我れ當に四念處を修することを説くべし。諦らかに聴き、善く思え。

3. 云何修四念處。

謂内身身觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間憂悲。

云何が四念處を修する。謂わく、内身の身觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の憂悲を調伏す。

4. 外身内外身*觀*住。精勤方便。正念正知。調伏世間憂悲。如是受心法。

外身・内外身の*[身]觀*[念]に住し、精勤し方便して、正念・正知もて世間の憂悲を調伏す。受・心・法も是くの如し。

5. 内法外法内外法*觀念住。精勤方便。正念正知。調伏世間憂悲。

内法・外法・内外法の*[法]觀念に住し、精勤し方便して、正念・正知もて世間の憂悲を調伏す。

6. 是名比丘修四念處。

是れを比丘の四念處を修することと名づく。

7. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。

佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

(610a)

1. 過去未來。修四念處。亦如是説過去・未來に四念處を修することも亦た、是の如く説く。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavān cchrāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. (MPS 2.20 etc)

caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ vo bhikṣavo **bhāvanāṃ** deśayiṣyāmi.
tāñ chṛṇuta sādhu ca suṣṭhu ca manasikuruta bhāṣiṣye |

3. *katamā ca bhikṣavaś caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ **bhāvanā**.*

(MPS14.25; 10.14)²⁷

iha bhikṣur adhyātmaṃ kāye kāyānupaśyī viharaty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam.

4. (MPS10.14) bahirdhā kāye

'dhyātmabahirdhā kāye 'dhyātmaṃ vedanāsu bahirdhā vedanāsv
(adhyātmabahirdhā vedanāsv
adhyātmaṃ citte bahirdhā citte
'dhyātmabahirdhā citte,

5. (MPS10.14) adhyātmaṃ dharme)ṣu bahirdhā dharmeṣv adhyātmabahirdhā dharmeṣu dharmānupaśyī vi(haraty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam)

6. *iti bhikṣavaś caturṇāṃ*

*smṛtyupasthānānāṃ **bhāvanā**.*

Cf. Ayaṃ kho bhikkhave, catunnaṃ satipatṭhānāṃ bhāvanāti.

7. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.

26 [Chung V-15], SN..47.2, Sato (V p.142). Cf. 『大毘婆沙論』卷187 (T27, p.936c19-22).

27 Cf. AK-bh(Pā) [412] 342,7.

AK-up Hj [6028] pp.728-729.

1. gleng gzhi ni mnyan du yod pa na'o
||

2. dge slong dag dran pa nye bar
gzhang pa bzhi bsgom pa dag bstan par
bya ste,
de legs par nyon la yid la zung shig
dang bshad par bya'o ||

3. dge slong dag dran pa nye bar
gzhang pa bzhi bsgom pa gang zhe na,
'di la dge slong dag nang gi lus la lus
kyi rjes su lta zhing brtun pa shes
bzhin dang dran pa can 'jig rten gyi
brnab sems dang yid mi bde ba bsal
cing gnas so ||

4. phyi'i lus dang phyi dang nang gi lus
dang,
nang gi tsor ba dang, phyi'i tsor ba
dang, phyi nang gi tsor ba dang,
nang gi sems dang, phyi'i sems dang,
nang dang phyi'i sems dang,

5. nang gi chos rnam dang, phyi'i chos
rnam dang, nang dang phyi'i chos
rnam la chos kyi rjes su lta zhing
brtun pa shes bzhin can dran pa dang
ldan pa 'jig rten gyi brnab sems dang
yid mi bde ba bsal te gnas so ||

6. dge slong dag 'di ltar dran pa nye
bar [13a] || gzhang pa bzhi bsgom pa
goms par bya'o²⁸ ||

dge slong dag dran pa nye bar gzhang
pa bzhi bsgom pa gams par bya'o zhes
bstan par bya'o²⁹ zhes ngas ji skad du
bstan pa de rgyas par rab tu bshad do
zhes gsungs so ||

【VS 2.6 修 (bsgom)】

dran pa nye bar gzhang pa bsgom pa'i
mdo dang rgyas pa ni 'di lta ste nyan
thos kyi sa las 'byung ba bzhin du rig
par bya'o | 361b6

復次。修諸念住。若略若廣。|
0859c06(00)如聲聞地。應知其相。

2. dran pa nye bar gzhang pa bsgom
pa'i dang po ni da ltar bcom ldan 'das
byung nas bstan cing de'i nyan thos
rnam kyang sgom par byed pa'di
kho na ma yin te | 361b7

又此念住。修習道理。非今世尊。出
現於世。方始宣說。今聖弟子。適初
修習。

【VS 2.7 時 (dus)】

1. dran pa nye bar gzhang pa bsgom pa
ni 'das pa'i dus na yang thog ma med
pa'i dus nas byung la ma 'ongs pa'i
dus na yang mthar thug pa med par
rig par bya'o | 361b7

然於過去。無始時來。於諸念住。修
習流轉。於未來世。當知修習。亦無
窮盡。

28 Hj. p.729, n.2, "「以上が四念住の修習である」とあるべきところ、乱れがあるやうである。"

29 Hj. p.729, n.3, "原文「修習を修すべきであると説かう」。"

(611)³⁰

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 有善法聚不善法聚。云何善法聚。所謂四念處。是爲正說。所以者何。善法聚・不善法聚有り。云何が善法聚なる。所謂四念處なり。是れを正說と爲す。所以は何。

3a. 純一滿淨聚者。所謂四念處。
純一滿淨の聚とは、所謂四念處なればなり。

3b. 云何爲四。謂身身觀念處。受心法法觀念處。(T2.171c)
云何が四と爲す。謂はく、身の身觀念處、受・心・法の法觀念處なり。

4. 云何不善聚。不善聚者。所謂五蓋。是爲正說。所以者何。
云何が不善聚なる。不善聚とは、所謂五蓋なり。是れを正說と爲す。所以は何。

5a. 純一逸滿不善聚者。所謂五蓋。
純一逸滿の不善聚とは、所謂五蓋なればなり。

5b. 何等爲五。謂貪欲蓋瞋恚蓋睡眠蓋掉悔蓋疑蓋。
何等をか五と爲す。謂わく、貪欲蓋・瞋恚蓋・睡眠蓋・掉悔蓋・疑蓋なり。

6. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所說を聞きて、歡喜奉行せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavāñ cchrāvastyāṃ viharati jetavane
anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

(Cf. AKvy 497)

2. ... kuśalā rāśir iti bhikṣavo yad uta
catvāri smṛtyupasthānānīti te samyag
vadamānā vadyuḥ. tat kasya hetoḥ.

3a. (AKvy 529) kevalo 'yaṃ
kuśalarāśiḥ yad uta catvāri
smṛtyupasthānāni.

3b. katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyanāsmṛtyupasthānam.
vedanāyāṃ citte dharmeṣu
dharmānupaśyanāsmṛtyupasthānam iti.

4. (AKvy 497) ... akuśalā rāśir iti
bhikṣavo yad uta pañca nivaraṇānītye te
samyag vadamānā vadeyuḥ. tat kasya
hetoḥ.

5a. (AKvy 497) kevalo 'yaṃ bhikṣavaḥ
paripūrṇākuśalarāśir yad uta pañca
nivaraṇāni.

5b. (Śbh I 152)³¹ te punaḥ katame.
kāmacchandaḥ, vyāpādaḥ,
styānamiddham, auddhatyakaukrītyam,
vicikitsā.

6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam
abhyānandan. abhinandyaṇumodya bhagavato
'ntikāt prakrāntāḥ.

30 [Chung V-16], SN.47.5, Kusalarāsi (V pp.145-146).

31 (I)-C-III-7-a-(2)-i-(a)-(d) Ms.50b7M, Sh.99-9, W.*71-37, P.46a8, Ch.411c22.

【VS 2.8 障 (bar du gcod)】

2. dran pa nye bar gzhag pa bzhi ni
'das pa dang ma 'ongs pa dang | da ltar
byung ba'i 'dus rnam su 'jig rten dang
'jig rten las 'das pa'i chos tshad med pa
rnam skye ba'i gnas yin pa'i phyir
dge ba'i tshogs zhes bya'o | 361b8
又是過去。未來現在。世出世間。無
量善法。生起依處故。說如是。四種
念住。名為**善聚**。

4. sgrib pa lnga ni dge ba'i tshogs
de'i bar chad byed pas na mi dge ba'i
tshogs bya'o | 362a1
又能障礙。如是善聚故。說**五蓋**。名
不**善聚**。

(612)³²

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 如人執持四種強弓。大力方便射多羅樹影。疾過無閼。如是如來四種聲聞。増上方便。利根智慧盡百年壽。人が四種の強弓を執持して、大力もて方便し、多羅樹の影を射るに、疾く過ぎて閼ぐるること無きが如く、是の如く、如來の四種の聲聞は、増上方便もて、利根の智慧もて、百年の壽を盡くし、

2. Cf. (SN.20.6, Dhanuggaho)
seyyathāpi, bhikkhave, cattāro daḥhadhammā dhanuggahā susikkhitā katahatthā katūpāsana catuddisā ṭhitā assu.
atha puriso āgaccheyya, ahaṃ imesaṃ catunnaṃ daḥhadhammānaṃ dhanuggahānaṃ susikkhitānaṃ katahatthānaṃ katūpāsanaṃ catuddisā kaṇḍe khitte appaṭiṭṭhite pathaviyaṃ gahetvā āharissāmi'ti.
taṃ kiṃ maññatha, bhikkhave, javano puriso paramena javena samannāgato ti alaṃ vacanāyā ti. ... yathā ca, bhikkhave, tassa purisassa javo, yathā ca candimasūriyānaṃ javo, tato sīghataro. yathā ca, bhikkhave, tassa purisassa javo yathā ... purato dhāvanti tāsaṃ devatānaṃ javo, tato sīghataraṃ āyusaṅkhārā khiyanti.

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavān cchrāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. SHT II 504 (R1)
tadyathā [bh]ikṣo iha [s]yuś= catvāro dhanurgrahā dṛḍhadhanuṣa kṛtadhanu[ṣa]ḥ kṛ[t](ā) (R2) + + + + + + + + + + ..nā te ekānte sthitvā caturdiśaṃ samam=iśūn=muñ[c]eyu
atha puruṣa āgacchet=sa(R3) + + + + + + + + + + (dhanurgrahā)ṇaṃ dṛ[dha]dhanuṣāṃ kṛta[dha]nuṣāṃ kṛtāstrāṇāṃ kṛtayogyānā(m)
kṛtāmārdavānāṃ kṛ(R4) + + + + + + + + + + (caturdi)śaṃ
[sa]ma[sa]mam=iśūn=muktān=apatitān=eva prthivyām=ānayaṣye kiṃ manyase (R5) + + + + + + + + + + + + + + + +
[ya]thā kha[lu bh](i)[kṣo]s=tasya pūruṣasya ja[va] atah sīghrataraṃ bhaumā yak[ṣ]ā [ga]c(ch)aṃti ya

Cf. (MN 12. Mahāsīhanādasutta)
idha me assu sārīputta cattāro sāvakā vassasatāyukā vassasatajīvino paramāya gatiyā satiyā ca dhitiyā ca samannāgatā paramena ca paññāveyyattiyena.
seyyathāpi sārīputta daḥhadhammo dhanuggāho sikkhito katahattho katupāsano lahukena asanena appakasireneva tiriyaṃ tālacchāyaṃ atipāteyya,
evaṃ adhimattasatimanto evaṃ adhimattagatimanto evaṃ adhimattadhitimanto evaṃ paramena paññāveyyattiyena samannāgatā.

32 [Chung V-17], Cf. SN.20.6, Dhanuggaho. 『大毘婆沙論』卷136 (T27, p.701b19-c8), 『毘婆沙論』卷6 (T28,p.44b17-26).

3. 於如來所。百年說法教授。唯除食息・禪寫睡眠中間。常說常聽智慧明利。

如來の所に於いて、百年、說法し教授して、唯だ食息・禪寫・睡眠の中間を除くのみにして、常に説き常に聴き、智慧明利にして、

4. 於如來所説。盡底受持。無諸障閼。於如來所。不加再問。如來說法無有終極。聽法盡壽百歲命終。如來說法猶不能盡。

如來の所説に於いて底を盡くして受持し、諸の障閼無く、如來の所に於いて再問を加えず。如來の説法は終極有る無し。法を聴き壽百歳を盡くし命終すとも、如來の説法は猶お盡くる能わざるがごとし。

5. 當知如來所説無量無邊。名句味身亦復無量。無有終極。

當に知るべし、如來の所説は無量・無邊なることを。名・句・味・身も亦復た無量にして、終極有る無し。

6. 所謂四念處。何等爲四。謂身念處。受心法念處。

所謂四念處なり。何等をか四と爲す。謂わく、身念處、受・心・法念處なりと。

7. 佛說此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。

佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

3. Cf. (MN 12. Mahāsīhanādasutta)

*te maṃ catunnaṃ satipaṭṭhānānaṃ
upādāyupādāya pañhaṃ puccheyyaṃ, puṭṭho
puṭṭho cāhaṃ tesaṃ vyākareyyaṃ. vyākatañca
me vyātato dhāreyyaṃ. na ca maṃ dutiyakaṃ
uttariṃ paṭipuccheyyaṃ aññatra
asitapīṭakhāyitasāyitā, aññatra
uccārapassāvakkammā, aññatra
niddākīlamathapaṭivīdanā,*

4. Cf. (MN 12. Mahāsīhanādasutta)

*apariyādīṇṇā yevassa sārīputta tathāgatassa
dhammadesanā. apariyādīṇṇaṃ yevassa
tathāgatassa dhammapadabyañjanaṃ.
apariyādīṇṇaṃ yevassa tathāgatassa
pañhapaṭibhānaṃ.
atha me te cattāro sāvakā vassasatāyukā
vassasatajīvino vassasatassa accayena kālaṃ
kareyyuṃ.*

5. Cf. AN 4. 188. (Upakasuttaṃ)

*idaṃ kusalanti kho upaka mayā paññattaṃ.
Tattha aparimāṇā padā, aparimāṇā byañjanaṃ,
aparimāṇā tathāgatassa dhammadesanā iti
p'idaṃ kusalanti.*

6. *yad uta catvāri smṛtyupasthānāni.
katamāni catvāri.*

*kāye kāyānupaśyanāsmṛtyupasthānam.
vedanāyāṃ citte dharmeṣu
dharmānupaśyanāsmṛtyupasthānam iti.*

7. *atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam*

*abhyānandan. abhinandyaṇumodya bhagavato
'ntikāṭ prākṛāntāḥ.*

【VS 2.9 自性 (rang bzhin)】

3. lus la sogs pa'i chos bzhi po rnam
kyi bye brag gis mtha' yas pa dang |
yul de la de bzhin gshegs pa'i ye
shes thogs pa med pas na | 362a2
又由身等。四所知法。無邊別故。如
來智慧。於彼無礙。亦無有邊。智無
邊故。

4. de bzhin gshegs pa rnam kyis
chos bstan pa ni tshad med pa'o |
362a2
如來所說。無上法教。亦無有邊。

de yang tshig dang don rnam pa
gnyis kyis rab tu phye'o | 3622
如是法教。二緣所顯。一由文故。二
由義故。

5. de la don gyi bye brag ni don de
nyid yang dag par bstan par bya ba la
chos kyi tshig dang yi ge tshad med
pa'o | 362a3
義差別門。無有數量。法教文句。開
顯義門。亦無數量。

tshig dang yi ge de yang zlos pa med
pa'i phyir gong nas gong du spobs pa
tshad med de | 362a3
於此文句。不重宣說。無邊展轉。辯
才無盡。

de bas na de bzhin gzhegs pa'i chos
bstan pa ni ngo mtshar rmad du
byung ba'i chos dang ldan pa yin te |
362a4
是故如來。成就希奇。未曾有法。

don gcig la yang tshig dang yi ge
zlos pa med pa tshad med pa dag gis
yang dag par bstan pa'i phyir ro |
362a4
善能宣說所有法教。於一義中能以無
量巧妙文句。方便開示而不重說。

(612a)³³

一切四念處經。皆以此**總句**。
所謂。是故比丘。於四念處。
修習起增上欲。精勤方便。正念正智。
應當學。

一切の四念處經は、皆な此の總句を以て
す。所謂、是れ故に、比丘は四念處に於
いて、修習して、増上欲を起し、精勤
し方便して、正念・正智もて應當に學す
べし。

(AKvy 529)

sarvadharmā iti bhikṣavaś caturṇām
smṛtyupasthānānām etad adhivacanam
iti.

*bhāvanā; chandaṃ janayati;
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān*

Cf. (DbSū(2) 11)

ity evaṃ vo bhikṣavaḥ śikṣitavyaṃ //

【VS 2.10 說 (bstan)】

bstan pa'i brda'i don rtogs pa shes pas
na rtogs pa dang ldan pa yin no |

362a5

又於**聖教**。宗義趣智。善成就故。名
為有趣。

rang bzhin dang thos pa dang bsams
pa'i shes rab kyi sgo nas ni blo dang
ldan pa'o | 362a5

俱生聞思所成。妙慧善成就故。名為
有意。

mnyam par bzhag pa'i phyir na, dran
pa dang ldan pa'o | 362a5

成就定故。名為有念。

bden pa khong du chud pas na, shes
rab dang ldan pa ste | 362a5

通達諦故。名為有慧。

dang pos ni bstan to | gsum gyis ni
bshad pa yin par rig par bya'o | 362a6

當知此中。初一**總標**。後三別釋。

33 第606經參照。Cf. 『大毘婆沙論』卷187 (T27, p.936c).

【VS 2.11 斷 (spong ba'i phyir)】

gang gi phyir dge slong sngon thos
pa dang bsams pa las byung ba'i tshul
bzhin yid la byed pas lus la sogs pa
la lus la sogs pa tsam du lta ba dran
pa nye bar gzhag ste | 362a6

復次有諸苾芻。於身等法。先由聞思
如理作意。安住唯有。身等法觀。

chos rnams thams cad bdag med par
shes nas thos pa dang bsams pa tsam
gyis kyang chog par mi 'dzin te |
362a7

知一切法。無我性已。不唯於此聞思
作意。而生喜足。

sems mnyam par gzhag pa ni rnam par
grol bar 'gyur ro snyam nas ting nge
'dzin du bya ba'i phyir rab tu dben par
gnas shing lus la sogs pa tsam du
dmigs pa kho nas de sems gnas pa
rnam pa dgus
nang rnam par zhi ba 'ba' zhig tu 'gyur
ro | 362a7

唯上希求。定心解脫。為求定故。住
遠離處。唯緣身等。以九行相³⁴。安
住其心。令心內寂。

【VS 2.12 起 (rtsom)】

de'i dran pa nye bar gzhag pa bzhi
rgyu gnyis kyis brtsams pa dang | rab
tu brtsams par 'gyur te | 362a8

由二因緣。起四念住。善發起。

tshul bzhin yid la byed pa yang dag
pa ji lta ba bzhin du shes pa dang |
362b1

一。由如理作意。如實智故。

ting nge 'dzin yang dag pa ji lta ba
bzhin du shes pa'i phyir te | 362b1

二。由三摩地。如實智故。

de'i 'og tu shes rab yang dag pa ji lta
ba bzhin du shes pas mthar thug par
'gyur ro | 362b1

此慧無間。由如實智。當得究竟。

【VS 2.13 修 (sgom pa tham yin)】

gang gi phyir dge slong ni gnyen po
rnam pa gsum la ji lta 'dod pa bzhin
thob pa dang | 362b2

復次有諸苾芻。於三對治。得隨所欲。

tshegs med par thob pa dang |
dka' med par thob par 'gyur ste |
362b2

得無艱難。得無阻礙。

'di lta ste | mi rtag pa'i 'du shes dang
byams pa dang | mtshan ma med pa'o |
362b3

謂無常想。若仁慈觀。若無相定。

de yang, gnyen po rnam pa gsum pa
des ci rig par snga ma bzhin du yid
du 'ong ba la sogs pa mi mthun pa'i
'du shes dang | mi mthun pa med pa'i
'du shes dang | 362b3

彼由如是。三種對治。隨其所應。如
前所說。於可意等。身等境界。住厭
逆想不厭逆想。

de gnyis ka nges par spangs nas btang
snyoms dang dran pa dang shes
bzhin gyis gnas te | 362b4

棄彼二種。捨念正知。由此因緣。

des ni, dran pa nye bar gzhag pa
bsgoms par rig par bya'o | 362b4

當知名為。善修念住。

34 Cf. VS 3.3 前後有差別 (第615經).

(613)³⁵

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 有不善聚善聚。何等爲不善聚。謂三不善根。是名正說。所以者何。不善聚、善聚有り。何等をか不善聚と爲す。謂わく、三不善根なり。是れを正說と名づく。所以は何。

3a. 純不善積聚者。謂純不善の積聚とは、謂わく、

3b. 三不善根。云何爲三。謂貪不善根。恚不善根。癡不善根。三不善根なればなり。云何が三と爲す。謂わく貪不善根、恚不善根、癡不善根なり。

4. 云何爲善聚。謂四念處。所以者何。純善滿具者。謂四念處。是名善說。云何が善聚と爲す。謂わく、四念處なり。所以は何。純善滿具とは、謂わく、四念處なればなり。是れを善說と名づく。

5. 云何爲四。謂身念處。受心法念處。云何が四と爲す。謂わく、身念處、受・心・法念處なり。

6. 佛說此經已。諸比丘聞佛所(T2,172a)說。歡喜奉行。佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

(613a)³⁶

如三不善根。如三惡行。身惡行口惡行意惡行。三不善根の如く、是の如く、三惡行[すなわち]身惡行、口惡行、意惡行なり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. (AKvy 497)

... akuṣalā rāśir iti bhikṣavo yad uta trīṇy akuṣalamūlānīty te samyag vadamānā vadeyuḥ. tat kasya hetoḥ.

3a. (AKvy 497)

kevalo 'yaṃ bhikṣavaḥ paripūrṇakuṣalarāśir yad uta

3b. (NidSa 23.7c)

trīṇy akuṣalamūlāni. katamāni trīṇy | lobho 'kuṣalamūlam | dveṣo moho 'kuṣalamūlam | idam akuṣalamūlam ||

4. kuṣalā rāśir iti bhikṣavo yad uta catvāri smṛtyupasthānānīti te samyag vadamānā vadeyuḥ. tat kasya hetoḥ. kevalo 'yaṃ kuṣalarāśiḥ yad uta catvāri smṛtyupasthānānīty te samyag vadamānā vadeyuḥ.

5. katamāni catvāri.

kāye kāyānupaśyanāsmṛtyupasthānam. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyanāsmṛtyupasthānam iti.

6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. abhinandyaṇumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.

(AD 4, 148.3)³⁷

sūtra uktam “trīṇi duṣcaritāni. kāyaduṣcaritaṃ vānmanoduṣcaritaṃ. evaṃ sucaritāni” iti.

35 [Chung V-18].

36 Cf. SN.47.47, Duccarita (V p.188).

37 [Chung V-Abridged Sūtras 1)] (p.157) Saṅg III.1, ŚrBh I 108.16-19, Dhsk 3 verso 6 et passim.

【VS 3.1(1) 諸根 (rtsa ba la sogs)】

2. rtsa ba gsum po 'di dag ni, dran pa
nye bar gzahag pa dge ba'i tshogs kyi
bgegs kyi gnas yin pa'i phyir mi dge
ba'i tshogs su gyur ba yin par rig par
bya'o | 362b5

有三種根。於諸念住。一切善聚。為
障礙故。當知說名。不善法聚。

gsum gang zhe na | 362b6

何等為三。

phyim la ngan song gi sdug bsngal la
gnas par 'gyur ba'i phyir nyes par
spyod pa'i rtsa ba dang | 362b6

一。惡行根。能令當來住惡趣苦。

tshe 'di la sdug bsngal la gnas pa'i
phyir rtog pa'i rtsa ba dang | 362b6

二。尋思根。能令現法住不安苦。

rtsa ba'i rtsa ba ste | 362b7

三者。根根。

nyes par spyor ba'i rtsa ba de dang
rtog pa'i rtsa ba de'i rtsa ba gang yin
pa de ni, rtsa ba'i rtsa ba shes bya'o |
362b7

與惡行根。及尋思根。為根本故。說
名根根。應知此中。

3. de la chags pa la sogs pa mi dge
ba'i rtsa ba gsum po rnam ni lus la
sogs pa'i nyes par spyod pa'i rtsa ba'o |
362b7

諸貪瞋癡。三不善根。能與身等。惡
行為根。

(613b)

三想。欲想恚想害想。

三想[すなわち]欲想、恚想、害想なり。

(613c)³⁸

三覺。欲覺恚覺害覺。

三覺[すなわち]欲覺、恚覺、害覺なり。

(613d)³⁹

三界欲界恚界害界。

三界[すなわち]欲界、恚界、害界なり。

佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は
佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

(613b)

*kāmasaṃjñā, vyāpādasamjñā,
vyāpādasamjñā.*

(613c)

*kāmavitarka, vyāpādavitarka,
vihimsāvitarka*

(613d) (AKvy 55)

*kāmadhātuṃ vyāpādadhātuṃ
vihimsādhātuṃ*

*atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam
abhyānandan. abhinandyaṇumodya bhagavato
'ntikāṭ prakrāntāḥ.*

38 [Chung V-Abridged Sūtras 2)] (p.157) Saṅg III.5. cf. Sūtra 272.

39 [Chung V-Abridged Sūtras 3)] (p.157) SaṅgIII.7.

【VS 3.1(2) 諸根 (rtsa ba la sogs)】

(613b)

'dod pa la sogs pa'i 'du shes gsum ni

'dod pa la sogs pa'i rtog pa'i rtsa ba'o

| 362b8

欲等三想。能與欲等。尋思為根。

(613d)

dod pa la sogs pa'i kham s gsum ni

chags pa la sogs pa rtsa ba gsum

dang | dod pa'i 'du shes la sogs pa'i

rtsa ba gsum gyi rtsa ba yin par rig

par bya'o | 362b8

欲等三界。當知能與。貪等三根。及
欲想等。三根為根。

(614)⁴⁰

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

2. 時有異比丘來詣佛所。稽首佛足退坐一面。白佛言。

時に、異比丘有り、佛の所に來詣して、佛の足に稽首し退きて一面に坐し、佛に白して言わく。

3. 世尊。如所説大丈夫。云何名大丈夫非大丈夫。

世尊。説きし所の大丈夫の如き、云何が大丈夫・非大丈夫と名づくや。

4a. 佛告比丘。善哉善哉比丘能問。如來大丈夫義。

佛は比丘に告げたり。善い哉善い哉。比丘は能く如來に大丈夫の義を問えり。

4b. 諦聽善思。當爲汝説。

諦らかに聴き、善く思え。當に汝が爲に説くべし。

5. 若比丘。身身觀念住。彼身身觀念住已。心不離欲。不得解脫。盡諸有漏。

若し比丘、身の身觀念に住し、彼れ身の身觀念に住し已わり、心が欲を離れず、解脫して諸の有漏を盡くすことを得ざれば、

6. 我說彼非爲大丈夫。所以者何。心不解脫故。

我れは「彼れ、大丈夫と爲るに非ず」と説く。所以は何。心、解脫せざるが故なり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane
anāthapiṇḍadasyārāme.

2. (NidSa 19.2)

athānyatamo bhikṣur yena bhagavāṃs
tenopajagāma | upetya bhagavatpāḍau
śīrasā vanditvaikānte nyaśīdat |
ekāntaniṣaṇṇaḥ bhagavantam idam
avocat |

3. (Cf. NidSa 19.3)

mahāpuruṣo mahāpuruṣa iti bhadanta
ucyate, kiyatā mahāpuruṣo bhavati |
Cf. SN. 47.11, "mahāpuriso mahāpurisoti
bhante, vuccati, kittāvātā nu kho: bhante,
mahāpuriso hoti"ti:

4a. (Saṃghāṭṭasūtra 11)⁴¹

sādhū sādhū bhikṣo yas tvaṃ
tathāgatam etam arthaṃ
paripraṣṭavyaṃ manyase.

4b. (NidSa 14.2)

tac chṛṇuta sādhu ca suṣṭhu ca
manasikuruta bhāṣiṣye |

6. Avimuttacittattā no mahāpuriso'ti vadāmi.

40 Cf. SN. 47.11, Mahāpuriso (V p.158).

41 "sādhū sādhū bhikṣu sādhu khalu punas te bhikṣu yas tvaṃ tathāgatam etam arthaṃ
paripreṇchitavyaṃ manyasi." [Mv 2.297]

【VS 3.2 愛味 (ro myang ba)】

5. dran pa nye bar gzhag pa rnam la
brtson pa'i dge slong ni 'jig rten lam
gyi⁴² 'dod pa rnam las dben pa zhes
bya ba nas rgyas par srid pa'i rtse mo'i
snyoms par 'jug pa'i bar du bsgrub ste
gnas so 具足安住 | 363a1

復次有諸苾芻 於四念住 勤修加行
以世間道。離欲界愛。廣說乃至。第
一有定。具足安住。

des de'i ro myang bar byed cing | de
tsam gyis chog par 'dzin te | 363a2
即於此定。多生愛味。即於此定。生
喜足想。

6. ma thob pa thob par bya ba'i phyir
gong du rtsol bar yang mi byed pa de
ni 'phags pa'i chos 'dul ba la skyes bu
chen po shes mi bya'o | 63a3
不上勤求。得所未得。此於聖法毘奈
耶中。不名大士。

de ci'i phyir zhe na 何以故 | sems
shin tu rnam par grol ba ma yin pa'i
phyir ro | 363a3
何以故。其心未得善解脫故。

10. de las bzlog pa ni skyes bu chen
po 大士 yin par rig par bya'o | 363a3
與此相違。得名大士。

42 D. 'jig rten pa'i lam gyis.

7. 若比丘。受心法。法觀念住。心不離欲。不得解脫。盡諸有漏。若し比丘、受・心・法の法觀念に住し、心が欲を離れず、解脫して諸の有漏を盡くすことを得ざれば、

8. 我不說彼爲大丈夫。所以者何。心不解脫故。我れは「彼れ、大丈夫と爲る」と説かず。所以は何。心、解脫せざるが故なり。

9. 若比丘。身身觀念住。心得離欲。心得解脫。盡諸有漏。若し比丘、身の身觀念に住し、心が欲を離るることを得て、心に解脫を得て、諸の有漏を盡くさば、

10. 我說彼爲大丈夫也。所以者何。心解脫故。我れは「彼れ、大丈夫と爲る」と説くなり。所以は何。心、解脫せるが故なり。

11. 若受心法。法觀念住。受心法法觀念住已。心離貪欲。心得解脫。盡諸有漏。若し受・心・法の法觀念に住し、受・心・法の法觀念に住し已わり、心が貪欲を離れ、心に解脫を得て、諸の有漏を盡くさば、

12. 我說彼爲大丈夫也。所以者何。心解脫故。我れは「彼、大丈夫と爲る」と説くなり。所以は何。心、解脫せるが故なり。

13. 是名比丘。大丈夫及非大丈夫。是れを比丘の大丈夫、及び非大丈夫と名づく。

14. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜隨喜。禮足而去。佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜し隨喜して、足に禮して去れり。

9. Cf. SN. 47.11 *idha bhikkhu kāye kāyānupassī viharati. ... tassa kāye kāyānupassino viharato cittaṃ virajjati, vimuccati, anupādāya āsavehi.*

10. Cf. SN. 47.11 *vimuttacittatā kho'haṃ sārīputta mahāpuriso'ti vadāmi.*

11. Cf. SN. 47.11 *vedanāsu vedanānupassī viharati. ... citte cittānupassī viharati. ... dhammesu dhammānupassī viharati. ... tassa dhammesu dhammānupassino viharato cittaṃ virajjati, vimuccati, anupādāya āsavehi.*

12. Cf. SN. 47.11 *evaṃ kho sārīputta, vimuttacitto hoti, vimuttacittatā kho'haṃ sārīputta, mahāpurisoti vadāmi.*

14. *atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. abhinandyaṇumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

(615)⁴³

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

2. 爾時尊者阿難晨朝著衣持鉢。入舍衛城乞食。於路中思惟。

爾の時、尊者阿難、晨朝に衣を著け鉢を持ち、舍衛城に入り、乞食して、路中に於いて思惟せり。

3. 我今先至比丘尼寺。即往比丘尼寺。

我れ今先に比丘尼の寺に至らん。

4. 諸比丘尼遙見尊者阿難(T2,172b)來。疾敷床座請令就座。

即ち比丘尼の寺に往けり。諸の比丘尼、遙かに尊者阿難の來たるを見て、疾く床座を敷き、請うて座に就か令む。

5. 時諸比丘尼禮尊者阿難足。退坐一面。白尊者阿難。

時に諸の比丘尼、尊者阿難の足に禮し、退きて一面に坐し、尊者阿難に白せり。

6. 我等諸比丘尼修四念處繫心住。自知前後昇降。

我等諸の比丘尼、四念處を修し心に繫けて住するに、自ら前後に昇降するを知れり。

1. *evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.*

2. Cf. SN.47.10 *atha kho āyasmā ānando pubbaṇhasamayaṃ nivāsetvā pattacīvaramādāya*

3. Cf. SN.47.10 *yenaññataro bhikkhunūpassayo tenupasaṅkami.*

4. Cf. SN.47.10 *upasaṅkamitvā paññatte āsane nisīdi. atha kho sambahulā bhikkhuniyo yenāyasmā ānando tenupasaṅkamiṃsu.*

5. Cf. SN.47.10 *upasaṅkamitvā āyasmantaṃ ānantaṃ abhivādetvā ekamantaṃ nisīdiṃsu. ekamantaṃ nisinnā kho tā bhikkhuniyo āyasmantaṃ ānantaṃ etad avocun:*

(*Satyasiddhiśāstra [還梵テキスト]. p.458) 183 *kuśalavitarkavargaḥ*

6. *iha bhadanta [ānanda] vayaṃ catṛṣu smṛtyupasthāneṣu supratīṣṭhitacittā viharantiya [udāraṃ] pūrveṇāparaṃ viśeṣaṃ samprajānāma iti |*

Cf. SN.47.10 *"idha bhante, ānanda, sambahulā bhikkhuniyo catūsu satipaṭṭhānesu sūpaṭṭhitacittā viharantiyo uḷāraṃ pubbenāparaṃ viśeṣaṃ sañjānanti"*ti.

43 Cf. SN.47.10, Bhikkunivāsako (V pp.154-158).

7. 尊者阿難告諸比丘尼。善哉善哉。姊妹。

尊者阿難、諸の比丘尼に告げたり。善い哉、善い哉。姊妹。

8. 當如汝等所說而學。凡修習四念處。善繫心住者。應如是知前後昇降。當に汝等が所説の如くして學すべし。凡そ四念處を修習して、善く心に繫けて住する者は、應に是の如く前後に昇降するを知るべし。

9. 時尊者阿難爲諸比丘尼種種說法。種種說法已。從座起去。

時に尊者阿難、諸の比丘尼の爲に、種種に說法し、種種に說法し已わり、座從り起ちて去れり。

10. 爾時尊者阿難於舍衛城中乞食。還舉衣鉢。洗足已。詣世尊所。

爾の時、尊者阿難、舍衛城中に於いて乞食し、還りて衣鉢を舉げ、足を洗い已わり、世尊の所に詣りて、

11. 稽首佛足退坐一面。以比丘尼所説。具白世尊。

佛の足に稽首し退きて一面に坐し、比丘尼の所説を以て、具さに世尊に白せり。

12. 佛告阿難。善哉善哉。

佛は阿難に告げたり。善い哉、善い哉。應に是の如く學すべし。

13. 應如是學。四念處善繫心住。知前後昇降。

四念處、善く心に繫けて住するは、前後に昇降するを知る。

14. 所以者何。心於外求。然後制令求其心。散亂心不解脫。皆如實知。所以は何。心、外に於いて求め、然る後に、制して其の心を求め令むるればなり。散亂の心は解脫せず[と]、皆な如實に知る。

15. 若比丘。於身身觀念住。於彼身身觀念住已。

若し比丘、身に於いて身觀念に住し、彼の身に於いて身觀念に住し已われば、

(*Satyasiddhiśāstra. p.457)[還梵].

7. Cf. SN.47.10 *ānando 'vocat. evam etat bhaginya evam etat bhaginya iti.*

... *evam etaṃ bhaginiyo,*

8. Cf. SN.47.10 *yo hi ko ci bhaginiyo, bhikkhu vā bhikkhunī vā catusu satipaṭṭhānesu sūpaṭṭhitacitto viharati, tassetam pāṭikaṅkhaṃ* "uḷāraṃ pubbenāparaṃ viśesaṃ sañjānissatī"ti.

9. Cf. SN.47.10 *atha kho āyasmā ānando tā bhikkhuniyo dhammiyā kathāya sandassetvā samādapetvā samuttejetvā sampahaṃsetvā utthāyāsanaṃ pakkami.*

10. Cf. SN.47.10 *atha kho āyasmā ānando sāvatthiyaṃ piṇḍāya caritvā pacchābhattaṃ piṇḍapātaṭikkanto yena bhagavā tenupasaṅkami.*

11. Cf. SN.47.10 *upasaṅkamitvā bhagavantaṃ abhivādetvā ekamantaṃ nisīdi. ekamantaṃ nisinno kho āyasmā ānando bhagavantaṃ etad avoca: idhāhaṃ bhante, ... sañjānissatī"ti.*

12. Cf. SN.47.10 *evam etaṃ ānanda, evam etaṃ ānanda,*

13. Cf. SN.47.10 *yo hi koci ānanda, bhikkhu vā bhikkhunī vā catusu satipaṭṭhānesu sūpaṭṭhitacitto viharati, tassetam pāṭikaṅkhaṃ: "uḷāraṃ pubbenāparaṃ viśesaṃ sañjānissatī"ti. katamesu catusu:*

14. Cf. SN.47.10 *kathaṃ cānanda, appaṇidhāya bhāvanā hoti: bahiddhā ānanda, bhikkhu cittaṃ appaṇidhāya "appaṇihitaṃ me bahiddhā cittaṃ"ti pajānāti. atha pacchā pure asaṅkhittaṃ vimuttaṃ appaṇihitaṃ pajānāti.*

15. Cf. SN.47.10 *idhānanda, bhikkhu kāye kāyānupassī viharati ...,*

【VS 3.3 前後有差別 (snga ma las phyi ma'i khyad par)】
'di la dge slong lus la sogs pa la lus kyi rjes su lta zhing gnas pa ni nang du sems gnas pa rnam pa dgus sems rnam par sdud par byed mod kyi |⁴⁴
363a3

復次有諸苾芻 於身等境 精勤安住 循身等觀。以**九行相**。安住其心。令心內聚。

16. de'i sems de yang zhi gnas kyi mi mthun pa'i phyogs lus dang sems kyis rmugs pa dang zhum pa las rnam par grol ba ma yin no不得解脫 | 363a4
當知。此心於奢摩他所治。身心**惛沈下劣**。不得解脫。

rnam par grol par ma gyur ba'i phyir de ltar mngon par bsdu pa'i sems la lus kyi rmugs pa dang sems kyi zhum pa yang skye bar 'gyur ro | 363a4
不解脫故。依此聚心。生起**身中。諸惛沈性**。生起 **心中。諸下劣性**

gal te dran pa nye bar gzha pa rnams la sems shin tu brtan par gnas pas nye ba'i nyon mongs pa skyes par rig nas | 363a5
若於念住。善安住心。如實了知。此所生起。隨煩惱已。

16. nang du mngon par bsdu pa de las sems de btang ste | phyi rol gyi dga' bar 'gyur ba'i sdug pa'i mtshan ma de bzhin gshegs pa la sogs pa'i yon tan gyi rnam pa'i dmigs pa la sems gtod par byed de | 363a6
便從內聚。還收其心。安置在外。**淨妙境相**。謂於佛等。功德行緣。持心令住。

de dmigs pa des mchog tu dga' ba skye bar 'gyur ba | 363a7
由緣此故。發生**歡喜**。

nas rgyas par rab tu 'dzin pa'i sgo nas da la dmigs pa'i sems mnyam par 'jog la nye ba'i nyon mongs pa
廣說乃至。由妙舉門。於所緣境。令心得定。

zhi gnas kyi mi mthun pa'i phyogs de las kyang rnam par grol bar 'gyur ro | 363a7
從奢摩他。之所對治。諸隨煩惱。而得解脫。

de nas nye ba'i nyon mongs pa de las sems rnam bar grol bar rig nas | 363a8
從此已後。如實了知。於隨煩惱。心得解脫。

44 Cf. 2.11 斷 (SA. 612).

16. 若身耽睡。心法懈怠。彼比丘當起淨信。取於淨相。起淨信心。憶念淨相已其心則悅。

若し身睡に耽り、心法懈怠ならんも、彼の比丘は當に淨信を起こし、淨相を取し、淨心の心を起こすべし。淨相を憶念し已われれば、其の心、則ち悦ぶ。

17. 悦已生喜。其心喜已身則猗息。身猗息已則受身樂。受身樂。已其心則定。

悦び已わりて喜生ず。其の心喜び已われれば、身則ち猗息す。身猗息し已われれば、則ち身の樂を受く。身の樂を受け已われれば、其心則ち定まる。

18. 心定者聖弟子。當作是學。我於此義。外散之心。攝令休息。不起覺想。及已觀想。

心定まる者は聖弟子なり。當に是の學を作すべし。我れ此の義に於いて、外散の心、攝し、休息せ令め、覺想及び已觀想を起こさず、

19. 無覺無觀。捨念樂住。樂住已如實知。受心法念。亦如是說。

覺無く觀無く、捨念にして樂住す。樂住し已わりて如實に知る。受・心・法念も亦た是の如く説く。

20. 佛說此經已。尊者阿難聞佛所說。歡喜奉行。

佛は此の經を説き已えたり。尊者阿難、佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

16. (Śbh II 208)⁴⁵

tac ca tathādhyātmaṃ abhisamkṣiptaṃ
līnatvāya paraiti, līnatvābhiśaṅki
caivaṃ paśyati | tadānyatamānyatamena
pragrāhakeṇa nimittena prasadanīyena
pratigrhṇāti samharsayati |

由是因緣其心於內極略下劣或恐下劣。觀見是已。爾時隨取一種淨妙舉相。慇懃策勵。慶悅其心。

Cf. SN.47.10 *tassa kāye kāyānupassino viharato kāyārammaṇo vā uppajjati, kāyasmim parilāho, cetaso vā līnattaṃ, bahiddhā vā cittaṃ vikkhipati. tena hānanda, bhikkhunā kismicid eva pasādanīye nimitte cittaṃ paṇidahitabbaṃ tassa kismicideva pasādanīye nimitte cittaṃ paṇidahato pāmujaṃ jāyati.*

17. (Śbh I 92)⁴⁶

pramuditacittasya prītir jāyate.
prītaṃmanasaḥ kāyaḥ praśrabhyate. sa
praśrabdhakāyaḥ sukhaṃ vedayate.
sukhitasya cittaṃ samādhīyate.
歡故生喜。由心喜故身得輕安。身輕安故便受勝樂。樂故心定。

18. Cf. SN.47.10 *so iti paṭisaṅcikkhati: yassa kho'haṃ atthāya cittaṃ paṇidahiṃ so me attho abhinipphanno, handadāni paṭisaṃharāmīti.*

19. Cf. SN.47.10 *so paṭisaṃharati ceva na ca vitakketi. Na ca vicāreti. "avittakkomhi avicāro ajjhattaṃ satimā sukhitaṃ"ti pajānāti.*

20. *atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitaṃ abhyanandan. abhinandānumodya bhagavato 'ntikāt prākṛāntāḥ.*

45 -II-12-b-(2)-i-(c) Ms.88b3M, Sh.311-7, P.141a6, Ch.443a2. See 『顯揚聖教論』卷19, T31,577c 「於念住修位中。為斷沈掉故。應修二種相應道。如『比丘尼經』及『取自心相經』說。云何『比丘尼經』說。如彼經言。為斷沈沒故。應當思惟少分可愛清淨相貌。為斷掉動故。復應略攝」

46 (I)-C-III-4-f-(1) Ms.8a8R, Sh.59-1, P.28a8, Ch.405c13. 「十種戒德勝利」の「第一勝利」。

gang gi don du phyi rol tu ched du
bstad⁴⁷ pa'i don de thob pas na phyir
yang snga ma bzhin du mngon par
sdud par byed de | 363a8
為此義故祈願。於外得此義已。還復
如前。攝心內聚。

phyis nye ba'i nyon mongs pa des nye
bar nyon mongs par mi 'gyur ro |
363a8
而不為其。諸隨煩惱。之所惱亂。

des mngon par bsdus nas phyi rol tu
ched du ma bstad⁴⁸ par yang bdag ni
rnam par grol lo snyam du yang dag
pa ji lta ba bzhin du rab tu shes la |
363b1
心內聚已。不由祈願。自然如實了知。
於外心得解脫。

phyi rol du dmigs pa rnams la yongs
su rtog pa | 363b1
彼於外緣。行相尋思。

'bad pa dang bcas pa | 363b2
有所制伏。

mngon par 'du byed pa dang bcas pa'i
sdug bsgal 'byung ba de dag las dben
pa dang btang snyoms dang bde bar
gnas yongs su 'grub par 'gyur te |
363b2
有其加行。難可運轉。皆得自在解脫。
棄捨安樂而住 已得成辦 勝奢摩他

de lta dran pa nye bar gzhag pa bzhi
la sems shin tu brtan par gnas pa
des ni snga ma las phyi ma khyad
par du gyur par shes te gang zag de
ni sngar lhag mthong la brten te |
363b3

如是。彼於四種念住。善安住心。能
正了知。前後差別。又應知此補特伽
羅。先已修行。毘鉢舍那。毘鉢舍那。
以為依止。

zhi gnas la sbyor bar byed pa yin par
rig par bya'o | 363b-3
於奢摩他。修瑜伽行。

47 D. gtad.

48 D. gtad.

(616)⁴⁹

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 當取自心相。莫令外散。所以者何。
當に自心の相を取り、外に散ぜ令むこと莫かるべし。所以は何。

3. 若彼比丘愚癡不辨不善。不取自心相。而取外相。然後退減。自生障闕。
若し彼の比丘、愚癡にして不善を辨ぜず、自心の相を取らずして外の相を取り、然る後に退減すれば、自から障闕を生ず。

4. 譬如厨士。愚癡不辨。不善巧便。調和衆味。奉養尊主。
譬えば、厨士、愚癡にして不善の巧便を辨ぜず、衆味を調和し、尊主に奉養するに、

5. 酸醎酢淡。不適其意。不能善取。尊主所嗜。酸醎酢淡。衆味(2,172c)之和。
酸醎酢淡、其の意に適わず、善く尊主の嗜む所の酸醎酢淡、衆味の和を取る能わず。

6. 不能親侍。尊主左右司其所須。聽其所欲。善取其心。而自用意。調和衆*昧。
尊主に親侍せる左右に其の須いる所を司い、其の欲する所を聴き、善く其の心を取り、而して自から意を用い、衆味*[>昧]を調和する能わず。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikkhū āmantrayate.

3. Cf. SN.47.8 *bālo avyatto akusalo bhikkhu sakassa cittassa nimittaṃ na uggaṇhāti. ...*

4. Cf. SN.47.8 *seyyathāpi bhikkhave, bālo avyatto akusalo sūdo rājānaṃ vā rājamahāmattaṃ vā nānaccāyehi sūpehi paccupaṭṭhito assa:*

5. Cf. SN.47.8 *ambilaggehipi tittakaggehipi kaṭukaggehipi madhuraggehipi khārikehipi akhārikehipi loṇikehipi aloṇikehipi.*

Cf. (AKBh I p.28)
"rasaḥ | ṣoḍhā (AK I-10)",
madhura-amlā-lavaṇa-kaṭuka-tikta-kaṣāya-bhedāt.⁵⁰

(Śronakoṭīvimśā p.134);
(AVŚ 3, Vaidya pp.8, 89, 123, 206)⁵¹
tikta (苦) cf. tittaka
amla (酢/醋) ambila
lavaṇa (鹹) loṇika
madhura (甜/甘) madhura
kaṭuka (辛) kaṭuka
kaṣāya (淡) khārika

6. Cf. SN.47.8 *sakho so bhikkhave, bālo avyatto akusalo sūdo sakassa bhattu nimittaṃ na uggaṇhāti:*
idaṃ vā me ajja bhattu sūpeyyaṃ ruccati, imassa vā abhiharati, imassa vā bahum gaṇhāti, imassa vā vaṇṇaṃ bhāsati, ...

49 Cf. SN.47.8, Sūdo (V pp.149-152); Vsm. PTS ed. p.150~; Mv 2, pp.478-479. 平岡聡訳『ブッダの大きな物語』pp.148-149; Kusa-Jātaka (Jātaka Vol.5, pp.289-303). 『顯揚聖教論』卷19, T31.577c 「於念住修位中。為斷沈掉故。應修二種相應道。如『比丘尼經』及『取自心相經』説。... 云何『取自心相經』説。如彼經言。由不取自心相故。令心沈沒。由取少分可愛外相故。沈隨煩惱暫時斷息。然心未得定。復更略攝其心。見沈沒過。復取外相。掉動過後。復更取自心之相。爾時能斷沈掉隨煩惱。心得正定。略攝其心取自心相。離沈掉故。」

50 (真諦訳) 偈曰。味六。釋曰。謂甜酢鹹辛苦淡差別故。

(玄奘訳) 味有六種。甘醋鹹辛苦淡別故。

51 Cf. *Divyāvadāna*, ed. Vaidya, 1.24; 62.24; 104.6; 286.25; Vinayavastu: *Adhikaranavastu* (63); *Bhaisajyavastu* (MSV I 132)

【VS 3.4 取相 (mtshan mar 'dzin)】

2. dran pa nye bar gzhag pa la brtson
pa'i dge slong lhag mthong la brten
nas zhi gnas la sbyor bar 'dod pas ni
nang gi zhi gnas la rang gi sems
bstad pa las mtshan ma 'di ltar
gzung bar bya ste | 363b3

復次。有諸苾芻。於諸念住。勤修加
行。毘鉢舍那。以為依止。於奢摩他。
樂修觀行。彼即應於內奢摩他。所攝
自心取如是相。

bdag gis ci zhig yid la byas shing |
bdag gis ji ltar yid la byas na sems
zhi gnas la bstad pa na | zhi gnas kyi
phyogs kyi lus dang sems kyi rmugs
pa dang zhum pas nye bar nyon
mongs par 'gyur la | 363b4

謂我今者。何所思惟。云何思惟。令
奢摩他。所攝受心。為奢摩他。所治
身心。惛沈下劣。之所惱亂。

ci zhig ji ltar yid la byas na ni nye
bar nyon mongs par mi 'gyur snyam
du mtshan ma bzung bar bya'o |
363b5

復我今者。何所思惟。云何思惟。令
奢摩他。所攝受心。不為彼法之所惱
亂。

3. gal te dge slong des de ltar rang gi
sems la mtshan ma ma bzung na ni
kun nas nyon mongs pa des sems de
nye bar nyon mongs par 'gyur bar rig
nas | 363b6

若彼苾芻。不取如是。自心相貌。但
自了知。此隨煩惱。染污心已。

phyi rol gyi dga' bar byang ba'i dmigs
pa las mtshan mar 'dzin par byed de |
363b6

便於外緣。取淨妙相。

de'i rgyus re zhig des nye ba'i nyon
mongs 'byung zhing mngon sum du
gyur ba de spongs mod kyi | 363b7
由是為因。雖能暫時。除遣現在。現
前隨惑。

7. 以奉尊主。若不適其意。尊主不悅。不悅故不蒙爵賞。亦不愛念。以て尊主に奉り、若し其の意に適わされば、尊主は悦はず。悦ばざるが故に爵賞を蒙らず、亦た愛念せざるが如し。

8. 愚癡比丘亦復如是。不辨不善。於身身觀住。
愚癡の比丘も亦復た是の如く、不善を辨ぜず、身に於いて身觀に住し、

9. 不能除斷上煩惱。不能攝取其心。亦復不得内心寂靜。
上の煩惱を除斷する能わず、其の心を攝取する能わず、亦復た内心の寂靜を得ず、

10. 不得勝妙正念正知。亦復不得四種増上心法現法樂住。本所未得安隱涅槃。
勝妙なる正念・正知を得ず、亦復た四種の増上心法・現法樂住を得ずして、本より未だ得ざる所の安隱なる涅槃を得ず。

11. 是名比丘愚癡^不辨不善。不能善攝内心之相。而取外相自生障閼。
是れを比丘の愚癡にして不善を辨[[<]辨ぜず、善く内心の相を攝する能わずして、外の相を取り、自から障閼を生ずと名づく。

12. 若有比丘點慧才辯。善巧方便。取内心已。然後取於外相。彼於後時終不退減。自生障閼。
若し比丘有り、點慧才辯ありて、善巧方便もて内心を取り已わり、然る後に外相を取れば、彼れ後の時に於いて終に退減して自から障閼を生ぜず。

13. 譬如厨士。點慧聰辯。善巧方便。供養尊主。能調衆味。
譬えば、厨士、點慧聰辯にして、善巧方便もて尊主を供養するに、能く衆味を調え、

14. 酸醎酢淡 善取尊主 所嗜之相而和衆味。以應其心。
酸醎酢淡、善く尊主の嗜む所の相を取りて、而して衆味を和し、以て其の心に應ずるに、

7. Cf. SN.47.8 *sakho so bhikkhave, bālo avyatto akusalo sūdo naceva lābhī hoti: acchādanassa, na lābhī vetanassa, na lābhī abhihārānaṃ. taṃ kissa hetu: tathā hi so bhikkhave, bālo avyatto akusalo sūdo sakassa bhattu nimittaṃ na uggaṇhāti.*

8. Cf. SN.47.8 *evam eva kho bhikkhave, idhekacco bālo avyatto akusalo bhikkhu kāye na kāyānupassī viharati ātāpī sampajāno satimā vineyya loke abhiññādomanassaṃ.*

9. Cf. SN.47.8 *tassa kāye na kāyānupassino viharato cittaṃ na samādhiyati, upakkilesā na pahīyanti. so taṃ nimittaṃ na uggaṇhāti. ...*

10. (AKBh 377; AKvy 589)
Cf. "*catvāra ādhicaitasikā dṛṣṭadharmasukhavihārā adhigatāḥ.*" (SBV II 145)

asamprāptamānasah sa uttaram yogakṣemaṃ nirvāṇam abhiprārthayamānarūpo bahulaṃ viharati.

Cf. SN.47.8 *sakho so bhikkhave, bālo avyatto akusalo bhikkhu naceva lābhī hoti dīṭṭhadhammasukhavihārānaṃ, na lābhī satisambojjaṅgassa.*

11. Cf. SN.47.8 *taṃ kissa hetu. tathā hi so bhikkhave, bālo avyatto akusalo bhikkhu sakassa cittaṃ nimittaṃ na uggaṇhāti.*

13. Cf. SN.47.8 *seyyathāpi bhikkhave, paṇḍito viyatto kusalo sūdo rājānaṃ vā rājamahāmattaṃ vā nānaccayehi sūpehi paccupaṭṭhito assa:*

14. Cf. SN.47.8 *ambilaggehipi tittakaggehipi kaṭukaggehipi madhuraggehipi khārikehipi akhārikehipi loṇikehipi aloṇikehipi.*

'on kyang gang gi tshe yang snga ma
bzhin du mngon par sdud pa na de de
bzhin du yang nye ba'i nyon mongs pa
de nyid kyis nye ba'i nyon mongs par
'gyur zhing mnyam par gzhog par mi
'gyur te | 363b7
然於後時。若復如前。攝心內聚。還
為如是。隨惑所惱。不得靜定。

'di ltar sngar rang gis sems la mtshan
ma 'bzung ba'i phyir dang | 363b8
如先不取。自心相故。

9. bag la nyal ma bton pa'i phyir ro |
de rgyu de dang nye ba'i nyon mongs
pa des phyir zhing bcom par 'gyur te |
363b8
由是因緣。為隨煩惱。數數擾亂。

brod pa'i don ma thob bo snyam nas
yid mi bde bas 'phongs(D. phongs) par
yang 'gyur la | 364a1
又不能得。所欣求義。復為憂愁。之
所損惱。

shin tu, yun ring por yang nang gi
sams kyi zhi gnas de thob par mi
'gyur ro | 364a1
又經長時。不能獲得內心寂止。

10. zhi gnas la brten pas sngar lhag
mthong yongs su dag pa'i dbang gis
byung ba'i dran pa dang shes bzhin
mchog kyang thob par mi 'gyur te |
364a2
不能獲得。依奢摩他。毘鉢舍那為先。
清淨增上。第一正念正知。

nang gi sems kyi zhi gnas ma thob
pas ni lhag pa'i sems las byung ba
tshe 'di la bde bar gnas pa bzhi thob
par mi 'gyur ro | 364a2
由不獲得。內心寂止故。不能得四增
上心現法樂住。

dran pa dang shes pa bzhin mchog
ma thob pas ni | 364a3
由不獲得。增上第一。正念正智故。

sngon 先 thob ma myong ba'i grub pa
dang bde ba bla na med pa mya
ngan las 'das pa thob par mi 'gyur ro
| 364a3
不能得先所。未得無上安隱。究竟涅
槃。

de las bzlog pa thams cad ni dkar po'i
phyogs kyis sngon ma thob pa'i grub
pa dang bde ba bla na med pa mya
ngan las 'das pas bar du thob par
'gyur bar rig par bya'o | 364a3
與上相違。應知即是。一切白品。乃
至獲得。先所未得。無上安隱。究竟
涅槃。

15. 聽其尊主所欲之味。數以奉之。尊主悅已。必得爵祿愛念倍重。如是點慧居士善取尊主之心。

其の尊主の欲する所の味に聴き、數以て之を奉れば、尊主悦び已わりて必ず爵祿を得せしめ、愛念は倍重す。是の如く、點慧の居士は善く尊主の心を取る。

16. 比丘亦復如是。身身觀念住。斷上煩惱。善攝其心。內心寂止。

比丘も亦復た是の如く、身の身觀念に住し、上の煩惱を斷じ、善く其の心を攝し、内心に寂止し、

17. 正念正知。得四増*心法現法樂住。得所未得安隱涅槃。

正念・正知にして、四増*[上]心法・現法樂住を得て、未だ得ざる所の安隱なる涅槃を得。

18. 是名比丘點慧辯才。善巧方便。取內心相。攝持外相。終無退減。自生障閼。

是れを比丘の點慧辯才にして善巧方便もて内心の相を取り、外の相を攝持し、終に退減して自から障閼を生ずる無しと名づく。

19. 受心法觀亦復如是。

受・心・法觀も亦復た是くの如し。

20. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行

佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

15. Cf. SN.47.8 *sakho so bhikkhave, paṇḍito viyatto kusalo sūdo sakassa bhattu nimittaṃ uggaṇhāti: "idaṃ vā me ajja bhattu sūpeyyaṃ ruccati, imassa vā abhiharati, imassa vā bahum gāṇhāti, imassa vā vaṇṇaṃ bhāsati, ...*

16. Cf. SN.47.8 *tassa kāye na kāyānupassino viharato cittaṃ samādhiyati, upakkilesā pahīyanti. so taṃ nimittaṃ uggaṇhāti. ...*

17. (AKBh 377; AKvy 589)

Cf. "*catvāra ādhicaitasikā dṛṣṭadharmasukhavihārā adhigatāḥ.*" (SBV II 145)

samprāptamānasaḥ sa uttaraṃ yogakṣemaṃ nirvāṇaṃ abhiprārthayamānarūpo bahulaṃ viharati.

18. Cf. SN.47.8 *sakho so, bhikkhave, paṇḍito byatto kusalo sūdo lābhī ceva hoti acchādanassa, lābhī vetanassa, lābhī abhihārānaṃ.*

taṃ kissa hetu. tathā hi so, bhikkhave, paṇḍito byatto kusalo sūdo sakassa bhattu nimittaṃ uggaṇhāti.

20. *atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitaṃ abhyanandan. abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prākṛāntāḥ.*

de la gyos mkhan lta bu'i rnal 'byor
spyod pa'o | 364a4
此中典厨。譬瑜伽師⁵²。

rje bo ji lta bu ni zhi gnas la gtad
pa'i sems so | 364a4
主即譬於內奢摩他。所攝受心。

tshod ma lta bu ni mtshan mar 'dzin
pa'o | 364a5
其饒饒味。喻執取相。

zas dang gos rgya chen po lta bu ni
nang gi sems kyi zhi gnas la sogs pa
yin par rig par bya'o | 364a5
上妙衣食。喻於內心奢摩他等。

nag po'i phyogs las ni byis pa yin par
rig par bya'o dkar po'i phyogs las ni
mkhas pa yin par rig par bya'o |
364a5
當知黑品。喻諸愚夫所有。白品喻諸
智者。

52 Cf. Kusa-Jātaka (Jātaka Vol.5, pp.289-303).

(617)⁵³

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 過去世時有一鳥。名曰羅婆。爲鷹所捉。飛騰虚空。於空鳴喚言。過去世の時に、一鳥有り。名づけて羅婆と曰う。鷹の捉うる所と為り、虚空に飛騰し、空に於いて鳴喚して言えり。

3. 我不自覺。忽遭此難。我坐捨離父母境界。而遊他處。故遭此難。我れ自覺せず、忽ち此の難に遭えり。我れ坐るに父母の境界を捨離し、而して他處に遊べり。故に此の難に遭えり。

4. 如何今日爲他所困。不得自在。如何が今日、他の困しむる所と為り、自在を得ず。

5. 鷹語羅婆。汝當何處(T2,173a)自有境界。而得自在。
鷹、羅婆に語りき。『汝は、當に何處に自ら境界有り、而して自在を得べき。』

6. 羅婆答言。我於田耕墾中。自有境界。足免諸難。是爲我家父母境界。羅婆、答えて言えり。我れ田の耕墾の中に於いて自ら境界有り、諸難を免るるに足る。是れ、我が為の家にして、父母の境界なり。

7. 鷹於羅婆起憍慢言。放汝令去還耕墾中。能得脱以不。

鷹、羅婆に於いて憍慢を起こし言えり。汝を放ち、去りて耕墾の中に還ら令めん。能く脱するを得るや以不や。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavāñ cchrāvastyāṃ viharati jetavane
anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikkhūn āmantrayate.⁵⁴

2. Cf. SN.47.6 *bhūtapubbaṃ bhikkhave,
sakuṇagghi lāpaṃ sakuṇaṃ sahasā
ajjhappattā aggahesi.
atha kho bhikkhave, lāpo sakuṇo
sakuṇagghiya harīyamāno evaṃ hi paridevesi:*

3. Cf. SN.47.6 *"mayam evamhā alakkhikā.
mayam appapuññā, ye mayaṃ agocare
carimhā paravisaye.*

4. Cf. SN.47.6 *sac'ajja mayaṃ gocare
careyyāma sake pettike visaye, nacāyaṃ³
sakuṇagghi alaṃ abhavissa yadidaṃ
yuddhāyā"ti.*

5. Cf. SN.47.6 *ko pana te lāpa gocarō sako
pettiko visayoti.*

6. Cf. SN.47.6 *Yadidaṃ
naṅgalakattakaraṇaṃ leḍḍuttānanti.*

7. Cf. SN.47.6 *atha kho bhikkhave,
sakuṇagghi sake bale apatthaddhā sake bale
avacamānā amuñci,
gaccha kho tvaṃ lāpa, tatthāpi me gantvā na
mokkhasīti.*

53 [Chung V-19], SN.47.6, Sakuṇagghi (V pp.146-148). cf. Jātaka 168 (II p. 58).

54 Jātaka 168: "idaṃ satthā jetavane viharanto attajjhāsayāṃ sakuṇovādasuttam (SN. 47.6) ārabha kathesi."

8. 於是羅婆得脱鷹爪。還到耕壠大塊之下。安住止處。然後於塊上。欲與鷹鬪。

是に於いて、羅婆、鷹の爪を脱することを得。還りて、耕壠の大塊の下に到り、止處に安住し、然る後に塊上に於いて鷹と鬪わんと欲せり。

9. 鷹則大怒。彼是小鳥。敢與我鬪。瞋恚極盛。駿飛直搏。

鷹、則ち大いに怒れり。彼れは是れ小鳥なるに、敢えて、我と鬪うか』と。瞋恚は極めて盛んにして、駿に飛び直ちに搏つ。

10. 於是羅婆入於塊下。鷹鳥飛勢。臆衝堅塊。碎身即死。

是に於いて羅婆は塊下に入りぬ。鷹鳥、飛勢もて臆を堅き塊に衝き、身を碎きて即死せり。

11. 時羅婆鳥深伏塊下仰說偈言。

時に羅婆鳥、深く塊下に伏せ、仰いで偈を説いて言えり。

12. 鷹鳥用力來。羅婆依自界。乘瞋猛盛力。致禍碎其身。

鷹鳥、力を用いて來たり。羅婆は自界に依る。瞋の猛盛の力に乘じ、禍を致し、其の身を碎きぬ。

13. 我具足通達。依於自境界。伏怨心隨喜。自觀欣其力。

我れは具足し通達し、自らの境界に依り、怨を伏し、心隨喜す。自ら觀て其の力を欣ぶ。

14. 設汝有兇愚。百千龍象力。不如我智慧。十六分之一。觀我智殊勝。摧滅於蒼鷹。

設え汝に兇愚なる百千の龍象の力有らんも、我が智慧の十六分の一に如かず。我が智の殊勝なるを觀よ。蒼鷹を摧滅せり。

8. Cf. SN.47.6 *atha kho bhikkhave, lāpo sakuṇo naṅgalakaṭṭhakarāṇaṃ leḍḍuṭṭhāṇaṃ gantvā mahantaṃ leḍḍuṃ abhirūhitvā sakuṇagghiṃ avacamāno aṭṭhāsi, ehi khodāni sakuṇagghi, ehi kho dāni sakuṇagghī.*

9. Cf. SN.47.6 *atha kho sā bhikkhave, sakuṇagghi sake bale apatthaddhā sake bale avacamānā ubho pakkhe sandhāya lāpaṃ sakuṇaṃ sahasā ajjhappattā.*

10. Cf. SN.47.6 *yadā kho bhikkhave, aññāsi lāpo sakuṇo bahu āgatā kho myā'yaṃ sakuṇagghī. atha tasseva leḍḍussa antaraṃ paccupādi. atha kho bhikkhave, sakuṇagghi tattheva uraṃ paccatālesi.*

12. Cf. SN.47.6 *seno balasā patamāno, lāpaṃ gocara-ṭṭhāyinaṃ, sahasā ajjhappatto'va, maraṇaṃ ten'upāgami.*

13. Cf. SN.47.6 *so'haṃ nayena sampanno pettike gocarato, apetasattu modāmi sampassaṃ attham attano ti.*

15. 如是比丘。如彼鷹鳥。愚癡自捨所親父母境界。遊於他處致斯災患。是の如く、比丘、彼の鷹鳥の如く、愚癡にして自ら親しむ所の父母の境界を捨て、他處に遊び斯の災患を致す。

16. 汝等比丘。亦應如是。於自境界所行之處。應善守持。離他境界。應當學。
汝等比丘も亦た、應に是の如くなるべし。自らの境界の所行の處に於いて、應に善く守持すべし。他の境界を離れ、應當に學すべし。

17. 比丘。他處他境界者。謂五欲境界。眼見可意*受念妙色。欲心染著。比丘。他處・他の境界とは、謂わく、五欲の境界なり。眼は可意なるを見、妙なる色を愛*[<受]念し、欲心もて染著す。

18. 耳識聲。鼻識香。舌識味。身識觸。可意*受念妙觸。欲心染著。是名比丘他處他境界。
耳は聲[の可意なる]を識り、鼻は香[の可意なる]を識り、舌は味[の可意なる]を識り、身は觸の可意なるを識り、妙なる觸を愛*[<受]念し、欲心もて染著す。是れを比丘の他處・他の境界と名づく。

19. 比丘。自處父母境界者。謂四念處。云何爲四。
謂身身觀念處。受心法法觀念處。
比丘。自らの處・父母の境界とは、謂わく、四念處なり。云何が四と爲す。謂はく、身の身觀念處、受・心・法の法觀念處なり。

20. 是故比丘。於自行處父母境界。而自遊行。遠離他處他境界。應當學。是れ故に、比丘、自ら行ずる處・父母の境界に於いて、而かも自ら遊行し、他處・他の境界を遠離し、應當に學すべし。

21. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

15. Cf. SN.47.6 *evaṃ he'taṃ bhikkhave, hoti yo agocare carati paravisaye.*

16. Cf. SN.47.6 *tasmātiha bhikkhave, mā agocare carittha paravisaye. agocare bhikkhave, carataṃ pariviseya lacchati māro otāraṃ. lacchati māro ārammaṇaṃ.*

17. Cf. SN.47.6 *ko ca bhikkhave, bhikkhuno agocarō paravisayo: yadidaṃ pañca kāmagaṇā. katame pañca: cakkhuvīññeyyā rūpā itthā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasamhitā rajanīyā. (Saṅg V.3†) (caksurviññeyāni rūpāṇiṣṭāni kantāni manāpāni priyarūpāni kāmopasamhitāni rañjanīyāni.)*

18. (Saṅg V.3†)
(śrotraviññeyāḥ śabdāḥ ... rañjanīyāḥ. ghrānaviññeyā gandhāḥ ... rañjanīyāḥ. jihvaviññeyā rasāḥ ... rañjanīyāḥ. kāyaviññeyāni sparṣavyāni ... rañjanīyāni.)

Cf. SN.47.6 *ayaṃ bhikkhave, bhikkhuno agocarō paravisayo.*

19. Cf. SN.47.6 *ko ca bhikkhave, bhikkhuno gocarō sako pettiko visayo, yadidaṃ cattāro satipaṭṭhānā. katame cattāro: yad uta catvāri smṛtyupasthānāni. katamāni catvāri. kāye kāyānupaśyanā-smṛtyupasthānam. vedanāyāṃ citte dharmaṣu dharmānupaśyanā-smṛtyupasthānam iti.*

20.⁵⁵ Cf. SN.47.6 *gocare bhikkhave, caratha sake pettike visaye. gocare bhikkhave, carataṃ sake pettike visaye na lacchati māro otāraṃ, na lacchati māro ārammaṇaṃ.*

21. *atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. abhinandyaṇumodya bhagavato 'ntikāṭ prakrāntāḥ.*

55 Jātaka 168: "ekadivasaṃ hi sathā bhikkhū āmantetvā, gocare, bhikkhave, caratha sake pettike visaye"ti (SN. 47.6) imaṃ **Samyutta-Mahāvagge suttantaṃ** kathento.

【VS 3.5 諸纏 (kun nas dkris)】

dran pa nye bar gzhag pa bsgom pa
la brtson pa'i dge slong so so'i skye bo
ni chags par 'gyur ba'i yul rgya chen
po mngon sum du gyur pa'am | 364a6
復次有諸苾芻 於諸念住 正勤修習
而是異生。或有勝妙。可愛境界。正
現在前。

yang na gcig pus gnang ba thob pas
na brjed ngas pas tshul bzhin ma yin
pa'i 'du shes la brten nas 'dod chag
(D. chags) kun nas dkris pa drag pa
skyed par byed do | 364a6
或復獨處。得諸相狀。由失念故。不
如理想。以為依止。率爾發起。猛利
貪纏。

de kun nas dkris pa de la ngo tsha bas
gnas te | 364a7
彼於此纏。深心厭恥。

bdag nyid skobs su chud pa bzhin du
sems pas 'bral bar bya ba'i phyir drag
tu 'bad par byed do | 364a7
謂如自身。墮於厄難極鄙穢處。發起
猛利。思遠離心。

de ltar byas nas kyang kun nas dkris
pa de las grol bar 'gyur ro | 364a8
由如是行。便於彼纏。心得解脫。

grol nas kyang yid bde bar 'gyur te |
364a8
既解脫已。心生歡喜。

de'i 'og tu yang skyo ba drag por (D.
'gyur) ro | 364a8
從此已後。起猛利厭。

skyo ba thob nas kyang de'i 'og tu mi
rtag pa'i 'du shes kyi gshol chen po lta
bus rmos shing 'du byed kyi (D. kyis)
rnam pa thams cad khag ma lta bur
brlog pa na | 364a8
猛利厭後得無常想。如見大犁。發諸
行塊。

bden pa'i tshul ni yang dag pa ji lta ba
bzhin du mngon par rtog nas mya
ngan las 'das pa la bsam pa bzhag ste
| 364b1

便於聖諦。如實現觀。以其依止。依
附涅槃。

slob bas yang spyod pa'i yid la byed
pas yul rgya chen po de sdug par yid
la byed de | 364b2

又即有學。觀察作意。於勝妙境。思
惟淨相。

'dod chags kyi bag la nyal de ma
spangs pas 'dod chags kyi kun nas
dkris pa de glo bur ngu du skyes nas
mngon sum du 'gyur ro | 364b2

由未永斷。貪隨眠故。貪纏率爾。生
起現前。

de de la nyes dmigs su lta bas kun
nas dkris pa de bag la nyal dang bcas
pa spang bar bya ba'i phyir mtshan
ma med pa la snyoms par 'jug ste de
ltar na de lhag ma spong ba yin no |
364b3

尋復於彼。深見過患。為欲斷此纏及
隨眠入無相定。如是能斷餘未斷法。

de, ting nge 'dzin de las langs te
spangs pa yang khong du chud nas
rnam bar grol ba'i dga' ba dang bde ba
yang nyams su myong la | 364b3
從定起已。如實了知。一切已斷。領
受微妙。解脫喜樂。

bdag nyid ni ye shes kyi stobs chen
po'i stobs dang ldan la bdud kyi
phyogs ni stobs chung bar yang dag
par mthong ngo | 364b4

如實觀見自己。成就大智力故。名為
彊盛。諸魔羅品。其力羸劣。

(618)

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤
(T2,173b)獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の
祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は
諸の比丘に告げたり。

2a. 於四念處多修習。
四念處に於いて多く修習すれば、

2b. 當得四果。四種福利。
當に四果、四種の福利を得。

3. 云何爲四。謂須陀洹果。斯陀含
果。阿那含果。阿羅漢果。
云何が四と爲す。謂わく、須陀洹果、斯
陀含果、阿那含果、阿羅漢果なり。

4. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉
行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は
佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavāṃ cchrāvastyāṃ viharati jetavane
anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2a. iha bhikṣur caturṇām
smṛtyupasthānānām āsevito bhāvito
bahulīkṛtaḥ.

2b.
*bṛhatphala: 'bras bu che ba
*mahānuśamsā: phan yon chen po

3. Cf. (Śbh II 238)⁵⁶
katamāni catvāri. yad uta
srota-āpattiphalaṃ sakṛdāgāmiphalaṃ
anāgāmiphalaṃ arhattvaṃ iti.

4. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam
abhyānandan. abhinandyaṇumodya bhagavato
'ntikāt prakrāntāḥ.

56 -II-13-a Ms.92a7M, Sh.331-1, W.M02-4, P.148b5, Ch.445b29.

【VS 3.6 大果利 ('bras bu)】

2. dran pa nye bar gzhag pa bzhi
bsgom pa de ni mchog tu khyad par
du 'phags pa'i 'bras bur 'grub pa yin
pas na 'bras bu che bar rig par bya'o |
364b4

復次。修四念住。所引功德。當知能
感。最勝増上。究竟果故。名有大果。

mchog tu bde ba khyad par du 'phags
pa'i phan yon 'grub par 'gyur bas na
phan yon chen po yin bar rig par
bya'o | 364b5

當知能感。最勝増上。樂勝利故。名
有大利。

瑜伽師地論卷第九十七(T30, 861a)

(619)⁵⁷

1. 如是我聞。一時

是の如く我聞けり。一時、

2. 佛在拘薩羅人間遊行。於私伽陀聚落北身怨林中。

佛は拘薩羅の人間に在りて、私伽陀聚落の北なる身怨林の中に遊行せり。

3. 爾時世尊告諸比丘。

爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

4. 過去世時有緣幢伎師。肩上豎幢語弟子言。

過去世の時に、緣難幢伎師有り。肩上に幢を豎て弟子に語りて言えり。

5. 汝等於幢上下向護我我亦護汝。

迭相護持。遊行嬉戲。多得財利。

汝等、幢上に於いて下を向き、我れを護れ。我れも亦た汝を護らん。迭いに相護持し、遊行し嬉戲し、多く財利を得ん。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. (Cf. MPS 8.4; 13.4) *bhagavān kośaleṣu caryāṃ caran*

**Sikatāgrāmakam anuprāpto*

**Sikatāgrāmake viharaty uttareṇa grāmasya śiṃṣapāvane.*

[Mv. 1.317]

cārikāṃ caramāṇaḥ. ... yena kośalānāṃ

... nigamo tad avasāri tad anuprāpto

tatraiva viharati anyatarasmiṃ

vanaṣaṇḍe.

Cf. *sedakaṃ nāma sumhānaṃ nigamo.*

(SN.47.19)

3. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

4. Cf. SN.47.19 *bhūtapubbaṃ bhikkhave,*

caṇḍālavaṃsiko caṇḍālavaṃsaṃ ussāpetvā

medakathālikaṃ antevāsiṃ āmantesi:

5. Cf. SN.47.19 *ehi tvaṃ samma*

medakathālike, caṇḍālavaṃsaṃ abhirūhitvā

mama uparikkhandhe tiṭṭhāhīti. ...

57 [Chung V-20], SN.47.19, Sedakaṃ, V pp.168-169). Cf. 『根本説一切有部毘奈耶藥事』卷七 (T24.32b); 經名等固有名詞については『国訳一切經 律部二十三』p.108 n.76; 八尾[2013] p.153; Chung n.14参照。以下の通り、まとめられる。

	村名	弟子名	師名
	*Sikatā / *Sikatin(八尾[2013])	-	-
雜阿619:	私伽陀	-	-
SN.47.19:	Sedaka	Medaka	-
藥事卷七:	斯迦底(bye ma can)	迷勒迦	阿吒羅

【VS 4.1 邪師 (slob dbon)】

phyi rol gyi mu stegs can ni rang gi
slob ma rnams kyi nang du slob dpon
du rnam par 'jog ste | 364b6
有諸外道。於弟子衆。自立為師。

rnyed pa 'dod cing bkur sti 'dod nas
rigs kyi bu bdag la phan par 'dod pa
zhig der rkyen dang phrad nas rab tu
byung ba la 'di skad du khyod tshur
nga'i yo byad thams cad la thun mong
du longs spyod cing 'dug la | 364b7
專求利養。專求恭敬。專求自利。遇
緣和合。有族姓子。投其出家。因而
謂曰。汝之與我。先無一切。資身衆
具。可共受用。

khyod kyi nga'i bsngags pa gzhan
dag la brjod cig | skyon yang 'di lta ste
| bcab pa'i phyir srungs shig | das
kyang khyod la de bzhin du bya'o |
364b8
汝應為我。往詣他處。褒讚我德。掩
藏我失。我亦為汝。行如是事。

bdag cag gnyis gcig gis gcig la
srungs na rgyal po nams dang zhang
blon rnams nas ded dpon rnams kyi
bar dag las rnyed pa thob par 'gyur la
| bkur par yang 'gyur ro zhes zer la |
364b8
我等二人。迭相依護。當於諸王。若
與王等。乃至一切。大商主邊。多獲
利養。及以恭敬。

de skad言 zer ba'i slob dpon師 de la
bdag la phan自利 par 'dod pa'i專求
slob mas弟子 'di skad du告言 de lta
ni lta bar mi bya勿為此見 ste | 365a1
若作是言。諸外道師。名專自利。然
其弟子。便發抗言。勿為此見。

grogs pos bsrungs pas ni ngan 'gror
'gro ba'i nyes pa de dag las bdag nyid
bsrung bar mi'gyur te | 365a2
如是護者。未名自護。往惡趣失。若
防此失。乃名自護。

6. 時伎弟子語伎師言。不如所言。但當各各自愛護。遊行嬉戲。多得財利。身得無爲安隱而下。

時に伎弟子、伎師に語りて言えり。言う所の如くならず、但だ當に各各、自ら愛護し、遊行し嬉戲し、多く財利を得べし。身は無爲・安隱なるを得て、而して下りん。

7. 伎師答言。如汝所言。各自愛護。伎師、答えて言えり。汝の言う所の如く、各自愛護せよ。

8. 然其此義亦如我說。*己自護時即是護他。他自護時亦是護*己。然かも其れ、此の義も亦た我が説の如し。己*[>己]の自ら護る時は即ち是れ他を護るなり。他の自ら護る時も亦た是れ己*[>己]を護るなり。

9. 心自親近。修習隨護作證。是名自護護他。心、自ら親近し、修習し護るに隨い證を作さば、是れ自ら護り他を護ると名づく。

10. 云何護他自護。不恐怖他。不違他不害他。慈心哀彼。是名護他自護。云何が他を護り、自ら護る。他を恐怖せず、他に違わず、他を害せず、慈心もて彼を哀れむ。是れを他を護り自ら護ると名づく。

11. 是故比丘。當如是學。自護者修四念處。護他者亦修四念處。是れ故に、比丘、當に是の如く學すべし。自ら護る者は、四念處を修し、他を護る者も亦た四念處を修すべし。

12. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行。佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

6. Cf. SN.47.19 *evaṃ vutte bhikkhave, medakathālikā antevāsī caṇḍālavaṃsikaṃ etad avoca: "na kho nāmenaṃ ācariya, evaṃ bhavissati, tvaṃ ācariya, attānaṃ rakkha, ahaṃ attānaṃ rakkhissāmi. evaṃ mayaṃ attaguttā attarakkhitā sippāni ceva dassessāma, lābhañ ca lacchāma, sotthinā ca caṇḍālavaṃsā orohessāmā"ti.*

8. (Śikṣāsamuccaya 4, p.88⁵⁸)
paraṃ rakṣati, ātmānaṃ rakṣati,
paralokaṃ rakṣati.

Cf. SN.47.19 *attānaṃ bhikkhave, rakkhanto paraṃ rakkhati. paraṃ rakkhanto attānaṃ rakkhati.*

9. Cf. SN.47.19 *kathaṃ ca bhikkhave, attānaṃ rakkhanto paraṃ rakkhati, āsevanāya bhāvanāya bahulīkammaṇa. evaṃ kho bhikkhave, attānaṃ rakkhanto paraṃ rakkhati.*

10. Cf. SN.47.19 *kathaṃ ca bhikkhave, paraṃ rakkhanto attānaṃ rakkhati, khantiyā avihimsāya mettacittatāya anuddayatāya. evaṃ kho bhikkhave, paraṃ rakkhanto attānaṃ rakkhati.*

11. Cf. SN.47.19 *"attānaṃ bhikkhave, rakkhissāmī"ti satipaṭṭhānaṃ sevitaḥkhaṃ, paraṃ rakkhissāmīti satipaṭṭhānaṃ sevitaḥkhaṃ,*

12. *atha te bhikkhavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. abhinandyaṇumodya bhagavato 'ntikāṭ prakrāntāḥ.*

58 "Kṣitigarbhasūtre 'py āha".

6. de bas na khyod dang bdag gis
kyang bdag nyid de ma yin pa zhig
gis srung dgos so | 365a2
是故汝應。如前自護。我亦當自。別
為餘護。

7. de ma yin pas bdag gis khyod
bsrungs sam khyod kyis bdag bsrungs
na ni bsrungs na ni bsrungs par mi
'gyur ro zhes smras na | 365a3
我既不能護汝。汝亦不須護我。

don de la ni slob ma de nyid rigs par
smra ba dang mkhas pa yin par rig par
bya ste | tshe phyi ma ched cher 'dzin
pa'i phyir ro | 365a3
於此義中。當知弟子。是如理語者。
是聰慧者。重當來故。

slob dbon ni byis pa yin te | tshe 'di
ched cher 'dzin pa'i phyir ro | 365a4
應知其師。是非理語者。是愚癡者。
重現在故。

nyon mongs pa dang yang bcas pas na
| gzhan la 'tho(D. tho) 'tsham par byed
do | 365a4
復有雜染。觸惱於他。

des na nyon mongs pa dang bcas pa'i
phyir bdag nyid kyang bsrungs pa ma
yin la | 365a4
由雜染故。不能自護。

de'i rgyus gzhan la rnam par mtho
btsams pas gzhan dag kyang bsrungs
pa ma yin no | 365a5
因此惱他。不名護他。

9. de la snga ma bzhin du kun tu
bsten pa la sogs pas ni 'di lta ste |
bdag bsrungs pa'i phyir nyon mongs
pa spang bar bya'o | 365a5
此中如前。由親近等。斷諸煩惱。名
當自護。

10. de'i 'og tu de spong ba'i rgyu las
byung ba gzhan la rnam par mtho(D.
tho mi) 'tsham pa la sogs pas ni
gzhan yang srung bar bya'o | 365a6
從此已後。由斷為因。不惱他等。名
當護他。

de la khro ba mi skyed pa dang rnam
par mi 'tshe ba gnyis ni rnam par
mtho(D. tho) mi 'tsham pa'i don du rig
par bya'o | 365a6
應知此中。無瞋無害。是無惱義。

rjes su snying brtse ba ni phan pa'i
sems so | byams pa'i sems ni bde ba'i
sems so | 365a7
無緣而起利樂二心。

rjes su snying brtse ba dang byams
pa'i sems gnyis ni snying brtse ba'i
don du rig par bya ste | 365a7
無緣而起。慈悲二心。當知如此是哀
愍義。

snying brtse na gzhan la rnam par
mtho 'tsham par mi 'gyur te | 365a7
由哀愍故。不惱於他。

de bas na 'de dag thams cad ni snying
brtse ba'i rnam grangs su rig par bya'o
| 365a8
是故當知。一切哀愍。與彼相違。

(620)⁵⁹

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

2a. 佛住王舍城迦蘭陀竹園。
佛は王舍城の迦蘭陀竹園に住せり。

2b. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

3. 大雪山中。寒氷嶮處。尚無猿猴。
況復有人。
大雪山の中の寒氷嶮しき處には、尚お猿
猴すら無し。況んや復た人有らんや。

4. 或復有山。猿猴所居。而無有人。
或いは復た山有り 猿猴の居る所にして
而かも人有る無し。

5a. 或復有山。人獸共居。
或いは復た山有り、人獸共に居り、

5b. 於猿猴行處。獵師以麝膠塗其草
上。
猿猴の行く處に於いて、獵師、麝膠を以
て其の草の上に塗るに、

6. 有點猿猴遠避而去。愚癡猿猴不
能遠避。
點有る猿猴は遠く避けて而して去るに、
愚癡の猿猴は遠く避くる能わず。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2a. (NidSa 6.1)
bhagavān rājagṛhe viharati veṇuvane
kalandakanivāpe |

2b. tatra bhagavān bhikkhūn
āmantrayate.

3. Cf. SN.47.7 *atthi bhikkhave, himavato
pabbatarājassa duggā visamā desā, yattha
n'eva makkaṭānaṃ cārī na manussānaṃ.*

4. Cf. SN.47.7 *atthi bhikkhave, himavato
pabbatarājassa duggā visamā desā yattha
makkaṭānañhi kho cārī na manussānaṃ.*

5a. Cf. SN.47.7 *atthi bhikkhave, himavato
pabbatarājassa samabhūmibhāgā ramaṇīyā,
yattha makkaṭānaṃ c'eva cārī manussānañca.*

5b. Cf. SN.47.7 *tatra bhikkhave, luddā
makkaṭavūthisu lepaṃ oḍḍenti makkaṭānaṃ
bādhanaṃ,*

6. Cf. SN.47.7 *tatra bhikkhave, ye te makkaṭā
abālajātikā alola jātikā te taṃ lepaṃ dīsvā
ārakā parivajjenti.
yo pana so hoti makkaṭo bālajātiko lolajātiko
so taṃ lepaṃ upasaṅkamitvā*

59 [Chung V-21], SN.47.7, Makkato (V pp.148-149). Cf. 『大般涅槃經』(No.374/375) 卷25/ 卷23 (T12, 517a8-23/761a17-b5); 『佛本行集經』卷14 (T3, 717 c14); 『大寶積經』卷80 (T11, 464c22-23); 『大乘寶雲經』卷2 (T16, 248b13); 『觀普賢菩薩行法經』卷1 (T9, 392c6-10); *Śikṣāsamuccaya* (ed. Bendall) p.77.

【VS 4.2 住雪山(gangs ri 'dzud pa)】

3. legs par gsungs pa'i chos 'dul ba ni
gangs kyi ri lta bu yin bar rig bar
bya'o 應知 | 365a8
復次應知。雪山喻。佛善說法毘奈耶

de la yang cha gsum yod de | 365a8
此中略有。三分可得。

mi slob pa'i sa dang slob pa'i sa dang |
365a8
一。無學地。二。有學地。

so so'i skye bo'i sa'o | 365b1
三。異生地。

tshul bzhin ma yin pa'i yid la byed pa
dang ldan pa'i sems ni spre'u lta bu'o
喻 | 365b1
猿猴喻。彼非理作意。諸相應心。

bdud ni rngom(D. rñgon) pa lta bu'o
喻 | 365b1
獵人喻魔。

de la mi slob pa'i sa la ni gnyis ka'i
gnas med do | 365b1
於無學地。俱不能行。

slob pa'i phyir mi 'ong ba rñams la ni
tshul bzhin ma yin pa yid la byed pa
dang ldan pa'i sems spre'u lta bu 喻
gcig gi gnas ni yod la | 365b1
於有學地。乃至不還。唯有非理作意
相應。猿猴喻心。獨一能往。

bdud rñgon pa lta bu'i ni med do |
365b2
非獵人喻。魔所能行。

so so'i skye bo'i sa la ni gnyis ka'i
gnas yod par rig par bya'o | 365b2
於異生地。二俱能行。

de la byis pa ni yul gzhan gyis yul
gzhan las nges par 'byung bar blta ste
| 365b2
又諸愚夫。要觀餘境。能出餘境。

yul gzhan yongs su tshol ba na yang
yul gzhan gis bcings par 'gyur te |
365b2
追求餘境。餘境所縛。

de bas na yul las kyang yongs su grol
bar mi 'gyur ro | 365b3
是故於境。不得解脫。

7. 以手小觸即膠其手。復以二手。
欲解求脱。即膠二手。
手を以て小し觸るれば即ち其の手に膠き、
復た二の手を以て解きて脱することを求
めんと欲すれば、即ち二の手に膠き、

8. 以足求解。復膠其足。以口嚙草。
輒復膠口。五處同膠。聯捲臥地。
足を以て解くことを求むれば、復た其の
足に膠き、口を以て草を嚙むに、輒ち復
た口に膠き、五處同じく膠き、聯捲して
地に臥せり。

9. 獵師既至。即以杖貫。擔負而去。
獵師、既に至り、即ち杖を以て貫き、擔
ぎ負いて而して去る。

10. 比丘當知。愚^{T2,173c}癡猿猴。捨
自境界父母居處。遊他境界。致斯苦
惱。

比丘、當に知るべし。愚癡の猿猴は、自
らの境界・父母の居處を捨て、他の境界
に遊び、斯の苦惱を致すことを。

11. 如是比丘。愚癡凡夫。依聚落住。
晨朝著衣持鉢。入村乞食。
是の如く、比丘、愚癡の凡夫は、聚落に
依りて住し、晨朝に衣を著け鉢を持ち、
村に入り、乞食するに、

7. Cf. SN.47.7 *hatthena gaṇhāti. So tattha
bajjhati. Hatthaṃ mocessāmīti dutiyena
hatthena gaṇhāti, so tattha bajjhati. Ubho
hatthe mocessāmīti.*

8. Cf. SN.47.7 *pādenana gaṇhāti, so tattha
bajjhati. ubho hatthe mocessāmīti pādaṃ cāti
dutiya pādena gaṇhāti, so tattha bajjhati.
Ubho hatthe mocessāmī pāde cāti tuṇḍena
gaṇhāti, so tattha bajjhati.
evaṃ hi so bhikkhave, makkaṭo pañcuḍḍito
thanam seti anayaṃ āpanno vyasanam
āpanno.*

9. SHT IV 162 d 8 V(?)⁶⁰
///.. **lubdhah kaṣṭhaka[d]**⁶¹

Cf. SN.47.7 *taṃ enaṃ bhikkhave, luddo
vijjhitvā tasmim yeva makkaṭam uddharitvā
avissajjetvā yena kāmam pakkamati.*

10. ///(**pai**)[**t**](**r**)**kaṃ viśayam=a**

Cf. SN.47.7 *evaṃ hitaṃ bhikkhave, hoti yo
agocarō carati paravisaye.*

11. *evam eva bhikṣavaḥ,
... prthagjanaḥ ...
pūrvāhṇe nivasya pātracivaram ādāya
grāmaṃ piṇḍāya praviśat,*

60 細田典明『『雑阿含経』道品のサンスクリット断片—Kat.-Nr.162について—』『印度哲学仏
教学』第16号, p.31.

61 SHT IVでは"**kaṣṭhaka(n)d**"と読むが³(cf.p.106,n.23)、M.Schmidtによって訂正された。Cf.
SHT VII p.240, SWTF II p.41b, p.74a.

12. 不善護身。不守根門。眼見色已。則生染著。耳聲鼻香舌味身觸。皆生染著。

善く身を護らず、根門を守らず、眼の色を見已われれば、則ち染著を生じ、耳の聲・鼻の香・舌の味・身の觸、皆な染著を生ず。

13. 愚癡比丘内根外境。被五縛已。隨魔所欲。

愚癡の比丘は、内根・外境の五に縛られ已わりて、魔の欲する所に隨う。

14. 是故比丘。當如是學。於自所行處父母境界。依止而住。莫隨他處他境界行。

是れ故に、比丘、當に是の如く學すべし。自ら行ずる所の處・父母の境界に於いて、依止して而して住し、他處・他の境界に隨い行ずる莫きことを。

15. 云何比丘。自所行處父母境界。云何が比丘、自ら行ずる所の處・父母の境界なる。

16. 謂四念處。身身觀念住。受心法法觀念住。

謂わく、四念處なり。身の身觀念に住し、受・心・法の法觀念に住するなり。

17. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行。

佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

12. Cf. SN.47.7 *ko ca bhikkhave, bhikkhuno agocarō paravisayo: yadidaṃ pañcakāmaguṇā. katame pañca:*

cakkhaviññeyyā rūpā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasamhitā rajanīyā. sotaviññeyyā saddā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasamhitā rajanīyā. ghānaviññeyyā gandhā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasamhitā rajanīyā. jivhaviññeyyā rasā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasamhitā rajanīyā. kāyaviññeyyā phoṭṭhabbā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasamhitā rajanīyā. ayaṃ bhikkhave, bhikkhuno agocarō paravisayo.

14. Cf. SN.47.7 *gocare bhikkhave, caratha sake pettike vīsaye. gocare bhikkhave, carataṃ sake pettike vīsaye na lacchati māro otāraṃ, na lacchati māro ārammaṇaṃ.*

15. Cf. SN.47.7 *ko ca bhikkhave, bhikkhuno gocarō sako pettiko visayo:*

16. *yad uta catvārīmāṇi bhikṣavaḥ smṛtyupasthānāni. kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.*

17. *atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prākṛāntāḥ.*

(621)⁶²

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

2. 時尊者阿難與衆多比丘。詣世尊所。稽首禮足。退坐一面。尊者阿難白佛言。

時に尊者阿難は、衆多の比丘と與に、世尊の所に詣りて、稽首し足に禮して、退きて一面に坐せり。尊者阿難、佛に白して言わく。

3. 世尊。此諸年少比丘當云何教授。云何爲其說法。

世尊。此の諸の年少比丘は當に云何が教授し、云何が其の為に說法すべき。

4. 佛告阿難。此諸年少比丘當以四念處。教令修習。

佛は阿難に告げたり。

此の諸の年少比丘は當に四念處を以て教え、修習せ令むべし。

5a. 云何爲四。謂身身觀念住。

云何が四と爲す。謂わく、身の身觀念に住し、

5b. 精勤方便。不放逸行。正智正念。寂*定於心。乃至知身。⁶³

精勤し方便して、放逸せずに行じ、正智・正念もて心を寂靜*〔<定〕し、乃至、身を知る。

5c. 受心法法觀念住。精勤方便。不放逸行。正念正智。寂靜於心。乃至知法。

受・心・法の法觀念に住し、精勤し方便して、放逸せずに行じ、正念・正智もて心を寂靜し、乃至、法を知る。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.

2. (MSV III-1[= Bhaiṣajyavastu], 48) athāyusmān ānando sambahulair bhikṣubhiḥ sārddham yena bhagavāṃs tenopasaṃkrāntaḥ. upasaṃkramya bhagavataḥ pāḍau śirasā vanditvaikānte nyaśīdat. ekāntaniṣaṇṇo āyusmān ānando bhagavantam idam avocat.⁶⁴

3-4. Cf. SHT V 1036 R5
anya(ta)ro bhikṣu navo daha(rah)
acirapravrajitaḥ
acirāgato=smin=dharmavinaye.

Cf. SN.47.4 Ye te bhikkhave, **bhikkhū navā**
acirapabbajitā adhunāgatā imaṃ
dhammavinayaṃ, te vo bhikkhave, bhikkhū
catunnaṃ satipaṭṭhānānaṃ bhāvanāya
samādapetabbā, nivesetabbā
patipaṭṭhāpetabbā.

5a. katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati.

5b. ātāpī saṃprajāṇaḥ smṛtimān.

5c. vedanāyāṃ citte dharmeṣu
dharmānupaśyī viharati.
ātāpī saṃprajāṇaḥ smṛtimān.

62 [Chung V-22], SN.47.4, Sallam (V pp. 144-145).

63 定型句には以下の二例があり、漢訳と逐語的には対応しない。

	精勤方便。	不放逸行。	正智正念。	寂定於心。
(I)	ātāpī	—	saṃprajāṇaḥ smṛtimān/pratismṛtaḥ	—
(II)	eko vyapakṛṣṭo 'pramatta ātāpī	—		prahitātmā

64 Cf. Chung, p.314 (第15經のサンスクリット文).

【VS 4.3(1) 勸勉 (brtun)】

dam pa'i chos nyan pa dang | 'chang
ba dang | don rtogs pa dang | 365b4
復次。由於正法聽聞受持。觀察義理。

chos kyi rjes su mthun pa'i chos la
nan tan du sgrub pa rnam kyis ni
'dzud pa dang 'dul ba dang gzhas pa
dang dgod pa'i don du go rim bzhin
du rig par bya'o | 365b4
法隨法行。如其次第。應知。勸。化。
安。立。四義。

chos gsum gyis ni 'khrig pa'i 'dod
chags kyis kun nas dkris pa rgya chen
po yang spong bar 'gyur na | 365b4
復有三法。尚能斷餘。一切勝妙。姪
欲貪纏。

'dod pa'i 'dod chags kyis kun nas dkris
pa ngan pa lta ci smos te | 365b5
況乎鄙劣。諸欲貪纏。

gsum gang zhe na | 365b5
何等為三。

brtson 'grus kyi stobs dang | 365b5
一。精進力。

bag yod pa'i stobs dang | 365b6
二。不放逸力。

gnyen po'i stobs 力 so | 365b6
三。對治力。

6. 所以者何。若比丘。住學地者。
未得進上。志求安隱涅槃時。
所以は何。若しくは比丘にして學地に住
する者、未だ進上を得ずして、安隱の涅
槃を志求する時、

7. 身身觀念住。精勤方便。不放逸
行。正念正智。寂靜於心。
受心法。法觀念住。精勤方便。不放
逸行。正念正智。寂靜於心。乃至於
法遠離。
身の身觀念に住し、精勤し方便して、放
逸せずに行じ、正念・正智もて心を寂靜
し、受・心・法の法觀念に住し、精勤し
方便して、放逸せずに行じ、正念・正智
もて心を寂靜し、乃至、法に於いて遠離
す。

8. 若阿羅漢。諸漏已盡。所作已作。
捨諸重擔。盡諸有結。正知善解脫。
若しくは阿羅漢にして、諸漏已に盡き、
所作已に作し、諸の重擔を捨て、諸の有
結を盡くし、正知にして善く解脫せるも、

9. 當於彼時。亦修身身觀念住。精
勤方便。不放逸行。正念正智。寂靜
於心。受心法。法觀念住。乃至於法
得遠離。
彼の時に当たり、亦た身の身觀念に住す
るを修し、精勤し方便して、放逸せず
に行じ、正念・正智もて心を寂靜し、受・
心・法の法觀念に住し、乃至、法に於い
て遠離を得る。

10. 時尊者阿難歡喜(T2,174a)隨喜。作
禮而去
時に尊者阿難、歡喜隨喜して、禮を作し
而して去れり。

6. tat kasmād dhetoḥ.
(SBV II 146) yo 'sau bhadanta bhikṣur
bhavati śaikṣa asaṃprāptamānaṣaḥ sa
uttaraṃ yogakṣemaṃ nīrvāṇaṃ
abhiprārthaya mānārūpo bahulaṃ
viharati;

7. kāye kāyānupaśyī viharati.
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān...(cf. 5b,c)

vedanāyāṃ citte dharmeṣu
dharmānupaśyī viharati.
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān...(cf. 5b,c)
Cf. SN.47.4 *kāyānupassino viharatha,*
ātāpino saṃprajānā ekodibhūtā
vippasannacittā samāhitā ekaggacittā kāyassa
yathābhūtaṃ nāṇāya.
vedanāsu citte dhammesu dhammānupassino
viharatha, ātāpino saṃprajānā ekodibhūtā
vippasannacittā samāhitā ekaggacittā
dhammānaṃ yathābhūtaṃ nāṇāya. ...
dhammehi viṣaṃyuttā.

8. (SBV II 146) so 'pareṇa samayena
āsravāṇāṃ kṣayād anāsravāṃ
cetovimuktiṃ prajñāvimuktiṃ dṛṣṭa eva
dharme svayam abhijñāyā sāksātkṛtvā
upasaṃpadya pravedayate; kṣīṇā me
jāti, uṣitaṃ brahmacaryaṃ; kṛtaṃ
karaṇīyaṃ; nāparam asmād bhavaṃ
prajānāmi iti;

9. kāye kāyānupaśyī viharati.
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān...(cf. 5b,c)
vedanāyāṃ citte dharmeṣu
dharmānupaśyī viharati.
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān...(cf. 5b,c)

10. *athānando bhagavato bhāṣitaṃ*
abhyānandyaṇumodya bhagavataḥ
pādaḥ śīrasā vanditvā bhagavato 'ntikāt
prakrāntaḥ.

(622)⁶⁵

1. 如是我聞。一時

是の如く我聞けり。一時、

2. 佛在跋祇人間遊行。到鞞舍離國
菴羅園中住。

佛は跋祇の人間に在りて遊行し、鞞舍離
國の菴羅園の中に到りて住せり。

3. 爾時菴羅女聞世尊跋祇人間遊行
至菴羅園中住。

爾の時、菴羅女、世尊の跋祇の人間に遊
行し菴羅園の中に至りて住するを聞き、

4. 即自莊嚴乘車。出鞞舍離城。詣
世尊所。恭敬供養。詣菴羅園門。下
車歩進。

即ち自ら乗車を莊嚴し、鞞舍離城を出で、
世尊の所に詣り『恭敬し供養せん』と、
菴羅園の門に詣りて、車を下り歩み進み、

5. 遙見世尊與諸大衆圍遶說法。世
尊遙見菴羅女來。語諸比丘。

遙かに世尊の諸の大衆の與に圍遶せられ
說法せるを見たり。世尊、遙かに菴羅女
の來たるを見、諸の比丘に語りき。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. MPS10.3 (atha bhagavān vṛjīṣu
janapade)ṣu caryāṃ caran vaiśālīm
anuprāpto vaiśālyāṃ viharaty
āmra(pālivane ||)

3. (aśrauṣīd āmrāpālir gaṇikā ||
bhagavān gautamo vaiśālīm anu)prāpto
vaiśālyāṃ viharaty asmākam
evāmravane ||

4. MPS10.6 tasyā yāvad yānabhūmis
tāvad yānena g(atvā yānād avatīrya
padbhyām eva yena bhagavāṃs
tenopasaṃkrāntā ||)

5. (adrākṣīd bhagavān
anekaśatabhikṣuparivāre sanniṣaṇṇa
āmrāpālīm dūrād āgacchantīm) dṛṣtv(ā)
ca puna(r) bh(i)kṣūn āmantrayate ||

65 [Chung V-23], SN.47.1, Ambapāli (V pp.141-142).

6. 汝等比丘。勤攝心住。正念正智。
今菴羅女來。是故誡汝。云何爲比丘
勤攝心住。

汝等、比丘、勤めて心を攝し住して、正
念・正智なれ。今、菴羅女來たる。是れ
故に、汝を誡めよ。云何が比丘、勤めて
心を攝し住すと爲す。

7. 若比丘。已生惡不善法當斷。生
欲方便。精進攝心。

若し比丘、已に生ぜし惡不善法は當に斷
ずべし。欲を生じ方便もて精進し心を攝
し、

8. 未生惡不善法不令起。

未だ生ぜざる惡不善法は起こら令めず、

9. 未生善法令生。

未だ生ぜざる善法は生ぜ令め、

10. 已生善法令住不忘。修習增滿。
生欲方便。精勤攝心。

已に生ぜし善法は住して忘れざら令め、
修習は増滿し、欲を生じ方便もて精勤し
心を攝せば、

11. 是名比丘勤攝心住。

是れを比丘の勤めて心を攝し住すと名づ
く。

6. MPS10.8 ātāpino bhikṣavo viha(rata
saṃprajānāḥ pratismṛtāḥ || āmrāpālir
gaṇikātrāgatā ||)

MPS10.9 (kathaṃ ca bhikṣur ātā)pī
bhavati ||

7. MPS10.10-1 iha bhikṣur utpannānāṃ
pāpakānāṃ akuśalānāṃ dharmāṇ(āṃ
prahāṇāya cchandaṃ janayati
vyāyacchate vīryaṃ ārabhate cittaṃ
pragṛhṇāti pradadhāti ||)

8. MPS10.10-2 (a)nutpannānāṃ
pāpakānāṃ akuśalānāṃ dharmāṇāṃ
anutpād(āya cchandaṃ janayati
pūrvavat ||

9. anutpannānāṃ kuśalānāṃ
dharmāṇāṃ utpādāya cchandaṃ
jana)yati pūrvavat ||

10. utpannānāṃ kuśalānāṃ dharmāṇāṃ
sthitaye 'saṃpramoṣāya
(bhāvanāparipūraye
bhūyobhāvavṛddhivipulatāyai cchandaṃ
janayati pūrvavat ||

11. MPS10.10-3 ayaṃ) bh(i)kṣur ātāpī
bhavati ||

(Śbh II 176)⁶⁶

7. utpannānām pāpakānām akuśālānām
dharmānām prahāṇāya, cchandaḥ
janayati vyāyacchate vīryam ārabhate
cittam praghnāti pradadhāti.
一。於已生惡不善法為令斷故。生欲
策勵發勤精進。策心持心。

8. anutpannānām pāpakānām
akuśālānām dharmānām anutpādāya,
二。於未生惡不善法為不生故。生欲
策勵發勤精進。策心持心。

9. anutpannānām kuśālānām
dharmānām utpādāya,
三。於未生善法為令生故。生欲策勵
發勤精進。策心持心。

10. utpannānām kuśālānām dharmānām
sthitaye 'saṃmoṣāya bhāvanāparipūraye
bhūyobhāvavṛddhi-vipulatāyai chandam
janayati vyāyacchate vīryam ārabhate
cittam praghnāti pradadhāti.
四。於已生善法為欲令住令不忘失。
令修圓滿令倍修習。令其增長令其廣
大。生欲策勵發勤精進。策心持心。

【VS 4.3(2)勸勉 (brtun)】

7. de la brtson 'grus kyi stobs kyi ni
skyes pa rnams, dang du mi len to |
365b6
由精進力。其已生者。令不堅住。

8. gnyis kyi ni ma skyes pa mi skye
bar byed do | 365b6
由餘二力。其未生者。令不得生。

de ltar na rnal 'byor pa de ni skyes pa
rnams spang ba dang | ma skyed (D.
skyes) pa rnams mi skyed pa'i phyir
zhugs pa yin no | 365b6
如是行者。勤修正行。為欲斷除。已
生惡故。及未生者。令不生故。

66 -II-12-b Ms.84b7M, Sh.288-19, W.*97-1, P.131a5, Ch.439c18. cf. Śbh II 200-209 (-II-12-b-(2)「四正斷」).

12. 云何名比丘正智。若比丘去來威儀。常隨正智。迴顧視瞻。屈伸俯仰。執持衣鉢。

云何が比丘の正智と名づく。若し比丘の去來する威儀、常に正智に隨い、迴顧視瞻し、屈伸・俯仰し、衣鉢を執持し、

13. 行住坐臥。眠覺語默。皆隨正智住。是正智。

行住坐臥、眠覺語默、皆な正智に隨い住すれば、是れ正智なり。

14. 云何正念。

云何が正念なる。

15. 若比丘。内身身觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。

若し比丘、内身の身觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、

16. 如是受心法。法觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。是名比丘正念。

是の如く、受・心・法の法觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏すれば、是れ比丘の正念と名づく。

17. 是故汝等勤攝其心。正智正念。今菴羅女來。是故誡汝。

是れ故に、汝等、勤めて其の心を攝し、正智・正念なれ。今、菴羅女來たる。是れ故に、汝を誡めよ。

12. MPS10.11 kathaṇ ca bhikṣuḥ
saṃprajāno bhavati ||
MPS10.12-1 iha bhi(kṣur abhikrānte
pratikrānte saṃprajāno bhavaty ālokite
vilokite saṃmiñjite prasāri)t(e)
saṃghāṭicīvarapātradhāraṇe

13. MPS10.12-2 gate sthite niṣaṇṇe
śayite jāgarite (bhāṣite tūṣṇīmbhāve
supte śrame viśrame saṃprajāno
bhavati || ayaṃ bhikṣur saṃprajāno
bhavati ||

14. MPS10.13 kathaṇ ca bhikṣuḥ
pratismṛto bhavati ||

15. MPS10.14-1 iha bhikṣur adhyātmaṃ
kā(ye kāyānupaśyī viharaty ātāpī
saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā
loke daurmanasyam || bahirdhā kā)ye
'dhyātmabahirdhā kāye

16. MPS10.14-2 'dhyātmaṃ vedanāsu
bahirdhā vedanāsv (adhyātmabahirdhā
vedanāsv adhyātmaṃ citte bahirdhā
citte 'dhyātmabahirdhā citte
'dhyātmaṃ dharme)ṣu bahirdhā
dharmeṣv adhyātmabahirdhā dharmeṣu
dharmānupaśyī vi(haraty ātāpī
saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā
loke daurmanasyam || ayaṃ bhikṣuḥ
prati)smṛto bhavati ||

17. MPS10.15 ātāpino bhikṣavo
viharata saṃprajānaḥ pra(tismṛtāḥ ||
āmrāpālir gaṇikātrāgatety eva
mayākhyāta)m ||

18. 時菴羅女詣世尊所。稽首禮足。却住一面。

時に、菴羅女、世尊の所に詣りて、稽首し、足に禮して、却って一面に住せり。

19. 爾時世尊爲菴羅女。種種說法。示教照喜。示教照喜已。默然而住。爾の時、世尊、菴羅女の爲に、種種に說法し、示教照喜し、示教照喜し已わり、默然とし而して住せり。

20. 爾時菴羅女整衣服。爲佛作禮合掌白佛。

爾の時、菴羅女、衣服を整え、佛の爲に禮を作し合掌して佛に白せり。

21. 唯願世尊與諸大衆。明日受我請中食。

唯だ願わくば、世尊、諸の大衆と與に、明日、我れに中食を請うことを受けたまえ。

22. 爾時世尊默然受請。菴羅女知世尊默然受請已。稽首禮足。還歸自家。爾の時、世尊、默然として請いたるを受けたり。菴羅女、世尊の默然として請いたるを受けたるを知り已わり、稽首し、足に禮して、還って自家に歸り、

23. 設種種食。布置床座。晨朝遣使。白佛時到。

種種の食を設け、床座を布置し、晨朝に使を遣わし、佛に時の到れるを白せり。

18. MPS10.16 ath(ā)mrap(ā)lir yena bhagavāms tenopajagāma || upetya bhagavatpādaū śi(rasā vanditvaikānte nyaṣīdat ||)

19. MPS10.17 (ekāntaniṣaṇṇām āmrapāliṃ bhagavān dhārmīyā kathayā) pūrvavad yāvat saṃpraharṣayitvā tūṣṇīm abhūt ||

20. MPS10.18 atha āmrapālī(r utthāyāsanād yena bhagavāms tenāñjalīm praṇamya bhagavantam idam avocat ||)

21. MPS10.19 (adhivāsa)yatu me bhagavā(ñ) śvo bhaktena sārth(āṃ) bhikṣu(saṃghena) ||⁶⁷
(SHT II 399 Bl.(168) V 1)

22. MPS10.20 (adhivāsayati bhagavāṃ tūṣṇīmbhāvena || atha āmrapālir bhagavatas tūṣṇīmbhāvenādhivāsanām viditvā) bhagavatpādaū śirasā vanditvā bhagavato ('ntikāt prakrāntā ||)
(SHT II 399 Bl.(168) V 1-2)

23. MPS12.1 (athāmrapālis tām eva rātriṃ śuciṃ praṇītaṃ khādanīyabhojanīyaṃ samudānīya kālyam evotthāya āsanakāni prajñā)pya udakamaṇiṃ pratiṣṭhāpya bha(gavaṭo dūtena kālaṃ ārocayati ||)
(SHT I 425 V 1)+(SHT II 399 Bl.169 R5)

MPS12.2 (saṃayo bhadanta (<bho gautamo) sadyo bhaktaṃ yasyedānīm bhavān gautamaḥ kālaṃ manyate ||)
(SHT I 425 V 1)

67 MPS公刊後、SHT I 425; II 399に残る文([]を含む)をアンダーラインで示し、MSPの還梵が異なる文は(<)の中に収める。二重線は両者(SHT I 425とII 399)に合致する箇所。

24. 爾時世尊與諸大衆。詣菴羅女舍。就座而坐。

爾の時、世尊、諸の大衆と與に、菴羅女の舍に詣り、座に就き而して坐せり。

25. 時菴羅女手自(T2,174b)供養種種飲食。食訖澡漱洗鉢竟。

時に、菴羅女、手自から種種の飲食を供養せり。食べ訖え澡漱し鉢を洗い竟わりぬ。

26. 時菴羅女持一小床。坐於佛前。聽佛說法。

時に菴羅女、一小床を持ち、佛の前に坐し、佛の説法を聽けり。

27. 爾時世尊爲菴羅女。說隨喜偈

爾の時、世尊、菴羅女の爲に、隨喜の偈を説けり。

28. 施者人愛念。多衆所隨從。名稱日增高。遠近皆悉聞。處衆常和雅。離慍無所畏。

施す者は、人愛念す。多くの衆の隨從する所にして、名稱は日に増高し、遠近に皆な悉く聞こゆ。衆に處するに常に和雅にして、慍を離れ畏るる所無し。

24. MPS12.3 (atha bhagavān pūrvāhṇe nivasya pā)tracīvaram ādāya
bhikṣusamghapa(rivṛto
bhikṣusamghapuraskṛto yenāmrāpālyā
ganikāyā bhaktābhisāras tenopajagāma
|| upetya purastād bhikṣusamghasya
prajñapta evāsane nya)śīdat ||
(SHT I 425 V 2-3)+(SHT II 399 Bl.169 R6)

25. MPS12.4 athāmrāpāliḥ
sukhopaniṣaṇṇaṃ buddhapramukhaṃ
bhikṣusamghaṃ viditvā śu(cin)ā
praṇīte(na khādanī)yabhojanīyena
svahastaṃ santarpayati sampravārayati
|| śucinā pranītena
khādanīyabhojanīyena svahastaṃ
santarpayitvā sampravārayitvā
(SHT I 425 V 3-4)

26. MPS12.5 bhagavantam
bhuktav(an)t(am) viditvā dhautahastam
apanītapātram nīcatarakam āsanam
grhītvā bhagavataḥ purato niṣaṇṇā
dharmaśravaṇāya ||
(SHT I 425 V 5)

27. MPS12.6 atha bhagavān āmrāpālyās
tad dānam
anayābhyanumodanayābhyanumodate ||
(SHT I 425 V 6)

28. MPS12.7 dadat priyo bhavati
bhajanti taṃ janāḥ, kīrtiṃ samāpnoti
yaśaś ca vardhate ||
ama(d)gu(bhū)taḥ pariśadaṃ vigāhate,
viśārado bhavati naro hy amatsarī | 1
(SHT I 425 V 5-R 1)

29. 是故智慧施。斷慳永無餘。上生
忉利天。長夜受快樂。
是れ故に、智慧を施すに、慳を斷じ永く
餘無し。上は忉利天に生じ、長夜に快樂
を受く。

30. 盡壽常修德。娛樂難陀園。百種
諸天樂。五欲悅其心。彼於此人間。
聞佛所說法。爲善逝弟子。樂彼受化
生。
壽を盡くすまで常に徳を修し、難陀園に
娛樂す。百種の諸の天樂、五欲は其の心
を悦ばす。彼は此の人間に於いて、佛の
説く所の法を聞き、善逝の弟子と爲り、
彼の化を受くる生を樂う。

31. 爾時世尊爲菴羅女。種種說法。
示教照喜。示教照喜已。從座起而去
爾の時、世尊、菴羅女の爲に、種種に説
法し、示教照喜し、示教照喜し已わり、
座より起ち而して去れり。

29. MPS12.8 tasmād dhi dānāni dadati
paṇḍitā, vinīya mātṣaryam alaṃ
sukhaiṣiṇaḥ ||
te dīrgharātraṃ tridaśe pratiṣṭhitā,
devānāṃ svabhāvagatā ramanti t(e) | 2
(SHT I 425 R 1-2)

30. MPS12.9 kṛtāyusāḥ kṛtakusālā itaś
cyutāḥ, svayaṃprabhā anuvicaranti
nandane ||
(te) tatra krīḍanti ramanti cobhayaṃ,
samarpitāḥ kāmagaṇais tu pañcabhiḥ ||
śrutveha vākyam asitasya tāyinaḥ,
svarge ramante sugatasya śrāvakāḥ | 3
(SHT I 425 R 2-3)

31. MPS12.10 atha bhagavān āmrāpālī
(m) dhārmy(ā) kathayā sandarśayitvā
samādāpayitvā samuttejayitvā
sampraharsayitvotthāyāsanāt prakrāntaḥ
||
(SHT I 425 R 4)

(623)⁶⁸

1. 如是我聞。一時

是の如く我聞けり。一時、

2. 佛住波羅奈仙人住處鹿野苑中。

佛は波羅奈の仙人住處、鹿野苑の中に住せり。

3. 爾時世尊告諸比丘。

爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

4. 世間言美色。世間美色者。能令多人集聚觀看者不。

世間に美色を言う。世間の美色とは、能く多人をして集聚し觀看せ令むる者なるや不や。

5. 諸比丘白佛。如是世尊。佛告比丘。

諸の比丘は佛に白せり。「是の如し、世尊」と。佛は比丘に告げたり。

6. 若世間美色。世間美色者。又能種種歌舞伎樂。復極令多衆聚集看不。若し世間に美色あらば、世間の美色とは、又た能く種種に歌舞伎樂し、復た極めて多衆をして聚集し看せ令むるや不や。

7. 比丘白佛。如是世尊。佛告比丘。比丘は佛に白せり。「是の如し、世尊」と。佛は比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. bhagavān vārāṇasyāṃ viharati
rṣivadane mṛgadāve | [_Mvu_3.330_]

3. Śrāvakabhūmi (Sh.417,12-19)⁶⁹
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.
idaṃ cālambanaṃ saṃdhāyoktaṃ
bhagavatā.

世尊依此所緣境相密意說言。

4. janapadakalyāṇī janapadakalyāṇīty
bhikṣavo [janah samnipatena |]
汝等苾芻當知衆善。言衆善者。謂於
大衆共集會中盛壯美色。

5. (bhikṣava ūcuḥ: evaṃ bhadanteti |
bhagavān āha.)

6. [sā khalu janapadakalyāṇī
paramapradhānā nṛtagītavādita iti]
mahājanakāyaḥ samnipateta.
即此衆善最殊勝者。謂於多衆大集會
中歌舞倡伎。

7. (bhikṣava ūcuḥ: evaṃ bhadanteti |
bhagavān āha.)

68 SN.47.20, Janapada (V pp.169-170).

69 Wayman[1969] p.122-124: S12A.6-7a; T154a-5; C460c21-.

8. 若有世間美色。世間美色者。在
於一處。作種種歌舞伎樂戲笑。復有
大衆雲集一處。

若し世間に美色有らば、世間の美色とは、
一處に在りて、種種の歌舞伎樂戲笑を作
す。復た大衆の一處に雲集する有り。

9. 若有士夫不愚不癡。樂樂背苦。
貪生畏死。

若し士夫の愚ならず癡ならずして、樂を
樂い苦に背き、生を貪り死を畏るる有ら
ば、

10. 有人語言。士夫汝當持**滿鉢**。
於世間美色者所及大衆中過。

人有り、語りて言わく。「士夫、汝は當に
油を滿たせる鉢を持ち、世間に於いて美
色なる者の所、及び大衆の中を過ぐべし。

11. 使一能殺人者。拔刀隨汝。若失
一**滴油**者。輒當**斬**汝命。

一の能く人を殺す者をして、刀を抜き汝
に隨わ使めん。若し一滴*〔<滴〕の油を失
わば、輒ち當に汝の命を斷*〔<斬〕ずべし」。

8. *sā khalu janapadakalyāṇī
paramapradhānā nṛtagītavādita iti]
mahājanakāyaḥ saṃnipateta.*

9. *atha puruṣa āgacched abālajātīyaḥ.
假使有一智慧丈夫。*

*atha puriso āgaccheyya jīvitukāmo
amaritukāmo sukhakāmo
dukkhapaṭikkūlo.*

10. *taṃ kaścid eva vaded idaṃ te bhoḥ
puruṣa tailapātrapūrṇaṃ samatittikam
anabhiṣekyam antarā ca [janakāyaḥ
saṃnipateta | sā khalu]*

*janapadakalyāṇīm⁷⁰ antarā ca
mahasamājaṃ parihartavyam
從外而來告一人曰。咄哉男子。汝於
今者可持如是平**滿鉢油**勿令灑溢。經
歷如是大衆中過當避其間所有衆善及
諸最勝歌舞倡伎大等生等。*

11. *ayaṃ ca te utkṣiptāsiko
vadhakapuruṣaḥ pṛṣṭhataḥ pṛṣṭhataḥ
samanubaddhaḥ. sacet tvam asmāt
tailapātrād ekabindum api pṛthivyāṃ
nipātayiṣyasi. tatas te utkṣiptāsiko
vadhakapuruṣa ucchinamūlaṃ śiraḥ
prapātayiṣyati.*

今有魁膾露拔利劍隨逐汝行。若〔<苦〕
汝**鉢油一滴**墮地。此之魁膾即以利劍。
當斬汝首斷汝命根。

70 [MS : janapadaṃ kalyāṇīm]

12. 云何比丘。彼持**油鉢**士夫。能不念油鉢。不念殺人者。觀彼伎女及大眾不。

云何が比丘、彼の油の鉢を持てる士夫は、能く油の鉢を念わず、殺す人を念わずして、彼の伎女、及び大眾を觀るや不や。

13. 比丘白佛。不也世尊。所以者何。世尊。彼(Ṭ2.174c)士夫自見其後。有拔刀者。常作是念。

比丘は佛に白せり。「不なり、世尊。所以は何。世尊、彼の士夫、自ら其の後を見るに、刀を抜く者有ればなり。常に是の念を作す。

14. 我若落**油一滸**。彼拔刀者。當截我頭。唯一其心繫念油鉢。

『我れ若し油の一滴[<滸]を落さば、彼の刀を抜く者は當に截我が頭を拔るべし』と。唯だ其の心を一にし、油の鉢に繫念し、

15. 於世間美色及大眾中。徐步而過。不敢顧眄。

世間の美色、及び大眾の中に於いて、徐ろに歩き而して過ぎ、敢えて顧眄せず」と。

12. kiṃ manyadhve bhikṣavaḥ. api tu sa puruṣaḥ amanasikṛtvā **tailapātram** amanasikṛtvā utkṣiptāsikaṃ vadhakapuruṣaṃ janapadakalyāṇī(ṃ) manasikuryān mahāsamājaṃ vā⁷¹

苾芻汝等於意云何。是持鉢人頗不作意專心油鉢拔劍。魁膾不平地等。而能作意觀視衆善及諸最勝歌舞倡伎大等生耶。

13. no bhadanta tat kasya hetoṣa tathā hi tena puruṣeṇotkṣiptāsiko vadhakapuruṣaḥ prṣṭhataḥ prṣṭhataḥ samanubaddho drṣṭaḥ. tasyaivaṃ syāt. 不也。世尊。何以故。是持鉢人既見魁膾露拔利劍隨逐而行。極大怖畏專作是念。

14. saced aham asmāt **tailapātrād** ekabindum api prthivyāṃ pātayiṣyāmi. ato me utkṣiptāsiko vadhakapuruṣaḥ ucchinnamūlam śiraḥ prapātayiṣyati. 我所持**鉢油**既彌滿。經是衆中極難將度。脱有一滴當墮地者。定為如是拔劍魁膾。當斬我首斷我命根。

15. nānyatra sa puruṣaḥ amanasikṛtya janapadakalyāṇī(ṃ) mahāsamājaṃ vā. tad eva **tailapātram** sarvacetasā samanvāhṛtya samyag eva pariharet. 是人爾時於彼衆善及諸最勝歌舞倡伎大等生等。都不作意思念觀視。唯於油鉢專心作意而正護持。

16. 如是比丘。若有沙門婆羅門。正身自重。一其心念。不顧聲色。善攝一切心法住身念處者。則是我弟子。隨我教者。

是の如く、比丘、若し沙門・婆羅門、正身にして自重し、其の心念を一にし、聲色を顧みず、善く一切の心法を攝し、身念處に住する者有れば、則ち是れ我が弟子なり、我が教に隨う者なり。

17. 云何爲比丘正身自重。一其心念。不顧聲色。攝持一切心法。住身念處。云何が比丘、正身にして自重し、其の心念を一にし、聲色を顧みず、一切の心法を攝持し、身念處に住すと爲す。

18. 如是比丘。身身觀念*。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。受心法。法觀念住。亦復如是。

是の如く、比丘、身の身觀念に*[住し]、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、受・心・法の法觀念に住するも亦復た是の如し。

19. 是名比丘。正身自重。一其心念。不顧聲色。善攝心法。住四念處。

是れを、比丘、正身にして自重し、其の心念を一にし、聲色を顧みず、善く心法を攝し、四念處に住すと名づく。

16. *evam eva bhikṣavaḥ. ye kecic [śramaṇā vā brāhmaṇā vā] catvāri smṛtyupasthānāni satkṛtya bhāvayanti. gurukṛtya sarvacetasā samanvāhṛtya te me śrāvaka iti*

如是苾芻。我諸弟子恭敬殷重專心憶念。修四念住當知亦爾。

17. *katham ca bhikṣavaś catvāri smṛtyupasthānāni satkṛtya bhāvayanti. gurukṛtya sarvacetasā samanvāhṛtya ||*

18. *iha bhikṣur kāye kāyānupaśyī viharaty ātāpī samprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam || vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.*

19. *iti bhikṣavaś catvāri smṛtyupasthānāni satkṛtya bhāvayanti. gurukṛtya sarvacetasā samanvāhṛtya.*

【S 4.4(1) 繫屬(gnas)】

dran pa nye bar gzhaḡ pa bzhi ni gus
par bsgom par rig par bya ste | 365b7
復次。於四念住。殷重修習。|

'di lta ste | nyan thos kyi sa las 'byung
ba bzhin no | 365b7
如聲聞地。應知其相。

20. 爾時世尊即說偈言。⁷²
爾の時、世尊、即ち偈を説いて言わく。

21a. 專心正念。護持**油鉢**。自心隨護。未曾至方。甚難得過。
專心正念に、油の鉢を護持し、自心、隨つて護れば、未だ曾て至らざる方なる、甚だ難きを過ぐることを得。

21b. 勝妙微細。諸佛所説。言教利劍。當一其心。專精護持。
勝妙にして微細なる、諸佛の説く所の言教の利劍は、當に其の心を一にし、專精に護持すべし。

21c. 非彼凡人。放逸之事。能入如是。不放逸教。
彼の凡人の放逸の事は、能く是の如き不放逸の教に入るに非ず。

22. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

20. MPS25.12 (ST.I) (*atha bhagavāṃs tasyāṃ velāyāṃ gāthāṃ babhāse* ||)

ATH(I) 5 fragm. a(Mz681)
verso2-4(translit. in: TTT VIII, Text A [T II S52] lines 1-2

21a. *prārthayāno diṣaṃ āgatapūrvam*⁷³
Cf. (J 96 Telapattajāṭaka)
samatittikaṃ anavasekaṃ,
telapattam yathā parihareyya;
evaṃ sacittam anurakkhe,
patthayāno diṣaṃ āgatapubbanti.

21b. *duratikramaṃ ca . . .* (Lücke)
sūkṣmaṃ ca.
buddhavacanaṃ kṣurasya dhārā va.

21c. *agatir hi nyūnapūrūṣāṇaṃ*⁷⁴
pramattānāṃ.
*apramādaviṣayesmiṃ karmāṇā*⁷⁵
sampayamti.

Cf. (J 132 Bhīrukaṇḍāṭaka)
kusalūpadese dhītiyā dāḥāya ca, anivattitattā
bhayabhūrutāya ca;
na rakkhasīnaṃ vasamāgamimhase,
sa sotthibhāvo mahatā bhayena meti.

22. *atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam*
abhyānandan. abhinandyānumodya bhagavato
'ntikāṭ prākṛāntāḥ.

72 法護譯『修行道地經』卷三勸意品第九(T15, p.198, a26-b4)

如人擎**油鉢**。不動無所棄。妙慧意如海。**專心擎油器**。
若人欲學道。執心當如是。意懷諸德明。皆除一切瑕。
若干之色欲。再興於怒癡。有志**不放逸**。寂滅而自制。
人身有病疾。醫藥以除之。心疾亦如是。**四意止**除之。

73 1) *āgatapūrvam/anāgatapūrvam*

74 3) *lies nyūnapuruṣāṇaṃ*

75 4) *lies karmaṇā*

(624)⁷⁶

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

2. 爾時尊者鬱低迦來詣佛所。稽首佛足。退坐一面。白佛言。

爾の時、尊者鬱低迦、佛の所に來詣して、佛の足に稽首し、退きて一面に坐し、佛に白して言わく。

3. 善哉世尊。爲我說法。我聞法已。當獨一靜處。專精思惟。不放逸住。思惟所以。善男子剃除鬚髮。正信非家。出家學道。如上廣說。乃至不受後有。

善い哉、世尊。我が爲に法を説きたまえ。我れ法を聞き已わらば、當に獨一靜處にて專精に思惟し、放逸せずに住し、所以を思惟すべし。善男子、鬚髮を剃除し、正信もて非家に出家し、道を學べば、上に廣説せる如く、乃至、後有を受けざらん。

4. 佛告鬱低迦。如是如是。如汝所說。

佛は鬱低迦に告げたり。是の如し、是の如し。汝の所説の如し。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavān cchrāvastyāṃ viharati jetavane
anāthapiṇḍadasyārāme.

2. (MSV III-1[= Bhaiṣajyavastu], 48)
athāyusmān *uktiyo yena bhagavāṃs
tenopasaṃkrāntaḥ. upasaṃkramya
bhagavataḥ pāḍau śirasā vanditvaikānte
nyaśīdat. ekāntaniṣaṇṇa āyusmuktiyo
bhagavantam idam avocat.

3. sādhu me bhagavaṃs tathā
saṃkṣiptena dharmāṃ deśayatu
yathāhaṃ bhagavato 'ntike saṃkṣiptena
dharmāṃ śrutvā eko vyapakṛṣṭo
'pramattaḥ ātāpī prahitātmā vihareyam.
eko vyapakṛṣṭo 'pramattaḥ ātāpī
prahitātmā viharan. yad arthaṃ
kulaputrāḥ keśaśmaśrv avatārya
kāśāyāṇi vastrāṇy ācchādya samyag eva
śraddhayā agārād anagārikāṃ
pravrajanti tad anuttaraṃ
brahmacaryaparyavasānaṃ [dṛṣṭa eva
dharmaṃ svayam abhijñāya
sākṣātkṛtvopasaṃpadya pravedayeyam.
kṣīṇā me jātir uṣitaṃ brahmacaryaṃ
kṛtaṃ karaṇīyaṃ] nāparam asmād
bhavaṃ prajānāmīti.

4. [bhagavān āha:]
(Cf. NidSa 24.18)
evaṃ etad *uktiya bhūtam | evaṃ etad
*uktiya.

76 [Chung V-24], SN.47.16, Uttiyo (V p.166).

5. 但於我所說法不悅我心。彼所事業。亦不成就。雖隨我後。而不得利。反生障閼。

但だ我が所説の法に於いて我が心を悦ばさず、彼の事業とする所も亦た成就せずんば、我が後に随うと雖も、而かも利を得ず、反って障閼を生ぜん。

6a. 鬱低迦(T2,175a)白佛。世尊所説。我則能令世尊心悅。自業成就。不生障閼。唯願世尊。爲我說法。

鬱低迦は佛に白せり。世尊の所説もて、我れ則ち能く世尊をして心悦ば令め、自業成就し、障閼を生ぜざらん。唯だ願わくば、世尊、我が爲に法を説きたまえ。

6b 我當獨一靜處。專精思惟。不放逸住。如上廣説。乃至不受後有。我れ當に獨一靜處にて專精に思惟し、放逸せずに住し、上に廣説せる如く、乃至、不受後有を受けざらん。

6c. 如是第二第三請。
是の如く、第二、第三と請いたり。

7. 爾時世尊告鬱低迦。汝當先淨其初業。然後修習梵行。

爾の時、世尊、鬱低迦に告げたり。汝は當に先ず其の初業を淨め、然る後に梵行を修習すべし。

8. 鬱低迦白佛。我今云何淨其初業。修習梵行。

鬱低迦は佛に白せり。我れ今、云何が其の初業を淨め、梵行を修習せん。

5b. (NidSa 9.5)

nārādhayati tena praśnavyākaraṇena.

cf. (*Śbh II 148*) dharmadeśanayā cittam

ārādhayati

6a. ...

sādhū me bhagavaṃs tathā saṃkṣiptena
dharmaṃ deśayatu.

6b. eko vyapakṛṣṭo 'pramattaḥ ātāpī
prahitātmā vihareyam. . . nāparam
asmād bhavaṃ prajānāmīti.

6c. ... dvir api trir api ...

7. atha bhagavān āyusmantam *uktiyam
idam avocat.

Cf. SN.47.16 tasmātiha tvaṃ uttiya, ādim eva
visodhehi kusalesu dhammesu.

8. Cf. SN.47.16 koc'ādi kusalānaṃ
dhammānaṃ:

9. 佛告鬱低迦。汝當先淨其戒。直其見。具足三業。然後修四念處。佛は鬱低迦に告げたり。汝は當に先ず其の戒を淨め、其の見を直くして三業を具足し、然る後に四念處を修すべし。

10. 何等爲四。内身身觀念住。專精方便。正智正念。調伏世間貪憂。如是外身内外身身觀念住。受心法。法觀念住。亦如是廣說。何等をか四と爲す。内身の身觀念に住し、專精に方便して、正智・正念もて、世間の貪憂を調伏し、是の如く、外身・内外身の身觀念に住し、受・心・法の法觀念に住し、亦た是の如く、廣說すと。

11. 時鬱低迦聞佛所說。歡喜隨喜。從座起而去。時に鬱低迦は佛の所說を聞きて、歡喜し隨喜し、座より起ち而して去れり。

12. 時鬱低迦聞佛教授已。獨一靜處。專精思惟。不放逸住思惟。所以善男子剃除鬚髮。著袈裟衣。正信非家。出家學道。乃至不受後有。時に鬱低迦は佛の教授を聞き已わり、獨一靜處にて專精に思惟し、放逸せずに住し、所以を思惟せり。善男子の鬚髮を剃除し、袈裟衣を著け、正信もて非家に出家し、道を學び、乃至、後有を受けざりき。

13. 如鬱低迦所問。如是異比丘。所問亦如上說。鬱低迦の所問の如く、是の如く、異比丘の所問も亦た上に説くが如し。

9. (Śbh II 244)⁷⁷
tatrādiśuddhiḥ śīlaṃ ca suvisuddhaṃ
dr̥ṣṭiś ca r̥jvī.

Cf. SN.47.16

*sīlaṃ ca suvisuddhaṃ, diṭṭhi ca ujukā. ..
yato kho te uttiya, sīlaṃ ca suvisuddhaṃ
bhavissati, diṭṭhi ca ujukā. tato tvaṃ uttiya,
sīlaṃ nissāya sīle patiṭṭhāya cattāro
satipaṭṭhāne bhāveyyāsi. katame cattāro:*

10. *katamāni catvāri.*
MPS14.25 iha bhikṣur (a)dhy(ā)tm(aṃ)
kāy(e) kāyānupaśyī viha(raty) ātāpī
saṃprajānaḥ smṛtimā(n) vinīyābhidyā
loke daurmanasyam || *bahirdhā kāye
'dhyātmabahirdhā kāye vedanāsv citte
dharmeṣu dharmānupaśyī viharaty
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān
vinīyābhidyā loke daurmanasyam ||*

11. *atha āyusmān *uktiyo bhagavato
bhāṣitam abhinandyaṇumodya
bhagavataḥ pādaḥ śīrasā vanditvā
uttahāyāsanāt prakrāntaḥ.*

12. *atha āyusmān *uktiyo bhagavatā ...
avavādenāvavāditaḥ | eko vyapakṣṛṣṭo
'pramattaḥ ātāpī prahitātmā viharan
(MSV III-1[= Bhāṣajyavastu], 50)⁷⁸
yad arthaṃ kulaputrāḥ keśaśmaśrv
avatārya kāṣāyāṇi vastrāṇy ācchādyā
samyag eva śraddhayā agārād
anagārikāṃ pravrajanti . . . nāparam
asmād bhavaṃ prajānāmīti.*

13. (*anyataro bhikṣuḥ*)

77 -II-13-b-(2)-ii Ms.93a5M, Sh.335-17, P.150a5, Ch.446a27.

78 Cf. Chung, p.316 (第15經のサンスクリット文).

(625)⁷⁹

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

2. 時有異比丘。名婆醯迦。來詣佛所。稽首禮足。退坐一面。白佛言。時に異比丘有り、婆醯迦と名づく。佛の所に來詣して、稽首し、足に禮して、退きて一面に坐し、佛に白して言わく。

3. 世尊。善哉。世尊。爲我說法。如前鬱低迦修多羅廣說。世尊。善い哉。世尊。我が爲に法を説きたまえ。前の鬱低迦修多羅に廣説せる如し。

4. 差別者。如是婆醯迦比丘。初業清淨。身身觀念住者。超越諸魔。受心法。法觀念住者。超越諸魔。差別とは、是の如く、婆醯迦比丘、初業清淨にして、身の身觀念に住すれば、諸の魔を超越し、受・心・法の法觀念に住すれば、諸の魔を超越するなり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.

2. (MSV III-1[= Bhaiṣajyavastu], 48) athāyusmān Bāhiko yena bhagavāṃs tenopasaṃkrāntaḥ. upasaṃkramya bhagavataḥ pāḍau śirasā vanditvaikānte nyaśīdat. ekāntaniṣaṇṇa āyusmāṃ bāhiko bhagavantam idam avocat.

SHT X 3911 R2;
(āyusmā)ṃ bāhiko (bhagavantam idam avocat*)

3. sādhu me bhagavaṃs tathā saṃkṣiptena dharmaṃ deśayatu.

4. Cf. SN.35.89 *tasmātiha tvaṃ, bāhiya, ādīm eva visodhehi kusalesu dhammesu. ko cādi kusalānaṃ dhammānaṃ. sīlaṇca suvisuddhaṃ, diṭṭhi ca ujukā. yato ca kho te, bāhiya, sīlaṇca suvisuddhaṃ bhavissati, diṭṭhi ca ujukā, tato tvaṃ, bāhiya, sīlaṃ nissāya sīle patiṭṭhāya cattāro satipaṭṭhāne bhāveyyāsi.*

【VS 4.4(2) 繫屬(gnas)】

bdud kyi gnas zhes bya ba ni 'dod pa'i kham s te | 365b7

繫屬魔者。謂在欲界。

gang las phyir mi 'ong ba 'das par 'gyur pa yin no | 365b8
此不還果。即能超度。

79 [Chung V-25], SN.35.89 Bāhiyo (IV pp.63-64).

5. 時婆醯迦比丘聞佛說法教誡已。
歡喜隨喜。作禮而去。
時に婆醯迦比丘は佛の說法・教誡を聞き
已わり、歡喜し隨喜し、禮を作し而して
去れり。

6. 獨一靜處。專精思惟。不放逸住。
乃至不受後有。
獨一靜處にて專精に思惟し、放逸せずに
住し、乃至、後有を受けざりき。

(626)

第二經亦如上說。差別者。如是比丘。
超越生死。
第二經も亦た上に説けるが如し。差別と
は、是の如く、比丘、生死を超越するな
り。

5. *atha āyusmān bāhiko bhagavato
bhāṣitam abhinandyānumodya
bhagavataḥ pāḍau śirasā vanditvā
bhagavato 'ntikāt prakrāntaḥ.*

6. *athāyusmān bāhiko bhagavatā ...
avavādenāvavāditaḥ.) eko vyapakṛṣṭo
'pramattaḥ ātāpī prahitātmā viharan
(MSV III-1[= Bhaiṣajyavastu], 50)⁸⁰
yad arthaṃ kulaputrāḥ keśaśmaśrv
avatārya kāṣāyāṇi vastrāṇy ācchādya
samyag eva śraddhayā agārād
anagārikāṃ pravrajanti . . . nāparam
asmād bhavaṃ prajānāmīti.*

【S 4.4(3) 繫屬(gnas)】

'chi bdag gi gnas zhes bya ba ni srid
pa'i rtse mo man chad de gang las
dgra bcom pa 'das par 'gyur ba yin no
| 365b8

繫屬~~死~~者。謂從欲界。乃至有頂。此
阿羅漢。乃能超度。

rnal 'byor spyod pa'i sa las, gzhi bsdu
ba | bam po nyi shu gcig pa | 365b8
[瑜伽師地・攝事(分)・卷21]

80 Cf. Chung 2008, p.316.

(627)⁸¹

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

2. 爾時尊者阿那律陀。詣佛所。稽首禮(T2,175b)足。退坐一面。白佛言。爾の時、尊者阿那律陀は佛所に詣り稽首し、足に禮して、退きて一面に坐し、佛に白して言わく。

3. 世尊。若有比丘住於學地。未得上進安隱涅槃。而方便求。
世尊。若し比丘有り、學地に住し、未だ上進して安隱の涅槃を得ず、而かも方便して求むるに、

4. 是聖弟子當云何於正法律。修習多修習。得盡諸漏。乃至自知不受後有。
是の聖弟子は當に云何が正法律に於いて修習するに多く修習して、諸の漏を盡くすことを得、乃至、自ら後有を受けざるを知るべき。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane
anāthapiṇḍadasyārāme.

2. athāyusmān Aniruddho yena
bhagavāṃs tenopasaṃkrāntaḥ.
upasaṃkramya bhagavataḥ pāḍau śirasā
vanditvaikānte 'sthāt. ekāntasthita
āyusmāniruddho bhagavantam idam
avocat.

3. (SBV II 145) yo 'sau bhadanta
bhikṣur bhavati śaikṣa
asaṃprāptamānasaḥ sa uttaram
yogaḥkṣemaṃ nirvāṇam
abhiprārthayamānarūpo bahulaṃ
viharati.

4. (Cf. NidSa 23.17g) ...
kasmīn āryaśrāvako dharmavinaye
āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ⁸²,
āśravakṣayāya saṃvartate⁸³ pūrvavad
yāvan nāparam asmād bhavaṃ
prajānāmi iti.

81 [Chung V-26], SN.47.26, Padesaṃ (V pp.174-175).

82 Cf. SHT IV 162 b R 7

83 Cf. SHT X 3911 R z.

5. 佛告阿那律。若聖弟子住於學地。未得上進安隱涅槃。而方便求。

佛は阿那律に告げたり。

若し聖弟子、學地に住し、未だ上進して安隱の涅槃を得ず、而かも方便して求むるに、

6. 彼於爾時。當内身身觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。彼れ爾の時に於いて當に内身の身觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、

7. 如是受心法。法觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。是の如く、受・心・法の法觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏すべし。

8. 如是聖弟子多修習已。得盡諸漏。乃至自知不受後有。是の如く、聖弟子は多く修習已わり、諸の漏を盡くすことを得、乃至、自ら後有を受けざるを知る。

9. 爾時。尊者阿那律陀聞佛所說。歡喜隨喜。作禮而去。爾の時、尊者阿那律陀は佛の所說を聞き、歡喜し隨喜し、禮を作し而して去れり。

5. (SBV II 145) yo 'sau bhadanta
bhikṣur bhavati śaikṣa
asaṃprāptamānaṣaḥ sa uttaraṃ
yogakṣemaṃ nirvāṇaṃ
abhiprārthayamānarūpo bahulaṃ
viharati.

6. (MPS14.25) iha bhikṣur adhyātmaṃ
kāye kāyānupaśyī viharaty ātāpī
saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidyā
loke daurmanasyam ||

7. vedanāsu citte dharmeṣu
dharmānupaśyī viharaty ātāpī
saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidyā
loke daurmanasyam ||

8. ... āryaśrāvako 'smin dharmavinaye
āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ,
āsravakṣayāya saṃvartate pūrvavad
yāvan nāparam asmād bhavaṃ
prajānāmi iti

9. atha āyuṣmān Aniruddho bhagavato
bhāṣitam abhinandyaṇumodya
bhagavataḥ pāḍau śirasā vanditvā
bhagavato 'ntikāt prakrāntaḥ.

(628)⁸⁴

1. 如是我聞。一時
佛住巴連弗邑鷄林精舍。
是の如く我聞けり。一時、佛は巴連弗邑
の鷄林精舍に住せり。

2. 時尊者優陀夷。尊者阿難陀。亦
住巴連弗邑鷄林精舍。
時に、尊者優陀夷、尊者阿難陀も亦た巴
連弗邑の鷄林精舍に住せり。

3. 爾時尊者優陀夷。詣尊者阿難所。
共相問訊。慰勞已退坐一面。語尊者
阿難。
爾の時、尊者優陀夷、尊者阿難の所に詣
り、共に相問訊し、慰勞し已わり、退き
て一面に坐し、尊者阿難に語れり。

4. 如來應供等正覺所知所見。爲諸
比丘說聖戒。
如來・應供・等正覺の知る所、見る所は、
諸の比丘の爲に聖戒と説き、

5. 令不斷不缺不擇不離不戒取。善
究竟善持。智者所歎。所不憎惡。
斷ぜず、缺かず、擇ばず、離れず、戒取
せずして、善く究竟し善く持たしむるは、
智者の歎ずる所、憎惡せざる所なり。

6. 何故如來應等正覺所見。爲諸比
丘說聖戒。不斷不缺。乃至智者所歎。
所不憎惡。
何故に如來・應・等正覺の見る所は、諸
の比丘の爲に聖戒と説き、斷ぜず、缺か
ず、乃至、智者の歎ずる所、憎惡せざる
所なる。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavān pāṭaligrāmake viharati
kurkuṭārāme⁸⁵

2. (NidSa 6.2) tena khalu
samayenāyusmān Udāyī cāyusmān
ānando [tasmin / pāṭaligrāmake]
pāṭaligrāmake viharataḥ kurkuṭārāme.

3. (NidSa 6.3) athāyusmān Udāyī
sāyāhne pratisaṃlayanād vyutthāya
yenāyusmān ānandas tenopajagāma.
upetyāyusmatā ānandena sārđham
saṃmukhaṃ sammodanīm saṃrañjanīm
kathāṃ vividhāṃ upasaṃhṛtyaikānte
nyaśīdat. ekāntaniṣaṇṇa āyusmān Udāyī
āyusmantam ānandam idam avocat.

4. Cf. (NidSa 25.3)
tath(āgatā arhan)taḥ samyaksambuddhā
lo(ke utpadyante supaveditasya
dharmavinayasya prakāśanāya)

Cf. (Arthaviniścayasūtra 21) ...
yad uta āryakāntaiḥ śīlaiḥ samanvāgato⁸⁶

5. MPS 2.34⁸⁷ yāni tāni śīlāṇy
akhaṇḍāṇy acchidrāṇy aśabalāṇy
akalmāṣāṇi bhujiṣyāṇy aparāmrṣṭāṇi
susamāptāni susamādatāni
vijñaprasāstāṇy agarhitāni vijñaiḥ.

6. Cf. 4-5.
SN.47.21 "yān'imāni āvuso ānanda, kusalāni
sīlāni vuttāni bhagavatā, imāni kusalāni sīlāni
kimatthiyāni vuttāni bhagavatā"ti.

84 [Chung V-27], SN.47.21, Sīlaṃ (V pp.171-172).

85 BHSD s.v. Kurkuṭārāma. also Kukku°, Kukkuṭāgāra.

86以下、"yāni śīlāni akhaṇḍāni acchidrāṇi adhr̥tāni aśabalāni akalmaṣāni bhujiṣyāni aparāmr̥ṣṭāni
susamastāni vijñaprasāstāni jayasampannāni agarhitāni vijñair iti."と続き、次の段(6)に対応する。

87 Cf. YL 167R1; R4†.

7. 尊者阿難語優陀夷。爲修四念處故。

何等爲四。謂身身觀念住。受心法法觀念住。

尊者阿難は優陀夷に語れり。

四念處を修するが爲の故なり。何等をか四と爲す。謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。

8. 時二正士共論議已。各還本處。

時に二正士、共に論議し已わり、各本處に還りぬ。

Cf. SN.47.21 *yānimāni āvuso bhadda kusalāni sīlāni vuttāni bhagavatā imāni kusalāni sīlāni yāvad eva catunnam satipaṭṭhānānam bhāvanāya vuttāni bhagavatā.*

katamāni catvāri.

kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

8. NidSa 23.20 (=NidSa 6.22)⁸⁸

atha ki(n) n(v a)syottare kara(ṇīya)m iti tau satpuruṣāv anyonya(bhā)ṣitam abhina(n)d(yān(um)odya (utthā)yāsanāt prakrāntau ||

88Cf. Tripāṭhī 1962, p.13, n.2.

(629)⁸⁹

1. 如是我聞。一時
佛住巴連弗邑鷄林精舍。
是の如く我聞けり。一時、
佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。
2. 爾時尊者阿難。尊者跋陀羅亦在
彼住。時尊者跋陀羅問尊者阿難言。
爾の時、尊者阿難、尊者跋陀羅も亦た彼
に在りて住せり。時に、尊者跋陀羅は尊
者阿難に問うて言わく。
3. 頗有法修習多修習。得不退轉耶。
頗し法にして修習するに多く修習すれば、
不退轉を得るものある耶。
4. 尊者阿難語尊者跋陀羅。有法修
習多修習。能令行者得不退轉。
尊者阿難は尊者跋陀羅に語れり。法にし
て修習するに多く修習すれば、能く行者
をして不退轉を得せ令むるもの有り。
5. 謂四念處。何等爲四。身身觀念
住。(T2,175c)受心法法觀念住。
謂わく、四念處なり。何等をか四と爲す。
身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念
に住するなり。
6. 時二正士共論說已。各還本處
時に二正士、共に論說し已わり、各本處
に還りぬ。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavān pāṭaligrāmake viharati
kurkuṭārāme.

2. (NidSa 6.2) tena khalu
samayenāyusmān ānanda āyusmāṃs ca
bhadrīko [tasmiṃ / pāṭaligrāmake]
viharataḥ kurkuṭārāme.
athāyusmān bhadrīka āyusmantam
ānandam idam avocaṭ.

3. Cf. AK-bh(Pā)[115]
syād dharmo (āsevito bhāvito
bahulīkṛtaḥ, ... saddharmāparihāṇam)

4. syād dharmo āsevito bhāvito
bahulīkṛtaḥ, ... saddharmāparihāṇam)
Cf. SN.47.23 catunnaṃ ca kho āvuso
satipaṭṭhānānaṃ bhāvitattā bahulīkatattā
saddhamma-aparihāṇaṃ hoti.
(cf. Śbh II 290 "saddharmāparihāṇam")

5. yad uta catvāri smṛtyupasthānāni.
katamāni catvāri. kāye kāyānupaśyī
viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu
dharmānupaśyī viharati.

6. NidSa 23.20 (=NidSa 6.22)
atha ki(n) n(v a)syottare kara(ṇīya)m iti
tau satpuruṣāv anyonya(bhā)ṣitam
abhinan(d)yān(um)odya (utthā)yāsanāt
prakrāntau ||

89 SN.47.23, Parihāṇam (V p.173).

(630)

1. 如是我聞。一時
佛住巴連弗邑鷄林精舍。
是の如く我聞けり。一時、
佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。
2. 爾時尊者阿難。尊者跋陀羅亦在
彼住。時尊者跋陀羅問尊者阿難。
爾の時、尊者阿難、尊者跋陀羅も亦た彼
に在りて住せり。時に、尊者跋陀羅は尊
者阿難に問えり。
3. 頗有法修習多修習。令不淨衆生
而得清淨。轉增光澤耶。
頗し法にして修習するに多く修習すれば、
不淨の衆生をして而して清淨を得、轉じ
て光澤を増さ令むるものある耶。
4. 尊者阿難語尊者跋陀羅。有法修
習多修習。能令不淨衆生而得清淨。
轉增光澤。
尊者阿難は尊者跋陀羅に語れり。
法にして修習するに多く修習すれば、能
く令不淨の衆生をして而して清淨を得、
轉じて光澤を増さ令むるもの有り。
5. 謂四念處。身身觀念住。受心法
法觀念住。
謂わく、四念處なり。身の身觀念に住す、
受・心・法の法觀念に住するなり。
6. 時二正士共論議已。各還本處
時に二正士、共に論議し已わり、各本處
に還りぬ。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavān pāṭaligrāmake viharati
kurkuṭārāme.
2. (NidSa 6.2) tena khalu
samayenāyusmān ānanda āyusmāṃś ca
bhadriko [tasmin / pāṭaligrāmake]
viharataḥ kurkuṭārāme.
athāyusmān bhadrika āyusmantam
ānandam idam avocat.
3. syād dharmo (āsevito bhāvito
bahulīkṛtaḥ,
Cf. SN.5.11 (Sotāpattisutta).
avisuddhānaṃ sattānaṃ visuddhiyā
apariyodātānaṃ sattānaṃ pariyodapanāya.
4. syād dharmo (āsevito bhāvito
bahulīkṛtaḥ)
Cf. SN.5.11 avisuddhānaṃ sattānaṃ
visuddhiyā apariyodātānaṃ sattānaṃ
pariyodapanāya.
5. yad uta catvāri smṛtyupasthānāni.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ
citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.
6. (NidSa 23.20 =NidSa 6.22)
atha ki(n) n(v a)syottare kara(ṇīya)m iti
tau satpuruṣāv anyonya(bhā)ṣitam
abhinan(d)yān(um)odya (utthā)yāsanāt
prakrāntau ||

【VS 4.5(1) 淨 (rnam par dag)】

rnam par ma dag pa'i sems can zhes
bya ba ni so so'i skye bo rnamso |
366a1

言不清淨。諸有情者。謂諸異生。

rnam par dag pa ni slob pa rnamso |
366a1

言清淨者。謂諸有學。

yongs su byang ba ni mi slob pa
rnamso | 366a1

言鮮白者。謂諸無學。

(631)

1. 如是我聞。一時
佛住巴連弗邑鷄林精舍。
是の如く我聞けり。一時、佛は巴連弗邑
の鷄林精舍に住せり。

2. 爾時尊者阿難。尊者跋陀羅亦在
彼住。時尊者跋陀羅問尊者阿難。
爾の時、尊者阿難尊者、跋陀羅も亦た彼
に在りて住せり。時に、尊者跋陀羅は尊
者阿難に問えり。

3. 頗有法修習多修習。能令未度彼
岸衆生得度彼岸。
頗し法にして修習するに多く修習すれば、
能く未だ彼岸に度らざる衆生をして彼岸
に度ることを得せ令むるものある[耶]。

4. 尊者阿難語尊者跋陀羅。有法修
習多修習。能令未度彼岸衆生得度彼
岸。
尊者阿難は尊者跋陀羅に語れり。
法にして修習するに多く修習すれば、能
く未だ彼岸に度らざる衆生をして彼岸に
度ることを得せ令むるもの有り。

5. 謂四念處。何等爲四。謂身身觀
念住。受心法法觀念住。
謂わく、四念處なり。何等をか四と爲す。
謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法
の法觀念に住するなり。

6. 時二正士共論議已。各還本處
時に二正士、共に論議し已わり、各本處
に還りぬ。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavān pāṭaligrāmake viharati
kurkuṭārāme.

2. (NidSa 6.2) tena khalu
samayenāyusmān ānanda āyusmāṃś ca
bhadrīko [tasmiṃ / pāṭaligrāmake]
viharataḥ kurkuṭārāme.
athāyusmān bhadrīka āyusmantam
ānandam idam avocāt.

3. syād dharmo (āsevito bhāvito
bahulīkṛtaḥ)
Cf. SN. 34.1 aparāpāraṅgamanāya
saṃvattanti.

4. syād dharmo (āsevito bhāvito
bahulīkṛtaḥ)
Cf. SN. 34.1 aparāpāraṅgamanāya
saṃvattanti.

5. yad uta catvāri smṛtyupasthānāni.
katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ
citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

6. (NidSa 6.22) atha kin nv asyottare
karaṇīyam iti tau satpuruṣāv
anyonyabhāṣitam abhinandyaṇumodya
utthāyāsānāt prakrāntau ||

(632)

1. 如是我聞。一時
佛住巴連弗邑鷄林精舍。
是の如く我聞けり。一時、佛は巴連弗邑
の鷄林精舍に住せり。
2. 爾時尊者阿難。尊者跋陀羅亦在
彼住。尊者跋陀羅問尊者阿難。
爾の時、尊者阿難、尊者跋陀羅も亦た彼
に在りて住せり。尊者跋陀羅は尊者阿難
に問えり。
3. 頗有法修習多修習。得阿羅漢。
頗し法にして修習するに多く修習すれば、
阿羅漢を得る有りや。
4. 尊者阿難語尊者跋陀羅。有法修
習多修習。而得阿羅漢。
尊者阿難は尊者跋陀羅に語れり。法にし
て修習するに多く修習すれば、而かも阿
羅漢を得るもの有り。
5. 謂四念處。何等爲四。謂身身觀
念住。受心法法觀念住。
謂わく、四念處なり。何等をか四と爲す。
謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法
の法觀念に住するなり。
6. 時二正士共論議已。各還本處
時に二正士、其の論議を已わり、各本處
に還りぬ。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavān pāṭaligrāmake viharati
kurkuṭārāme.
2. (NidSa 6.2) tena khalu
samayenāyusmān ānanda āyusmāṃś ca
bhadriko [tasmin / pāṭaligrāmake]
viharataḥ kurkuṭārāme.
athāyusmān bhadrika āyusmantam
ānandam idam avocat.
3. syād dharmo (āsevito bhāvito
bahulīkṛtaḥ) ...
4. syād dharmo (āsevito bhāvito
bahulīkṛtaḥ) ...
5. yad uta catvāri smṛtyupasthānāni.
katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ
citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.
6. (NidSa 23.20 =NidSa 6.22)
atha ki(n) n(v a)syottare kara(ṇīya)m iti
tau satpuruṣāv anyonya(bhā)ṣitam
abhinan(d)yān(um)odya (utthā)yāsanāt
prakrāntau ||

(633)

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、
2. 佛住巴連弗邑鷄林精舍。
佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。
3. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。
4. 所説一切法。一切法者。謂四念
處。是名正説。
説く所の一切法、一切法とは、謂わく、
四念處なり。是れを正説と名づく。
5. 何等爲四。謂身身觀念住。受心
法法觀念住。
何等をか四と爲す。謂わく、身の身觀念
に住す、受・心・法の法觀念に住するな
り。
6. 佛説此經已。(T2,176a)諸比丘聞佛所説。
歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は
佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
2. bhagavān pāṭaligrāmake viharati
kurkuṭārāme.
3. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.
4. Cf. (AKvy 529,31)⁹⁰
sarvadharmā iti bhikṣavo yad uta
catvāri smṛtyupasthānānīti
(AKvy 497)
te samyag vadamānā vadyuḥ.
5. katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ
citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.
6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam
abhyānandan. abhinandyaṇumodya bhagavato
'ntikāt prakrāntāḥ.

90 uktaṃ ca bhagavatā.

(634)

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、
2. 佛住巴連弗邑鷄林精舍。
佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。
3. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。
4. 若比丘於四念處。修習多修習。
名賢聖出離。
若し比丘、四念處に於いて修習するに多く修習すれば、賢聖出離すと名づく。
5. 何等爲四。謂身身觀念住。受心
法法觀念住。
何等をか四と爲す。謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。
6. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

(634a)

如出離。如是正盡苦。究竟苦邊。得大果。得大福利。得甘露法。究竟甘露。甘露法作證。如上廣說
出離の如く、是の如く、正しく苦を盡くす、苦邊を究竟す、大果を得、大福利を得、甘露法を得、甘露を究竟す、甘露法を作證するも、上に廣説せる如し。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
2. bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme.
3. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.
4. (Śbh II 174)⁹¹ *iha bhikṣur caturṇām smṛtyupasthānānām, āsevito bhāṇita bahulīkṛta iyaṃ ucyate nairyaṇīkāḥ*⁹² |
5. katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.
6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyaṇumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

(NidSa 13.7⁹³)

āryayā nairyaṇīkayā nairvedhikayā niryāti tatkarah samyagduḥkhakṣayāya duḥkhasyāntakriyāyai |
成就賢聖出離、實寂、正盡苦。究竟苦邊。
(T2, p.84, b4-9)

91 -II-12-b (Ms.84b7M, Sh.288-19, W.*97-1, P.131a5, Ch.439c18) "... dharmāṇām abhyāsaḥ paricaya āsevanā bhāvanā **bahulīkāra** iyaṃ ucyate ..."

92 NidSa 13.7; MPS 2.35 yeyaṃ dṛṣṭir **āryā nairyaṇīkā nairvedhikā niryāti** (=AKvy 646)

93 AKvy 646: yo vā punar mayā śrāvakāṇām mārge ākhyātaḥ āryo nairyaṇīko nairvedhiko niryāti. tatkarasya **samyagduḥkhakṣayāya duḥkhasyāntakriyāyai** sa na niryāsyatīti. Cf. ASBh. Sa-83R-4.

(635)

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、
2. 佛住巴連弗邑鷄林精舍。
佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。
3. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。
4. 若比丘於四念處。修習多修習。
未淨衆生令得清淨。已淨衆生令增光澤。
若し比丘、四念處に於いて修習するに多く修習すれば、未だ淨からざる衆生に清淨を得せ令め、已に淨き衆生に光澤を増さ令む。
5. 何等爲四。謂身身觀念住。受心法法觀念住。
何等をか四と爲す。謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。
6. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

(635a)

如淨衆生。如是未度彼岸者令度。得阿羅漢。得辟支佛。得阿耨多羅三藐三菩提。亦如上説
淨き衆生の如く、是の如く、未だ彼岸に度らざる者を度ら令む、阿羅漢を得、辟支佛を得、阿耨多羅三藐三菩提を得るも亦た上に説くが如し。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
2. bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme.
3. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.
4. iha bhikṣur caturṇām smṛtyupasthānānām āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ. ...⁹⁴
5. katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.
6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyaṇumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

【VS 4.5(2) 淨 (rnam par dag)】
gang las shes nas dad pa zhes 'byung
ba ni sems can rnam par ma dag pa
rnams rnam par dag par bya ba dang
| 366a1
復有。三種證淨。未清淨者。能令清淨。

rnam par dag pa rnams yongs su
byang bar bya ba'i phyir te | 366a2
已清淨者。能令鮮白。

de las slob pa gong ma ni rnam par
dag pa ni ste | 366a2
當知此中。上諸有學。説名清淨。

bsgom pa'i lam gyis rnam par dag pa'i
slob pa de rnams kyi yin par rig par
bya'o | 366a2
下諸有學。名不清淨。彼由修道。未清淨故。

lhag ma ni snga ma bzhin no | 366a3
餘如前説。

94 第630經参照。

(636)⁹⁵

1. 如是我聞。一時

是の如く我聞けり。一時、

2. 佛住巴連弗邑鷄林精舍。

佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。

3. 爾時世尊告諸比丘。

爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

4. 當爲汝説。修四念處。何等爲修四念處。

當に汝が爲に四念處を修するを説くべし。何等をか四念處を修すると爲す。

5. 若比丘如來應等正覺明行足善逝世間解無上士調御丈夫天人師佛世尊出興于世。

若し比丘、如來・應・等正覺・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊の世に出興し、

6. 演説正法。上語亦善。中語亦善。下語亦善。善義善味。純一滿淨。梵行顯示。

正法を演説するに、上語も亦た善く、中語も亦た善く、下語も亦た善く、善き義・善き味、純一滿淨にして、梵行顯示す。

7. 若族姓子。族姓女。從佛聞法。得淨信心。如是修學。見在家和合。欲樂之過。煩惱結縛。

若し族姓子・族姓女、佛に従い法を聞けば、淨心の心得て、是の如く、修學し、在家の和合は欲樂の過ち、煩惱の結縛なりと見、

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme.

3. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

4. *caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ* vo bhikṣavo *bhāvanāṃ* deśayiṣyāmi.5. (SBV II 230)⁹⁶ iha bhikṣavo loka utpadyate tathāgato 'rhan samyaksaṃbuddhaḥ vidyācaraṇasaṃpannaḥ sugato lokavid anuttaraḥ puruṣadamyasārathīḥ śāstā devamanuṣyāṇāṃ buddho bhagavān.

6. sa dharmaṃ deśayati, ādau kalyāṇaṃ madhye kalyāṇaṃ paryavasāne kalyāṇaṃ svarthaṃ suvyamjanaṃ kevalaṃ paripūrṇaṃ parīsuddhaṃ paryavadātaṃ brahmacaryaṃ prakāśayati

7. (SBV II 231); (Śbh I 16)⁹⁷ ihaikaṭyas kulaputro vā kuladuhitā vā tathāgatasya vā tathāgatasyāntikād dharmaṃ śrutvā śraddhāṃ pratilabhate. sa tāṃ pratilabhya, idaṃ pratisaṃśikṣate. saṃbādho gṛhāvāso rajasāṃ āvāsaḥ.

95 SN.47.3, Bhikkhu (V pp.142-144).

96 = Piṅgalātreyā sūtra 2.1~3.1前半が対応。Lita Peipina, *The Piṅgalātreyā sūtra of the (Mūla)sarvāstivādins, its edition and study: investigation of the Piṅgalātreyā sūtra's status within the Dīrghāgama "Collection of Long (Discourses of the Buddha)"*. Oslo, 2008.

97 (I)-A-II-4-b-(3) Ms.2b3M, Sh.8-15, W.*61-8, P.5b4, Ch.397a7.

8. 樂居空閑。出家學道。不樂在家。處於非家。欲一向清淨。盡其形壽。純一滿淨。鮮白梵行。

空閑に樂居し、出家して道を學び、在家を楽しまず、非家に處し、一向に清淨ならんと欲し、其の形壽を盡くすまで、純一滿淨にして、鮮白梵行ならん。

9. 我當剃除髮鬚。著袈裟衣。正信(T2,176b)非家。出家學道。

我れ當に髮鬚を剃除し、袈裟衣を著け、正信もて非家に出家し、道を學ぶべし。

10a. 作是思惟已。即便放捨錢財親屬。剃除鬚髮。著袈裟衣。正信非家。出家學道。

是の思惟を作し已え、即便ち錢財・親屬を放捨し、鬚髮を剃除し、袈裟衣を著け、正信もて非家に出家し、道を學び、

10b. 正其身行。護口四過。正命清淨。

其の身行を正し、口の四過を護り、正命清淨にして、

11. 習賢聖戒。⁹⁸守諸根門。護心正念。眼見色時。不取形相。

賢聖の戒に習い、諸の根門を守り、心を護り正念にして、眼の色を見る時、形相を取らず、

8. (SBV II 231) abhyavakāśaṃ ca pravrajyā; tad idaṃ na sukaraṃ gṛhiṇā agāraṃ adhyāvasatā ekāntaśaṅkhalikhitaṃ, yāvajjīvaṃ kevalaṃ paripūrṇaṃ paśuddhaṃ paryavadātaṃ; brahmacaryaṃ caritaṃ;

9. (SBV II 232) yannv ahaṃ keśaśmaśrūṇy avatārya kāśāyāni vastrāṇy ācchādya samyag eva śraddhayā agārād anagārikāṃ pravrajeyam;

10a. (SBV II 232) sa idaṃ pratisaṅkhyāya prabhūtaṃ vā alpaṃ vā dhanaskandhaṃ prahāya prabhūtaṃ vā alpaṃ vā jñātiparivartitaṃ prahāya keśaśmaśrūṇy avatārya kāśāyāni vastrāṇy ācchādya samyag eva śraddhayā agārād anagārikāṃ pravrajati.

10b. Cf. (SBV II 232) ...
sa mṛṣāvādaṃ prahāya ...
pāruṣyaṃ prahāya ...
paśūnyāt prativirato bhavati.
sambhinnapralāpāt prativirato bhavati.

11. (SBV II 240) so 'nena āryeṇa śīlaskandhena samanvāgataḥ adhyātmam anavadyasukhaṃ prativedayate;
sa indriyair guptadvāro bhavati;
nipakasmṛtir guptasmṛtimānasah sahāvasthāvacāraḥ;
sa cakṣuṣo rūpāṇi dṛṣṭvā na nimittagrāhī bhavati;
nānuvyañjanagrāhī;

Cf. (AKvy 81) cakṣuṣā rūpāṇi dṛṣṭvā na nimittagrāhī bhavati
nānuvyamjanagrāhī viṣṭaraḥ.

98 Cf. 釋惠敏「戒律與禪定」『中華佛學學報』第6期, 1993, pp.31-54.

8. (Śbh I 16) abhyavakāśaṃ pravrajya,

9. (Śbh I 16) yan nv ahaṃ

10a. (Śbh I 16) sarvaṃ kaṭatravargaṃ
dhanadhānyahiranyaṃ cotsrjya
svākhyāte dharmavinaye samyag
evāgārād anagārikāṃ pravrajeyam,

10b. (Śbh I 16) pravrajitvā ca
pratipattiyā sampādayeyam" iti |

11. (Śbh I 16)⁹⁹ sa tam eva
śīlasaṃvaram niśrityāraṅkṣitasmr̥tir
bhavati nipakasmr̥tiḥ
smr̥tyāraṅkṣitamānasah
samāvasthāvacārah |
sa cakṣuṣā rūpāṇi dṛṣṭvā na
nimittagrāhī bhavati,
nānuvyaṃjanagrāhī;

Cf. (PSP 5:146) cakṣuṣā rūpāṇi dṛṣṭvā
na nimittagrāhī bhavati
nānuvyaṃjanagrāhī bhavati,

【VS 4.6(1) 漸次 (rim pa)】

dran pa nye bar gzhag pa bzhi bsgom
pa la ni rim pa Inga yod par rig par
bya'o | 366a3

復次。修四念住。應知略有。五種漸次。

7-9. dad pa'i sgo nas nges par 'byung
ba dang | 366a3

一。信增上力清淨出家。

10. tshul khriṃs bsdam pa dang |
366a4

二。戒律儀。

11-14. dbang po bsdam pa dang |
366a4

三。根律儀。

15. rab tu dben par gnas pa dang |
366a4

四。樂遠離。

16. sgrib pa rnam par dag pa'o | 366a4

五。蓋清淨。

khyim pa rnams ni dran pa nye bar
gzhag pa bsgom pa la dad pa yang
yod, sgrib pa yang rnam par dag mod
bslab pa'i gzhi rnams ma tshang zhing
yongs su ma rdzogs par rig par bya'o |
366a4

諸在家者。雖復數數。修諸念住。獲[←
護]得淨信。諸蓋清淨。然闕學處。
當知所修。不得圓滿。

99 (I)-A-II-4-b-(6) Ms.2b6L, Sh.9-13, W.*61-20, P.6a3, Ch.397a19.

Cf. Śbh II 180 [-II-12-b-(1)-i-(c) Ms.85a6M, Sh.292-15, P.132b1, Ch.440a23].

tatra smr̥tyāraṅkṣā yathoktaṃ pūrvam ev"āraṅkṣitasmr̥tir bhavati nipakasmr̥tir" iti | tatra
viśayāsaṃkleśāya | yathoktaṃ "smr̥tyāraṅkṣitamānasah samāvasthācārako" "na nimittagrāhī
nānuvyaṃjanagrāhī"

12. 若於眼根。住不律儀。世間貪憂。
惡不善法。常漏於心。
若し眼根に於いて不律儀に住すれば、世
間の貪憂・惡不善法、常に心より漏る。

13. 而今於眼起正律儀。耳鼻舌身意。
起正律儀。亦復如是。
而るに今、眼に於いて正律儀を起こし、
耳・鼻・舌・身・意に正律儀を起こすも
亦復た是の如くにして、

14. 彼以賢聖戒律成就。善攝根門。
來往周旋。顧視屈伸坐臥眠覺。語默
住智正智。
彼れは賢聖の戒律の成就せるを以て善く
根門を攝し、來往周旋・顧視屈伸・坐臥
眠覺・語默し、智に住し智を正す。

12. (SBV II 240) yato 'dhikaraṇam eva
caḥsurindriyeṇa asaṃvarasaṃvṛtasya
viharataḥ abhidhyādurmanasye loke
pāpakā akuśalā dharmāś cittam
anusravanti;

13. (SBV II 240) teṣāṃ saṃvarāya
pratipadyate; rakṣati caḥsurindriyaṃ;
caḥsurindriyeṇa saṃvaram āpadyate;
śrotrendriyeṇa śabdān ghrāṇendriyeṇa
gandhān jihvayā rasān kāyena
spraṣṭavyāni manasā dharmān vijñāya
na nimittagrāhī nānuvyañjanagrāhī;

13b. (SBV II 240) yato 'dhikaraṇam
eva manaindriyāsaṃvarasaṃvṛtasya
viharataḥ abhidhyādurmanasye loke
pāpakā akuśalā dharmāś cittam
anusravanti; teṣāṃ saṃvarāya
pratipadyate; rakṣati manaindriyaṃ;
manaindriyeṇa saṃvaram pratipadyate

14. (SBV II 241) so 'nena āryeṇa
śīlaskandhena samanvāgataḥ anayā ca
indriyaguptadvāratayā adhyātmam
anavadyasukhaṃ saṃvedayate; so
'tikramapratikrame saṃprajānavihārī
bhavati; ālokitavyavalokite
samiñjitaprasārīte
saṃghāṭipātracīvaradhāraṇe gate sthite
niṣaṇṇe śayite jāgarite bhāṣite
tūṣṇīmbhāve nidrāklamaprativinodane
saṃprajānavihārī bhavati;

12. (Śbh I 16) yato 'dhikaraṇam asya
pāpakā akuśalā dharmās cittam
anusraveyuh,

13. (Śbh I 18) teṣāṃ saṃvarāya
pratipadyate, rakṣati cakṣurindriyam,
cakṣurindriyeṇa saṃvaram āpadyate. sa
śrotreṇa śabdān, ghrāṇena gandhān,
jihvayā rasān, kāyena spraṣṭavyāni,
manasā dharmān vijñāya na
nimittagrāhī bhavati
nānuvyañjanagrāhī,

13b. (Śbh I 18) yato 'dhikaraṇam asya
pāpakā akuśalā dharmās cittam
anusraveyuh, teṣāṃ saṃvarāya
pratipadyate, rakṣati mana-indriyam,
mana-indriyeṇa saṃvaram āpadyate.

14. (Śbh I 20)¹⁰⁰ samprajānadvihāritā
katamā | sa tathā jāgarikānuyukto
'bhikramapratikrame samprajānadvihārī
bhavati, ālokitavyavalokite
saṃmiñjitaprasārite
sāṃghāṭicīvarapātradhāraṇe
'śitapīṭakhāditasvādite
nidrāklamavinodane gate sthite niṣaṇṇe
śayite jāgrte bhāsite tūṣṇīmbhāve
samprajānadvihārī bhavati | iyaṃ
ucyate samprajānadvihāritā ||

12. Cf. (PSP 5:146) yathāvikaraṇam
evaṃ cakṣurindriyeṇāsaṃvarasaṃvṛtaṃ
viharantam abhidhyādaurmanasyāḥ
pāpakā akuśalā dharmās cittam
anuśraveyuh,

13. Cf. (PSP 5:146) teṣāṃ saṃvarāya
pratipadyate rakṣati cakṣurindriyam.
evaṃ śrotreṇa śabdān śrutvā, ghrāṇena
gandhān āghrāya, jihvayā rasān
āsvādya, kāyena spraṣṭavyam sprṣṭvā,
manasā dharmān vijñāya na
nimittagrāhī bhavati,
nānuvyañjanagrāhī bhavati,

13b. Cf. (PSP 5:146) yathāvikaraṇam
evaṃ manaindriyenāsaṃvarasaṃvṛtaṃ
viharantam abhidhyādaurmanasyāḥ
pāpakā akuśalā dharmās cittam
anuśraveyuh, teṣāṃ saṃvarāya
pratipadyate, rakṣati manaindriyam.

14. Cf. (PSP 5:146) sa gacchann api
tiṣṭhann api niṣaṇṇo 'pi śayāno 'pi
bhāsamāno 'pi tūṣṇībhūto 'pi
samāhitāvasthāṃ na jahāti na vijahāti,

100 (I)-A-II-4-b-(9) Ms.3a3M, Sh.11-10, W.*62-34, P.6b7, Ch.397b16.

15. 彼成就如此聖戒。守護根門。正智正念。寂靜遠離。空處樹下。閑房獨坐。正身正念。繫心安住。彼れは此の如き聖戒を成就し、根門を守護し、正智・正念もて寂靜にして遠離し、空處の樹下の閑房に獨坐す。正身・正念にして、

16. 斷世貪憂。離貪欲。淨除貪欲。斷世瞋恚睡眠掉悔疑蓋。離瞋恚睡眠掉悔疑蓋。淨除瞋恚睡眠掉悔疑蓋。心に繋けて安住し、世の貪憂を斷じ、貪欲を離れ、貪欲を淨除し、世の瞋恚・睡眠・掉悔・疑蓋を斷じ、瞋恚・睡眠・掉悔・疑蓋を離れ、瞋恚・睡眠・掉悔・疑蓋を淨除し、

17. 斷除五蓋惱心慧力羸諸障閼分。不趣涅槃者。五蓋の惱を斷除す。心慧力の羸き諸の障閼分の、涅槃に趣かざる者は、

18. 是故内身身觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。如是外身内外身。受心法。法觀念住。亦如是說。是れ故に、内身の身觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、是の如く、外身・内外身・受・心・法の法觀念に住するも亦た是の如く説く。

19. 是名比丘修四念處。是れを比丘の四念處を修すると名づく。

20. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行。佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

15. (SBV II 241) so 'nena āryeṇa śīlaskandhena samanvāgataḥ anayā ca indriyaguptadvāratayā anena ca parameṇa smṛtiśamprajanyena samanvāgataḥ prāntāni śayanāsanāny adhyāvasati arāṇyāni vṛkṣamūlāni śūnyāgārāṇi; so 'raṇyagato vā vṛkṣamūlagato vā śūnyāgāragato vā niśīdati paryamkam ābhujya rjūṃ kāyaṃ prañidhāya pratimukhāṃ smṛtim upasthāpya;

16. (SBV II 241) so 'bhidhyāṃ loke prahāya vigatābhidhyena cetasā bahulaṃ viharati; abhidhyāyāś cittaṃ pariśodhayati; vyāpādastyānamiddham audhatyakaukrtyavicikitsāṃ loke prahāya tīrṇakāṅkṣo bhavati; tīrṇavicikitsākāṃkṣaḥ kuśaladharmeṣu vicikitsāyāś cittaṃ pariśodhayati.

17. (SBV II 242) evaṃ eva imāni paṃcavaṇāni prahāya prajñādaurbalyakarāṇi vighāṭapakṣyāṇy anirvāṇasaṃvartanīyāni.

18. MPS14.25(=MPS 10.14) *tasmād iha bhikṣur adhyātmaṃ kāye kāyānupaśyī viharaty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam.*

MPS10.14 bahirdhā kā)ye
'dhyātmabahirdhā kāye 'dhyātmaṃ
vedanāsu bahirdhā vedanāsv
(adhyātmabahirdhā vedanāsv
adhyātmaṃ citte bahirdhā citte
'dhyātmabahirdhā citte,
MPS10.14 adhyātmaṃ dharme)ṣu
bahirdhā dharmeṣv adhyātmabahirdhā
dharmeṣu dharmānupaśyī vi(haraty
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān
vinīyābhidhyā loke daurmanasyam.

19. *iti bhikṣavo caturṇāṃ smṛtyupasthānāṃ bhāvanā.*

20. *atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. abhinandyaṇumodya bhagavato 'ntikāt prākṛāntāḥ.*

15. Cf. (Śbh I 20)¹⁰¹ prāvivekyam
 katamat | sa ebhir dharmaiḥ
 parikarmabhūmiṃ śodhayitvā viviktāni
 śayanāsanāny adhyāvasaty aranyāni
 vṛkṣamūlāni śūnyāgārāṇi
 parvatakandaragiriguhāpalālapuṃjābhya
 vakāśaśmaśānavanaprasthāni prāntāni
 śayanāsanāni | idam ucyate
 prāvivekyam ||

16. Cf. (Śbh I 20)¹⁰² nivarāṇaviśuddhiḥ
 katamā | so 'raṇyagato vā
 vṛkṣamūlagato vā śūnyāgāragato vā
 pañcabhyo nivarāṇebhyaś cittam
 viśodhayati, kāmaccchandād vyāpādāt
 styānamiddhād audhhatyakaukrtyād
 vicikitsāyāḥ | sa ebhyo nivarāṇebhyaś
 cittam viśodhya vinivarāṇam
 samādhikalyatāyām avasthāpayati |
 iyam ucyate nivarāṇaviśuddhiḥ ||

17. Cf. (Śbh I 20)¹⁰³
 samādhisaṃniśrayaḥ katamaḥ |
 sa pañca nivarāṇāni prahāya cetasa
 upakleśakarāṇi saṃkleśakarāṇi |

101 (I)-A-II-4-b-(10) Ms.3a4M, Sh.12-4, W.*63-9, P.7a2, Ch.397b22.

102 (I)-A-II-4-b-(11) Ms.3a5L, Sh.13-1, W.*63-11, P.7a4, Ch.397b26.

103 (I)-A-II-4-b-(12)-(i),(ii),(iii),(iv) Ms.3a6L, Sh.14-1, W.*63-16, P.7a6, Ch.397c2.

(637)¹⁰⁴

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。

是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 當修四念處。如上廣說。差別者。乃至如是。

當に四念處を修すべし。上に廣說せるが如し。差別せば、乃至、是の如く、

3. 出家已住於靜處。攝受波羅提木叉律儀。行處具足。於細微罪。生大怖畏。受持學戒。

出家し已わり、靜處に於いて住し、波羅提木叉を攝受し、律儀行處を具足し、細微の罪に於いて大怖畏を生じ、學戒を受持して、

4. 離殺斷殺不樂殺生。乃至一切業跡如前說¹⁰⁵

殺すことを離れ、殺すことを斷じ、殺生を樂わず、乃至、一切の業跡は前に說けるが如く、

5. 衣鉢隨身。如鳥兩翼。如是學戒成就。修四念處。

衣鉢の身に隨うこと、鳥の兩翼の如く、是の如く、學戒成就し、四念處を修す。

6. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行

佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所說を聞きて、歡喜奉行せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāṇ cchrāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.

tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ vo bhikṣavo **bhāvanāṃ** deśayiṣyāmi.

(SBV II 232)

3. sa evaṃ pravrajitaḥ san śīlavān viharati; prātimokṣasaṃvarasamvṛtaḥ ācāragocarasampannaḥ aṇumātreṣv avadyeṣu bhayadarśi samādāpayati, śikṣate śikṣāpadeṣu;

(SBV II 232)

4. sa prāṇātipātāṃ prahāya prāṇātipātāt prativirato bhavati; nyastadaṇḍaḥ nyastaśastraḥ lajjī dayāvān sarvasatvaprañibhūteṣv antataḥ kuntapipīlakaprañinam upādāya prāṇātipātāt prativirato bhavati.

(SBV II 233)

5. yena yena prakrāmati sapātracīvaraḥ prakrāmati; tadyathā pakṣi śakunako yena yenoḍḍayate sapakṣaḥ sapalāśaḥ uḍḍayate;

6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.

104 SN.47.46, Pātimokkha (V pp.187-188).

105 第490經(卷18「弟子所說誦第四品」) 参照。Cf. Chung [IV-1]; SN 38. Jambukhādaka. 「閻浮車閻舍利弗。謂業跡。云何為業跡。舍利弗言。業跡者、十不善業跡、謂殺生、偷盜、邪淫、妄語、兩舌、惡口、綺語、貪欲、瞋恚、邪見」(T2. p.128, a16-18)

【VS 4.7 戒圓滿 (tshul khrimś phun sum tshogs)】

dge slong tshul khrimś dang ldan pa ni rgyu gsum gyis tshul bzhin du 'tsho ba phun sum tshogs pa yin bar rig par bya ste 當知 | 366a5

復次。由三因緣。具戒苾芻。當知禁戒。淨命圓滿。

gsum gang zhe na | 366a5
云何為三。

spyod pa phun sum tshogs pa dang | 366a5
一。所行圓滿。

len pa phun sum tshogs pa dang | 366a6
二。攝取圓滿。

longs spyod pa phun sum tshogs pa'o | 366a6
三。受用圓滿。

4. de la longs (D. omits) spyod pa phun sum tshogs pa ni nyo tshong nas bzung ste |
所行圓滿者。謂從買賣。乃至

gsod pa dang 'ching ba dang | gcod pa (atipāta) dang | rdeg pa lhur len pa'i bar du spong ba'o 遠離 | 365a6
害縛。斷截撻打。揣摩等事。皆悉遠離

Cf. (SBV II 233)
vadhābandhana-chedanātāḍana-parāmarśāt prativirato bhavati.

len pa phun sum tshogs pa ni glang bo che dang rta la sogs pa
攝取圓滿者。謂於攝取。象馬等事。

Cf. (SBV II 233) hastyaśvagaveḍaka-kukkuṭasūkarapratigrahāt prativirato bhavati.

len pa nas 'bras rjen pa len pa'i bar du spong ba'o | 365a7
乃至攝取。生穀等事。皆悉遠離。

Cf. (SBV II 233) āmadhānyapratigrahāt prativirato bhavati.

5. longs spyod pa 受用 phun sum tshogs pa 圓滿 ni lus 身 gang gi gos 衣 tsam 僅 dang |

受用圓滿者。謂衣僅蔽身。
Cf. (SBV II 233) sa kāyapārihārikeṇa cīvareṇa tuṣṭo bhavati saṃtuṣṭaḥ;

lto gang gi zas tsam gyis tshogs (D. chog) par 'dzin pa dang | 365a7
食纔充腹。便生喜足。

Cf. (SBV II 233) sa ekabhaktiko bhavati;
or (SBV II 233) kuṣṭipāriṇīkeṇa piṇḍapātikena tuṣṭo bhavati saṃtuṣṭo;

dus ma yin pa'i zas spong ba'o | 365a8
於餘長物非時食等皆悉遠離。

Cf. (SBV II 233)
sa rātryuparataḥ; viratotkālabhojanaḥ kālacārī kālacaryāyogam anuyuktaḥ;

(638)¹⁰⁶

1. 如是我聞。一時

是の如く我聞けり。一時、

2. 佛在王舍城迦蘭陀竹園。

佛は王舍城の迦蘭陀竹園に在りき。

3. 爾時尊者舍利弗。住摩竭提那羅聚(T2,176c)落。疾病涅槃。純陀沙彌瞻視供養。

爾の時、尊者舍利弗は摩竭提の那羅聚落に住し、疾病もて涅槃せり。純陀沙彌は瞻視し供養せり。

4. 爾時尊者舍利弗因病涅槃。時純陀沙彌供養尊者舍利弗已。取餘舍利。擔持衣鉢。到王舍城。

爾の時、尊者舍利弗は病に因り涅槃せり。時に、純陀沙彌は尊者舍利弗を供養し已わり、餘の舍利を取り、衣鉢を擔持し、王舍城に到り、

5. 擧衣鉢洗足已。詣尊者阿難所。禮尊者阿難足已。却住一面。白尊者阿難。

衣鉢を擧げ足を洗い已わり、尊者阿難の所に詣りて、尊者阿難の足に禮し已わり、却って一面に住し、尊者阿難に白せり。

6. 尊者當知。我和上尊者舍利弗已涅槃。我持舍利及衣鉢來。

「尊者、當に知るべし。我が和上、尊者舍利弗は已に涅槃せり。我れは舍利及び衣鉢を持ち來たりぬ」と。

7. 於是尊者阿難聞純陀沙彌語已。

往詣佛所。白佛言。

是に於いて尊者阿難は純陀沙彌の語るを聞き已わり、佛の所に往詣し、佛に白して言わく。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. bhagavān rājagṛhe viharati veṇuvane kalandakanivāpe | (NidSa 6.1)

3. tena khalu samayenāyusmāñ cchāriputto magadhesu viharati nāladagrāmake,

Cf. (Cīvaravastu = MSV II 123)

ābādhiko duḥkhito bāḍhaglānaḥ.

tasya bhikṣuṇā upasthānam kṛtam | tathāpi kālagataḥ |

Cf. SN.47.13 tena kho pana samayena,

āyasmā sārīputto magadhesu viharati

nālakagāmake. ābādhiko dukkhito

bāḍhaglāno. cundo ca samaṇuddeso āyasmato

sārīputtassa upaṭṭhāko hoti.

4. Cf. SN.47.13 atha kho āyasmā sārīputto

teneva ābādhena parinibbāyi. atha kho cundo

samaṇuddeso āyasmato sārīputtassa

pattacīvaraṃ ādāya, yena sāvatthi ... ,

5. rājagṛham anuprāptaḥ. atha cundaḥ

śramaṇoddeśaḥ pātracīvaraṃ

pratisamaya pāḍau prakṣālya

yenāyusmāñ ānandaḥ

tenopasaṃkrantaḥ;

upasaṃkramyāyusmantaḥ ānandasya

pāḍau śirasā vanditvā ekānte asthāt;

ekāntasthitaś cunda āyusmantam

ānandam idam avocat.

6. Cf. SN.47.13 "āyasmā bhante, sārīputto

parinibbuto. idam assa pattacīvaran" ti.

7. ... śrutvā ca punar yena bhagavāms

tenopasaṃkrantaḥ; ... bhagavantam idam

avocat:

Cf. SN.47.13 atha kho āyasmā ca ānando

cundo ca samaṇuddeso yena bhagavā ten'

upasaṃkramiṃsu. upasaṃkamitvā bhagavantaṃ

abhivādetvā ekamantaṃ nisīdiṃsu. ekamantaṃ

nisinno kho āyasmā ānando bhagavantaṃ etad

avoca:

106 [Chung V-28], SN.47.13, Cundo (V pp. 161-163). Cf.『生經』卷二「仏説舍利弗般泥洹經」(T3, 79b-80c)、『根本説一切有部毘奈耶雜事』卷十八(T24, 289c-290b)。

8. 世尊。我今舉體離解。四方易韻。持辯閉塞。

「世尊。我れ今、舉體離解し、四方に易韻し、持辯閉塞しぬ。

9. 純陀沙彌來語我言。和上舍利弗已涅槃。持餘舍利及衣鉢來。

純陀沙彌は來たりて我に語りて言わく。

『和上、舍利弗は已に涅槃せり。餘の舍利及び衣鉢を持ち來たりぬ』と。

10. 佛言。云何阿難。彼舍利弗。持所受戒身涅槃耶。定身慧身解脫身解脫知見身涅槃耶。阿難白佛言。不也世尊。

佛は言わく。云何が阿難、彼の舍利弗は受ける所の戒身を持ち涅槃せる耶。定身・慧身・解脫身・解脫知見身もて涅槃せる耶。阿難は佛に白して言わく。

「しからず、世尊」と。

11. 佛告阿難。若法我自知。成等正覺所說。謂四念處。四正斷。四如意足。五根。五力。七覺支八道支涅槃耶。

佛は阿難に告げたり。若しくは、法にして我れ自ら知り、成等正覺を成じ説く所の、謂わく、四念處・四正斷・四如意足・五根・五力・七覺支・八道支もて涅槃せる耶。

12a. 阿難白佛。不也世尊。雖不持所受戒身乃至道品法而涅槃。

阿難は佛に白せり。しからず、世尊。受ける所の戒身、乃至、道品の法を持たずして而して涅槃すと雖も、

8. Cf. SN.47.13 *api ca me bhante, madhurakajāto viya kāyo.*¹⁰⁷ *disāpi me na pakkhāyanti. dhammāpi maṃ na ppaṭibhanti. āyasmā sārīputto parinibbuto'ti sutvā'ti.*

9. Cf. SN.47.13 *"ayaṃ bhante, cundo samaṇuddeso evaṃ āha. āyasmā bhante, sārīputto parinibbuto, idam assa pattacīvaran"ti.*

10. (Śayanāsanavastu =MSV III 131) *śaikṣān dharmān aparipūrya śīlaskandhaṃ samādhiskandhaṃ prajñāskandhaṃ vimuktiskandhaṃ vimuktijñānadarśanaskandhaṃ paripūrayiṣyati nedaṃ sthānaṃ vidyate; vimuktijñānadarśanaskandhaṃ aparipūryānupādāya (Śay-v 10) parinirvāsyati nedaṃ sthānaṃ vidyate;*

Cf. SN.47.13 *kinnu kho te ānanda, sārīputto sīlakkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, samādhikkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, paññākkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, vimuttikkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, vimuttiñāṇa-dassanakkhandhaṃ vā ādāya parinibbutoti. na kho me bhante. āyasmā sīlakkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, samādhikkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, paññākkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, vimuttikkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, vimuttiñāṇadassanakkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto.*

12a. *nedaṃ sthānaṃ vidyate; śaikṣān dharmān aparipūrya śīlaskandhaṃ ... (see above 10)*

107 サンスクリットでは"diso me na pratibhā-"の句が仏典や『マハーバーラタ』に知られる。Divy 308.5, Mv 2.480; MBh 1.48.21. 4.41.16. See SWTF II p.441a, s.v. "2 diś-" f., nom.pl. DĀ(U.H.) Hs.178 Rb.

12b. 然尊者舍利弗持戒多聞。少欲知足。常行遠離。精勤方便。攝念安住。一心正受。

然も尊者舍利弗は戒を持し多く聞き、少欲知足にして、常に遠離を行じ、精勤し方便して、念を攝し安住し、一心に正受し、

13. 捷疾智慧。深利智慧。超出智慧。分別智慧。大智慧。廣智慧。甚深智慧。無等智慧。智寶成就。能視能教。能照能喜*善能讚歎。爲衆說法。

捷疾なる智慧、深利の智慧、超出の智慧、分別の智慧、大なる智慧、廣き智慧、甚深なる智慧、等しきもの無き智慧、智の寶成就し、能く視、能く教え、能く照らし、能く喜捨*[>善]し、能く讚歎し、衆の爲に法を説けり。

14. 是故世尊。我爲法故。爲受法者故。愁憂苦惱。

是れ故に、世尊、我れ法の爲の故に、法を受く者の爲の故に、愁憂し苦惱す。

15. 佛告阿難。汝莫愁憂苦惱。所以者何。若*坐若起若作有爲敗壞之法。何得不壞。欲令不壞者。無有是處。佛は阿難に告げたり。汝、愁憂し苦惱すること莫かれ。所以は何。若しくは生*[>坐]じ、若しくは起こり、若しくは作すも、有爲にして敗壞の法は、何ぞ壞れざるを得んや。壞れざら令めんと欲するも、是の處有ること無し。

12b. Cf. (PSP 4:44) punar aparaṃ ... alpecccho bhaviṣyati saṃtuṣṭaḥ pravivikta ārabdhavīrya upasthitasmr̥tiḥ samāhita ekāgracittāḥ prajñānān,

Cf. SN.47.13 *api ca bhante, āyasmā sārīputto ovādako ahoṣi, viññāpako sandassako samādapako samuttejako sampahaṃsako akilāsu dhammadesanāya, anuggāhako sabrahmacārīnaṃ.*

13. ¹⁰⁸ SHT IV 162 b R 6-9
+ + + (smṛtyu)_(R7)[pa]sthānāny=
(āse)[v](i)tāni bh(āvitāni ba)hulīkṛtāni
prajñāpra(t)i[ī]ā[bh]āya saṃvartante
katamāni ca[tv](āri) + + + + + + + +
+ + + + + + + + (īryā)(R8)pathā
prajñāpratīlābhāya (||
(bR7)prajñāvirū)ḍhaye ||
pra[jñ](āvr̥d)dh(a)[y](e) ||
prajñāvaipulyāya ||
[p](ra)jñāvyavadā[n]āya (||) (bR8)8 + + +
+ + + + + + + + + + + + + + + + +
(pra)_(bR9)jñāparipūraye ||
prajñāyā a + + + + + + [y]e ||
javanaprajñatāyai || + .. praj[ñat]ā(yai ||)

Cf. SN.47.13 *taṃ mayaṃ āyasmato sārīputtassa dhammojaṃ dhammabhogaṃ dhammānuggahaṃ anussarāmā'ti.*

15. MPS14.20 [mānan](da) śoca (<mā tasmāt tvam ānanda śoca) mā klāma || mā parideva || (<kasmād eva) tat kuta etal labhy(āy yat taj jātām bhūtam krtam samskr̥tam vedayi)taṃ pratītyasamutpannaṃ kṣayadharmāṃ vyayadharmāṃ vi(rodhadharmāṃ pralopadharmāṃ tad bata na pralopyate (<prarujyate)¹⁰⁹. nedam sthānam vidyate.
(SHT I 618 R 1-2)¹¹⁰

108 Cf.SĀ(Hos5): 道16, 35f.

109 "pralopyate," in SWBT 18. Lieferung, s.v. "pra-lup" (p.207).

110 SHT I 618の残存部分をアンダーラインで示し、MSPの還梵が異なる文は(<)の中に、SHT I 618にある語句は{ }内に収め。

Cf. AKBh 363, 12.

AK-up Hj [6046]¹¹¹ pp.748-751.

ming chen 'di na 'phags pa nyan thos
sangs rgyas la dad pa mi phyed pa
dang chos dang dge 'dun la dad pa mi
phyed par 'gyur zhing,

① shes rab che ba dang,

② shes rab myur ba dang,

③ shes rab rno ba dang,

④ nges par 'byung ba'i shes rab dang,

⑤ skyo ba'i shes rab dang,

⑥ rnam par grol ba'i shes rab dang

yang dag par ldan ba dang,

rnam par thar pa brgyad lus kyis

mngon sum du byas nas gnas shing

'di'i shes rab zag par lta ba yongs su

zad pa ste,

gzhan yang ming chen 'phags pa nyan
thos sangs rgyas la dad pa mi phyed
pa zhes bya ba nas,

chos dang dge 'dun la dad pa mi phyed
pa dang ldan zhing,

① mgyogs pa'i shes rab dang,

javanaprajñāḥ (mvyut_1103)

② myur ba'i shes rab dang,

āsuprajñāḥ (mvyut_1102)

③ rno ba'i shes rab dang,

tikṣṇaprajñāḥ (mvyut_1104)

④ nges par 'byung ba'i shes rab dang,

niḥsaraṇāḥ (mvyut_1201)

nyes par 'byung ba'i shes rab can **

niḥsaraṇaprajñāḥ (mvyut_1105)

⑤ skyo ba'i shes rab dang,

skyo ba ; udvegāḥ (mvyut_6811)

⑥ rnam par grol ba'i shes rab dang

shes rab kyis rnam par grol ba **

prajñāvimuktaḥ (mvyut_1027)

yang dag par ldan pa,

kun du sbyor ba gsum spangs shing

yongs su shes par gyur ba ste, 'di lta

ste,

'jig tsogs la lta ba dang, tsul khirms

dang, brtul zhugs mchog tu 'dzin pa

dang, the tsom mo ||

111 雜阿含33, 936 (T2.239c-240b); 別記雜阿含8, 160 (T2.434bc); SN55, 24 (vol. V, 375-377)

16. 我先已説。一切所愛念。種種諸物。適意之事。一切皆是乖離之法。不可常保。

我れ先に已に説きぬ。一切の愛念する所の種種の諸物・適意の事は、一切皆な是れ乖離の法にして、常に保つ可からず。

17. 譬如大樹根莖枝葉華果茂盛。大枝先折。

譬えば、大樹の根・莖・枝・葉・華・果の茂盛なるに、大枝先ず折れるが如く、

18. 如大寶山大巖先崩。

大寶山の巖が先ず崩るるが如く、

19. 如是如來大衆眷屬。其大聲聞

(T2,177a)先般涅槃。

是の如く、如來の大衆の眷屬にては其の大聲聞が先ず般涅槃せり。

20. 若彼方有舍利弗住者。於彼方我則無事。然其彼方。我則不空。以有舍利弗故。

若し彼方に舍利弗の住する有らば、彼方に於いては我れ則ち無事なり。然も其そ彼方に、我れ則ち空しからず。舍利弗有るを以ての故に。

16. MPS14.21 *pratiyatya eva* (<prāg eva¹¹² *bhikṣavo*) *mayā ākhyātam* (<mayākhyātam) *sarvair iṣṭaiḥ kāntaiḥ priyair manāpai(r nānābhāvo bhaviṣyati vinābhāvo viprayogo visamyogah.)* (SHT I 618 R 2-3)

17. NidSa 2.4 *tadyathā mahāvṛkṣasya mūlavataḥ skandhavataḥ sāravataḥ śākhāpattraphalopetasya yāni cādhogatāni mūlāni tāny tāny ūrdhvam ojam abhiharanti. evaṃ hi sa mahāvṛkṣas tadāhāras tadupādāno dīrgham adhvānam tiṣṭhati.*

19. Cf. SN.47.13 *evam eva kho ānanda, mahato bhikkhusaṅghassa tiṭṭhato sāravato sārīputto parinibbuto,*

112 "pratiyatya=eva," SWBT 18. Lieferung, s.v. "pratiyatya" (p.179).

21. ¹¹³我先已説故。汝今阿難。如我先説。所可愛念。種種適意之事。皆是別離之法。

我れ先に已に説けるが故なり。汝、今、阿難、我れ先に説けるが如く、愛念す可き所の種種の適意の事は、皆な是れ別離の法なり。

22a. 是故汝今莫大愁毒。

是れ故に、汝、今、大いに愁毒すること莫かれ。

22b. 阿難當知。如來不久。亦當過去。

阿難、當に知るべし。如來は久しからずして亦た當に過ぎ去るべきことを。

23. 是故阿難。當作自洲而自依。當作法洲而法依。當作不異洲不異依。是れ故に、阿難、當に自らを洲と作し、而して自らに依るべし。當に法を洲と作し、而して法に依るべし。當に異を洲とせず、異に依らざることを作すべし。

24. 阿難白佛。世尊。云何自洲以自依。云何法洲以法依。云何不異洲不異依。

阿難は佛に白せり。

世尊。云何が自らを洲として以て自らに依り、云何が法を洲として以て法に依り、云何が異を洲とせず異に依らざる。

21 MPS14.21 pratiyaṭy eva (<prāg eva bhikṣavo) mayā ākhyātam (<mayākhyātam) śarvair iṣṭaiḥ kāntaiḥ priyair manāpai(r nānābhāvo bhaviṣyati vinābhāvo viprayogo visamyogah.) (SHT I 618 R 2-3)

22a. Cf. MPS14.20 [mānan](da) śoca (<mā tasmāt tvam ānanda śoca) mā klāma || mā parideva || (SHT I 618 R 1-2)

22b. MPS14.22 tasmāt tarhy (<tasmād) ānanda etarhi (<ānandaitarhi) mam(a vā)tyayād. (SHT I 618 R 3)

23. MPS14.22 ātmadvīpair vihartavyam ātmaśaraṇair dharmadvīpair dha(rmaśaraṇair ananyadvīpair ananyaśaraṇaiḥ. (<(tat kasmād dhetoḥ.)) (SHT I 618 R 3-4)

[MSP14.23 (ye kecid ānanda etarhi (<ānandaitarhi) mama vāt)yayād ātmadvīpā {vihariṣyanti} ātmaśaraṇā dharmadvīpā dharmaśaraṇā ananyadvīpā a(nanyaśaraṇās te 'gram {iti [śrā]vak[ānām]} bhaviṣyanti yaduta (<(mama śr)āvaka(ānām)) śikṣākāmānām ||); (SHT I 618 R 4-5)

24. MPS14.24 (katham cānanda bhi)kṣ (u)r ātmadvīpo bhavaty ātmaśaraṇo dharmadvīpo dharmaśaraṇo 'nanyadvīpo 'nanyaśaraṇaḥ. (SHT I 618 R 5)

113 MPS 14.21-26 (27) cf. 細田[2006], 4-6.

25. 佛告阿難。若比丘。身身觀念處。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。如是外身内外身。受心法。法觀念處。亦如是説。

佛は阿難に告げたり。

若し比丘、身の身觀念處に精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、是の如く、外身・内外身・受・心・法の法觀念處にも亦た是の如く説く。

26. 阿難。是名自洲以自依。法洲以法依。不異洲不異洲依。

阿難。是れを自らを洲として以て自らに依り、法を洲として以て法に依り、異を洲とせず異に依らざると名づく。

27. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行

佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

25. MPS14.25 iha bhikṣur (a)dhy(ā)tm
(aṃ) kāy(e) kāyānupaśyī viha(raty)
ātāpī saṃprajāṇaḥ smṛtimā(n)
vinīyābhidyā loke daurmanasyam.
bahīrdhā kāye 'dhyātmabahīrdhā kāye
vedanāsu citta dharmeṣu dharmeṣu
dharmānupaśyī viharaty ...

26. MPS14.26 evaṃ hi bhikṣur
ātmadvīpo bhavaty ātmaśaraṇo
dharmadvīpo dharmāśaraṇo
'nanyadvīpo 'nanyāśaraṇaḥ.

27. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam
abhyānandan. *abhinandyaṇumodya bhagavato*
'ntikāṭ prakrāntāḥ.

(639)¹¹⁴

1. 如是我聞。一時

是の如く我聞けり。一時、

2. 佛住摩偷羅國跋陀羅河側傘蓋菴
羅樹林中。佛は摩偷羅國の跋陀羅河の側なる傘蓋菴
羅樹林の中に住せり。3. 尊者舍利弗。目犍連涅槃未久。
爾時世尊月十五日布薩時。於大眾前
敷座而坐。尊者舍利弗・目犍連、涅槃して未だ久し
からざりき。爾の時、世尊、月の十五日
の布薩の時、大眾の前に於いて、座を敷
きて而して坐せり。4. 爾時世尊觀察衆會已。告諸比丘。
爾の時、世尊は衆會を觀察し已わり、諸
の比丘に告げたり。5. 我觀大眾。見已虛空。以舍利弗
大目犍連般涅槃故。我聲聞。唯此二
人。我れ大眾を觀て、已に虛空なりと見れり。
舍利弗・大目犍連の般涅槃せるを以ての
故なり。我が聲聞にして、唯だ此の二人
は、

6. 善能說法教誡教授辯說滿足。

善能く法を説き、教誡し、教授し、辯說
滿足せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. bhagavān mathurāyāṃ viharati
nadyāḥ prabhadrikāyās tīre
cchatrāmravane¹¹⁵.3. ¹¹⁶ acirapari[ni](rvṛtayoḥ
śāriputramaudgalyānayoḥ.¹¹⁷ atha bhagavāṃs tad eva poṣadhe
paṃcadaśyāṃ purastād
bhikṣusamghasya prajñapta evāsane
niṣaṇṇaḥ |4. niṣadya bhagavān bhikṣūn
āmantrayate.5. Cf. SN.47.14 *api ca khvāyaṃ bhikkhave,
parisā suññā viya khāyati parinibbutesu
sāriputtamoggallānesu,
asuññā me sā bhikkhave, parisā hoti
anapekhā tassaṃ disāyaṃ hoti, yassaṃ
disāyaṃ sāriputtamoggallānā viharanti.*ATH(I) 5 fragm. a(Mz681)
verso2-4(translit. in: TTT VIII, Text
A [T II S52] lines 3(3) śāstu¹¹⁸.
śrāvākāv¹¹⁹ abhūtām.6. Cf. SN.47.14 *acchariyaṃ bhikkhave,
sāvakānaṃ abbhutaṃ bhikkhave, sāvakānaṃ
satthusaṃānā ca sāsanakarā bhavissanti
ovādatikarā catunnaṃ ca parisānaṃ piyā
bhavissanti manāpā garubhāvanīyā ca.*

114 Cf. SN.47.14, Ceḷam (V pp. 163-165).

115 {MS chatrāpravane} 八尾[2013] p.568 n.4.

116 SWTF I Nachträge p470b., s.v. acirapari[ni](rvṛta).

117 Poṣ-v 65.1.

118 1) lies śāstuḥ

119 2) lies śrāvākāv.

7. 有二種財。錢財及法財。錢財者從世人求。法財者從舍利弗大目犍連求。如來已離*施財及法財。

二種の財有り。錢財、及び法財なり。錢財は世人より求む。法財は舍利弗・大目犍連より求む。如來は已に世*[<施]財、及び法財を離れり。

8. 汝等莫以舍利弗目犍連涅槃故愁憂苦惱。

汝等、舍利弗・目犍連の涅槃せるを以ての故に、愁憂し苦惱すること莫かれ。

9. 譬如大樹根莖枝葉華果茂盛。大枝先折。

譬えば、大樹の根・莖・枝・葉・華・果の茂盛なるに、大枝先ず折れるが如く、

10. 亦如寶山大巖先崩。

亦た寶山の巖が先ず崩るるが如く、

11. 如是如來大衆之中。舍利弗。目犍連。二大聲聞。先般涅槃。

是の如く、如來の大衆の中には、舍利弗・目犍連の二大聲聞が先ず般涅槃せり。

12. 是故比丘。汝等勿生愁憂苦惱。

是れ故に、比丘、汝等、愁憂・苦惱を生ずること勿かれ。

7. AD 4 ad Sūtra 252¹²⁰ dve dāne | dharmadānam āmiśadānaṃ ca | Cf. (EĀ.Trip 33.101) dve dāne āmiśadānaṃ dharmadānaṃ ca.

8. See Sūtra 638.15 (MPS14.20)

9. NidSa 2.4 tadyathā mahāvṛkṣasya mūlavataḥ skandhavataḥ sāravataḥ śākhāpatraphalopetasya yāni cādhogātāni mūlāni tāny tāny ūrdhvam ojam abhiharanti. evaṃ hi sa mahāvṛkṣas tadāhāras tadupādāno dīrgham adhvānaṃ tiṣṭhati.

9-11. Cf. SN.47.14 seyyathā'pi bhikkhave, mahato rukkhassa tiṭṭhato sāravato ye mahantarā khandhā te palujjeyyūṃ, evam eva kho bhikkhave, mahato bhikkhusaṅghassa tiṭṭhato sāravato sārīputtamoggallānā parinibbutā.

12. Sūtra See 638.15. (MPS14.20)

120 sūtra uktam-"—" ... āmiśadānaṃ nānnapānaṃ | suvarṇādisvabhāvaṃ tat, avyākṛtatvāt | cf. AKBh.p.588

13. 何有生法・起法・作法・爲法。壊敗之法。而不磨滅。欲令不壊。無有(T2,177b)是處。

何ぞ生法・起法・作法・爲法・壊敗の法にして磨滅せざるもの有らんや。壊れざら令めんと欲するも、是の處有ること無し。

14. 我先已説。一切可愛之物。皆歸離散。我今不久亦當過去。

我れ先に已に説きぬ。一切の愛す可きの物は皆な離散に歸す。我れ今、久しからずして亦た當に過ぎ去るべし。

15. 是故汝等。當知自洲以自依。法洲以法依。不異洲不異依。謂内身身觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。如是外身内外身受心法。法觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。

是れ故に、汝等、當に知るべし。自らを洲として以て自らに依り、法を洲として以て法に依り、異を洲とせず異に依らざることを。謂わく、内身の身觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、是の如く、外身、内外身、受・心・法の法觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏す。

16. 是名自洲以自依。法洲以法依。不異洲不異依。

是れを自らを洲として以て自らに依り、法を洲として以て法に依り、異を洲とせず異に依らざると名づく。

17. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。

佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

[雜阿含經卷第二十四]¹²¹

13. MPS14.20 tat kuta etal labhy(am yat taj jātam bhūtam kṛtam saṃskṛtam vedayī)taṃ pratītyasamutpannaṃ kṣayadharmam vyayadharmam vi(rodhadharmam pralopadharmam tad bata na pralopyate (<prarujyate). nedam sthānam vidyate. (SHT I 618 R 1-2)

14. Cf. MPS14.21 pratiṇaty eva (<prāg eva bhikṣavo) mayā ākhyātam (<mayākhyātam) sarvair iṣṭaiḥ kāntaiḥ priyair manāpai(r nānābhāvo bhaviṣyati vinābhāvo viprayogo visamyogah.) (SHT I 618 R 2-3)

15. MPS14.23 ... ātmadvīpair vihartavyam ātmaśaraṇair dharmadvīpair dha(r)maśaraṇair ananyadvīpair ananyaśaraṇaiḥ.

MPS14.25 iha bhikṣur (a)dhy(ā)tm(am) kāy(e) kāyānupaśyī viha(raty) ātāpī saṃprajāṇaḥ smṛtimā(n) vinīyābhidhyā loke daurmanasyam. bahirdhā kāye 'dhyātmabahirdhā kāye 'dhyātmaṃ vedanāsu bahirdhā vedanāsv adhyātmabahirdhā vedanāsv adhyātmaṃ citte bahirdhā citte 'dhyātmabahirdhā citte 'dhyātmaṃ dharmeṣu bahirdhā dharmeṣv adhyātmabahirdhā dharmeṣu dharmānupaśyī viharaty ātāpī saṃprajāṇaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam.

16. MPS14.26 evaṃ hi bhikṣur ātmadvīpo bhavaty ātmaśaraṇo dharmadvīpo dharmaśaraṇo 'nanyadvīpo 'nanyaśaraṇaḥ.

17. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.

121 本来の「雜阿含經卷第二十五」は失われたが、残余の念處相應經に対する「摂事分」の記事[VS 4.8-9]を「声聞地」の関連箇所とともに、639a, 639bとして次頁に挙げる。細田[2003]参照。

(639a*) 【VS 4.8 穗 (gra ma)】
lus la sogs pa'i chos bzhi ni lam gyi
bzhi mdo lta bu'o | 365a8
復次身等四法。如**四大路**。

de dag la tshul bzhin ma yin pa yid la
byed pa ni 'bras dang nas kyī gra ma
bsnyal te | gzhag pa lta bu'o | 365a8
於彼所生。非理作意。如邪祈願。**稻穀麥穗**。

de dag la tshul bzhin yid la byed pa
ni 'bras dang nas kyī gra ma legs par
bzhag pa lta bu yin par rig par bya'o
| 366b-1
於彼所生。如理作意。如正祈願。**稻穀麥穗**。

'dod pa'i khams mnyam par ma bzhag
pa'i sa ni pags pa lta bu'o | 366b-1
當知**欲界**。是不定地。猶如其皮。

gzugs dang gzugs med pa'i khams
mnyam par bzhag pa'i sa ni sha lta
bu'o | 366b-1
色無色界。俱是定地。猶如其肉。

ma rig pa'i khams gsum du zag pa
gsum gyi zag par 'gyur ba'i don gyis
khrag lta bu'o | 366b-2
無明如**血**。於三界中。由三種漏。有
淋漏義。

Cf. SN.47.50 (Āsavasuttaṃ, cf. SA 1228)

1 tayo'me bhikkhave āsavā. katame tayo:
kāmāsavo bhavāsavo avijjāsavo. ime kho
bhikkhave, tayo āsavā.

2 imesaṃ kho bhikkhave, tiṇṇannaṃ
āsavānaṃ pahānāya cattāro satipaṭṭhānā
bhāvetabbā.

8 imesaṃ kho bhikkhave, tiṇṇannaṃ
āsavānaṃ pahānāya ime cattāro satipaṭṭhānā
bhāvetabbāti.

(Śbh II 66)¹²² yat punar āha. yānena
śivapathikā dṛṣṭā bhavati |
apagata-tvañ-māṃsa-śoṇita-snāyūpaniba
ddhe"ty anena vilohitakam ākhyātam |
若復說言由**憺怕路**見彼彼屍。離皮肉血筋
脈纏裹。此即顯示所有變赤。(p. 429b13-14)

(Śbh II 194)¹²³
tatra caturṇām viparyāsānām
pratipakṣeṇa bhagavatā **catvāri**
smṛtyupasthānāni vyavasthāpitāni |
又為對治四顛倒故。世尊建立**四種念住**。
謂為對。(p.441c6-7)

Cf. NidSa 23.11b
kim āsraṇā yathābhūtaṃ prajānāti |
traya āsraṇāḥ |
kāmasraṇa bhavāsravaḥ 'vidyāsravaḥ |
ima āsraṇāḥ | evaṃ āsraṇā
yathābhūtaṃ prajānāti |
云何有病如實知。謂三病。欲病。有病。
無明病。是名病。如是病如實知。
(p.94c18-20)

AKBh 306,2 (V. 34)
eta eva anuśayāḥ **sūtre bhagavatā**
traya āsraṇā uktāḥ -- kāmasraṇaḥ,
bhavāsravaḥ, avidyāsrava iti |

AK-bh(Pā)[387] 306,13-15 (V. 35)
prakaraṇeṣu ca uktam.
bhavāsravaḥ katamaḥ | avidyām
sthāpayitvā yāni tadanyāni
rūpārūpyapratisaṃyuktāni |
saṃyojanabandhanānuśayopakleśaparya
vasthānānīti |

『品類足論』卷6 「欲漏云何。謂除欲界繫
無明 諸餘欲界繫 結縛隨眠 隨煩惱纏
是名欲漏。」(T26. 717b16-18)

『大毘婆沙論』卷48 「品類足說。云何欲
漏。謂欲界除無明諸餘結縛隨眠隨煩惱纏。
是名欲漏乃至廣說。」(T27, 248b18-20)

122 -II-3-b-(1)-ii-(b)-1'-2'-3'-4' Ms.72b1R, Sh.205-20, Ch.429b6

123 -II-12-b-(1)-v-(d) Ms.87a2L, Sh.303-4, W.*98-5, P.137b2, Ch.441c6.

(Śbh II 194)

tatrāśucau śucīti viparyāsapratipakṣeṇa
kāyasmṛtyupasthānaṃ vyavasthāpitam
 | tathā hi bhagavatā
 kāyasmṛtyupasthānabhāvanāyām
 aśubhāpratisamyuktāś **cataśrah**
śivapathikā deśitāḥ, yā asya bahulaṃ
 kurvan manasikurvataḥ, aśucau śucīti
 viparyāsaḥ prahīyate |
 治於不淨中計淨顛倒。立**身念住**。以佛世
 尊於循身念住中宣說不淨相。應**四憺怕路**。
 若能於此多分思惟。便於不淨斷淨顛倒。
 (p.441c7-10)

tatra duḥkhe sukham iti
 viparyāsapratipakṣeṇa
vedanāsmṛtyupasthānaṃ
 vyavasthāpitam | vedanāsu
 vedanānudarśi viharan "yat kimcid
 veditam idam atra duḥkhasye"ti
 yathābhūtaṃ prajānāti, evaṃ asya yo
 duḥkhe sukham iti viparyāsaḥ sa
 prahāyate |
 為欲對治於諸苦中計樂顛倒。立**受念住**。
 以於諸受住循受觀。如實了知諸所有受皆
 悉是苦。便於諸苦斷樂顛倒。(p.441c10-13)

tatra anitye nityam iti
 viparyāsapratipakṣeṇa
cittasmṛtyupasthānaṃ vyavasthāpitam
 | tasya sarāgādicittaprabhedena teṣāṃ
 teṣāṃ rātrimdivasānām atyayāt
 kṣaṇalavamuhūrtānām anekavidhānām
 bahunānāprakāratām (Śbh II 196)
 cittasyopalabhya yo 'nitye nityam iti
 viparyāsaḥ sa prahīyate |
 為欲對治於無常中計常顛倒。立**心念住**。
 以能了知有貪心等種種差別。經歷彼彼日
 夜刹那。瞬息須臾非一衆多種種品類心生
 滅性。便於無常斷常顛倒。(p.441c13-17)

tatrānātmany ātmeti
 viparyāsapratipakṣeṇa
dharmasmṛtyupasthānaṃ
 vyavasthāpitam |
 tasya yeṣāṃ ātmaḍṣṭyādikanām
 saṃkleśānām sadbhāvad yeṣāṃ
 anātmaḍṣṭyādikanām kuśalānām
 dharmānām asadbhāvāt skandheṣv
 ātmaḍarśanaṃ bhavati, nānyasya,
 svalakṣaṇataḥ sāmānyalakṣaṇataś ca
 dharmān dharmānudarśino yathābhūtaṃ
 paśyataḥ, yo 'nātmany ātmeti
 viparyāsaḥ sa prahīyate ||
 為欲對治於無我中計我顛倒。立**法念住**。
 由彼先來有有我見等諸煩惱故。無無我見
 等諸善法故。於諸蘊中生起我見。以於諸
 法住循法觀。
 如實了知所計諸蘊自相共相。便於無我斷
 我顛倒。(p.441c17-22)

(639b*) 【VS 4.9 成就 (Idan pa)】
rnam pa gnyis kyis sngar bstan pa'i
chags pa la sogs pa sdig pa mi dge
ba'i chos rnam pa du ma dang ldan pa
ni dran pa nye bar gzhag pa bzhi
bsgom pa'i skal ba med de | 366b-2
復次。如先所說。所有貪等。種種無
量 惡不善法 由二因緣 若成就者
不能修習。四種念住。

ldan pa gang yang thams cad du skal
ba med pa ni ma yin 非 no | 366b-3
非是一切。汎成就者。

gnyis gang zhe na | 366b-3
云何為二。

chags pa la sogs pa'i kun nas dkris pa
yang yod pa dang | 366b-3
一。有貪等纏。現前故。

kun nas dkris pa de yang nyes dmigs
su mi lta ba ste | 366b-4
二。於此纏。不見過故。

(Śbh II 184)
tatra sarāgaṃ cittaṃ yad rañjanīye
vastuni **rāgaparyavasthitam** |
vigatārāgaṃ yad
rāgaparyavasthānāpagatam |
sadveṣaṃ yad dveṣanīye vastuni
dveṣaparyavasthitam | vigatadveṣaṃ
yad dveṣaparyavasthānāpagatam |
tatra saṃmohaṃ yan mohaniye vastuni
mohaparyauasthitam | vigatamohaṃ
yad mohaparyavasthānāpagatam |
又有貪心者 謂於可愛所緣境界貪纏所纏。
離貪心者。謂即遠離如是貪纏。
有瞋心者。謂於可憎所緣境界瞋纏所纏。
離瞋心者。謂即遠離如是瞋纏。
有癡心者。謂於可愚所緣境界癡纏所纏。
離癡心者謂即遠離如是癡纏。(p.440, c5-10)

(639b*) 【VS 4.9 成就 (Idan pa)】

mngon sum du gyur pa na ni sems kun
nas nyon mongs pa can du gyur pas
bsgom pa'i skal ba med la bral bar
gyur ba na, yang dang yang du dang
du len pa'i tshul can yin pa dang |

366b-4

纏現在前。雜染心故。不能修習。雖
暫遠離。性染著故。

mi lta bar mi byed pa'i phyir chags pa
la sogs pa'i gnas kyi chos rnams la
sems rnam par g-yeng bar 'gyur zhing
'phrog par 'gyur la rtog pas rnam par
dkrug par 'gyur te | 366b-5

非無戀故。於能隨順貪等諸法。其心
散動。常逐漂淪。種種尋思。恒隨擾
亂。

de'i phyir yang bsgom pa'i skal ba
med do | 366b-6

是故不能。修習念住。

de lta ma yin te | gal te gang la la dang
du mi len pa'i tshul can yin du zin
kyang skal ba med na ni de lta na su
la yang dran pa nye bar gzhas pa bzhi
bsgom pa'i skabs med par 'gyur ro |
366b-6

若不爾者。諸有其性。不深染著。皆
應不能。修習念住。若如是者。無容
有能。修四念住。